

2024（令和6）年度 事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

目次

01 法人	1
02 垂穂寮	12
03 やまばと希望寮	15
04 わかば(もくれん含む)	19
05 みぎわ	25
06 ケアセンター花もも	27
07 ケアセンター野ばら	30
08 ケアセンターかたくりの花	33
09 ワークセンターカサブランカ	36
10 ワークセンターコスモス	40
11 ワークセンターなのはな	43
12 ワークセンターあさがお	46
13 ワークセンター希望の家(ふれあい含む)	49
14 ワークセンターやまばと	55
15 ワークセンターさくら	59
16 ケアセンターマーガレット	63
17 レタスクラブ	66
18 生活支援センターやまばと	69
19 聖ルカホーム(ショートステイ含む)	73
20 グレイス	79
21 相寿園	83
22 デイサービスセンター真菜	86
23 デイサービスセンターすずらん	90
24 ライフサポートさふらん	94
25 居宅介護支援事業所シャローム	98
26 牧之原市地域包括支援センターオリーブ	101
27 コミュニティセンターぶどうの木	104
28 付属明細書	107

2024（令和6）年度 法人全体 事業報告

社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園

A 総括

私どもの歩みを守り導いてくださった神様と、多くの方々のご支援を頂いて、2024 年度もつつがなく事業を進めることができ感謝である。残念な出来事もあったが、失敗から、今後の歩みのための知恵を学んでいきたい。感染症に関しては、コロナによるクラスターだけでなく、インフルエンザ感染によるクラスターも発生したが、職員たちの努力により重篤な状況に陥ることなく終結させることができた。「人材の確保と育成」に関しては、新卒者は1名だけだったが、外国人ワーカーの採用に力を入れ、ミャンマーからの特定技能「介護」生4名、インドネシアからのEPA生2名を受け入れた。従来は専ら介護施設で受け入れてきたが、本年からは障害者支援施設（垂穂寮）でも初めてEPA生を受け入れることになった。幸い、お互いに気持ちよく働くことができている。一方、9月から始動した「やまばと第一次中長期計画」は、幾つかのこと、例えば、「事務に関する内部監査」や、「施設における簡単な建物チェック」を実現させたが、「有機的なつながりのある計画の進め方」といった点では課題を残している。事業に関しては、年度末をもって活動終結となった事業所が二つある。一つは、「ワークセンターコスモス」で、45年間の通所作業所としての役割を終え、次年度からは「生活介護」に種別変更する。また、牧之原市から委託の介護予防事業所「コミュニティセンターぶどうの木」も、市の申し出により、18年間続いた活動を終えることになった。（詳しくは、C-5、C-6を参照）。様々の状況変化により福祉活動も影響を受けるが、そういった変化に関わらず、これからも、助けを必要とする人々に寄り添い、安心や喜びをもたらす務めを着実に果たしていきたい。

B 2024 度牧ノ原やまばと学園の事業概要

- 1 評議員、理事、監事の氏名と任期（アイウエオ順・敬称略）
【評議員】（9名。任期は4年。2021年6月～2025年6月の定時評議員会）
池上千穂、太田雅子、柴田敏、杉本正、外岡潤、田島逸雄、早川ひろみ、山城厚生、渡辺紀久子
（メンバーの変更あり：2024年10月4日、久田則夫の退任に伴い太田雅子を選任）
【理事】（7名。下線は理事長。任期は2年。2023年6月～2025年6月定時評議員会）
姉崎弘、大石幸、佐々木炎、長澤道子、平井章、松田正幸、三浦賀世
（メンバーの変更なし）
【監事】（2名。任期は2年。2023年6月～2025年6月定時評議員会）
飯塚誉之、松浦隆雄
（メンバーの変更なし）
- 2 評議員会や理事会等の開催数
評議員会：計2回（定時評議員会と、書面による会議1回）
理事会：計5回（対面の理事会4回と、書面による理事会1回）
監事監査：業務監査も会計監査も、各2回実施
開催日時や内容等は、添付資料「事業報告B-2」に記載したので、参照のこと。
- 3 2024年度実施の事業、種別、責任者名、職員数等（2025年3月31日時点）：
計画に挙げた通りの事業を実施した。各施設の責任者名等は「事業報告B-3」に記載。
- 4 2024年度に実施した研修：添付資料「事業報告B-4」に記載したので、参照のこと。
- 5 2024年度末牧ノ原やまばと学園 職員状況：総数は428名（2025年3月31日時点）
（注）パ・利用者とは、就労継続A型事業所の利用者で、法人の職員としても雇用された人。

	正規職員	準 職	嘱託	パート	パ・利用者	非正規・計	職員総数 428 名
男性 (人数)	72	6	4	27	11	48	120
女性 (人数)	108	17	7	174	2	200	308
平均年齢(才)	48.4	51.8	51.8	59.5	45.2	57.7	53.8
平均勤続年数 (年)	12.5 男 12.9 女 12.2	9.8 男 10.5 女 9.5	8.5	7.8 男 8.5 女 7.7	5.1	7.9	9.8

★改正女性活躍推進法に定められた「把握すべき項目」は、下記のような内容になった。
 全労働者中、女性労働者の割合は 71.9 %、 男女の平均勤続年数は、表に記した通り。
 管理職に占める女性労働者の割合は、54 %、 (男性 11 名、女性 13 名) (診療所除く)

C 2024 年度の大きな出来事 (時系列に記載) ◆は、年度初めには予定しなかった事。

1 外国人ワーカーの増加

8月～9月にミャンマーからの特定技能「介護」生(女性)が2名ずつ、聖ルカホームとグレイスに着任、12月にはインドネシアからのEPA生(女性)2名が垂穂寮で働くことになった。この時点で、外国人スタッフは最多の計12名に。言葉の理解がまだ十分でない人もいるが、業務内容は問題なく「丁寧な対応」という評価を得ている。

2 「やまばと第一次中長期計画」が9月から始動

6グループ(経営、人材、支援、研修、建物・環境、地域社会)に分かれて検討。具体化したこととしては、「事務に関する内部監査の実施」、「施設における簡単で定期的な建物チェックの実施」、「相談員の交流会」、「行政関係者から学ぶ会」等。

3 最賃の大幅アップに伴い「給与規程」改正に着手、次年度から実施に。(11月～) ◆

静岡県 lowest賃金が984円から1,034円になったため、「給与規程」改正に着手。顧問社労士・小山先生の協力を得て経営会議で改正案作成(公休日は108日→115日に)、理事会で可決された。財源は処遇改善加算に加え、法人からも1000万円ほど拠出。

4 垂穂寮で虐待行為発生(心理的虐待、身体的虐待) (2025年1月30日) ◆

内容：夜勤明けの職員が、利用者の尿失禁に腹を立て「だからトイレへ誘ったのに」と叱り、「バカ」と発言。頭部を1回小突いたもの。(垂穂寮事業報告書を参照。)

法人の「懲罰委員会」：本人と垂穂寮関係者を呼んで事実を再確認。本人からは「感情が先走って、間違ったことをした」との反省とお詫びの言葉があった。／処分：「譴責」(始末書を取り猛省を促す)／②職員評価をCとし、直近の賞与額(6月)は、0.8%、5月の特定処遇改善加算支給はナシ。③3ヶ月後に再度、「支援員としての思い」という報告書を提出。その後の様子を見守るなど。

私たちの思い：「二度と虐待行為を起こしてはならない」と皆で努力していただけない、再びこのような事態が発生したことに対し、関係者は全員、衝撃と悲しみを覚えた。が、現在(2025年5月)、本人からは「1からやり直しています。皆に助けってもらって有難いです」との感想が届いた。施設を訪れると、穏やかな雰囲気が感じられ、ご利用者に安心感があるので、少しずつよい方向に向かっていると推測できる。職員間だけでなく、施設間の交流も深め、全体でともに成長していけるよう努めたい。

5 「コスモス」は、就労継続B型事業所の活動を終結、新事業のため改修工事開始

利用者の高齢化等もあり、「ワークセンターコスモス」は作業所としての45年間の役割を終え、次年度からは「生活介護」に種別変更、名称も「ケアセンターコスモス」に変わる。それに備えて老朽化した建物の改修に着手した(2月～来年5月の工事)。

- 6 介護予防事業所「コミュニティセンターぶどうの木」、18年の活動を終結 ◆
 牧之原市から委託された介護予防事業は、利用者が減少し、市から「短時間デイを社協運営のデイサービスに移したい」との提案があった。こちらも同じ思いだったので、年度末をもって、「ぶどうの木」の活動を終結することにした。もう一つの事業（啓発事業）は引き続き依頼され、今後は「聖ルカホームが担当」する。

D 2024 年度事業計画に対する評価（事業計画に記載された順に報告）

1 理念の学びと、それに基づいた実践について

- (1) 「人権尊重で特色づけられる職員集団になる」という目標は、一つの施設で虐待が発生したため頓挫したが、この目標を後退させることなく進めていきたい。
- (2) 聖書にふれる機会としては、以下のようなものがあった：
- ①新年度研修やオリエンテーションの機会に、礼拝を実施。
 - ②施設管理者会で、しばしば理事長が「聖書的な価値観」に関してお話。
 - ③理事長から全職員へ全体メールで「聖句とメッセージ」を送信（週1回以上）。
 - ④施設では、理事長からのメッセージや、長澤巖前理事長の文、佐々木炎理事の著書等を職員会で読むなどするところもあったが、施設間でばらつきがあった。
- ★定款には「キリスト教精神に立って事業を行う」とあり、その内実化のためには、現状を改善する必要があると思われる。
- (3) ほぼ全施設が「サービス提供指針」を支援方針として活用している。

2 「サービス内容向上のための計画」に関する評価

診療所を除く 28 の事業所が、下記のように回答した。

○は「良い」、△は「まあまあ」、×は「不可」の意味。

計画内容	○	△	×	
①利用者本位のサービスを提供	17	10	0	本部は非該当で回答ナシ
②原則として同性介助を実施	9	9	4	本部、レタス、相談等、5事業所が非該当
③ご利用者支援等の発表の時を増やす	2	13	12	本部は非該当で回答ナシ
④家族や…からの良い評価を発表し共有	3	9	16	「機会がなかった」との回答あり
⑤苦情対応（委員会開催、事例検討、公表）	28	0	0	苦情解決委員会を定期的に開催。苦情もやや減少？
⑥小さな……、虐待行為根絶に努力	23	5	0	
⑦職員を…研修に参加させ事故防止に努力	17	9	2	「×」は、「あさがお」と「生活支援」
⑧身体拘束状況の改善に努めている	23	1	0	本部、生活支援、包括、シャロは 非該当

★全体としては、○と△が多かった。△→○になることが望ましい。

★「×」の多かった項目 ③ と ④は、質問の意味を違って受けとめられた恐れあり。
 法人がその機会を提供しなかったためとも言えるので、今後、改善していきたい。

★計画の継続に関しては、ごく少数者から、③④に関して「中止」の回答があった。

3 「専門性」と「やさしさ」をもった人材の育成

<専門性> 施設の内外で多くの研修があり、専門性を高める機会は多くあったと言える
 <やさしさ> 人材育成のため、次のようなことをした。①心を養う機会として聖書にふれる機会を提供。②何かにつけ「職場で互いに助け合うよう」奨励。③施設では、挨拶の励行、感謝カードを渡す、レクレーションや誕生祝いを行うなど。

4 外国人ワーカーも含めた人材の確保・育成・支援

- (1) 特定技能生やEPA生の受入れは前述の通り。双方に実りがあるよう努める必要あり。
- (2) 「学校訪問」等は、中長期計画の「人材」グループが検討することになった。
- (3) 実習生やボランティアが出入りする事業所では、応募につながる対応をした。
- (4) 定着率に関する調査を十分しなかったもので、今後の課題にしたい。

5 障害者部門と高齢者部門の事務統一検討会と、ICT 活用による連絡体制の構築

- (1) 実状を調査し仕事の統一と標準化、改善に努めた。内部監査の実施にも至った。
- (2) タブレット等の導入は進んだが、ICT 化による円滑な意思疎通はできなかった。

6 地域とのつながりを深める

- (1) 地域に対する公益的取組：下記のような活動を行った。(事業所名はアイウエオ順)
 - ①低所得者への利用料負担軽減 (グレイス、聖ルカ、真菜)
 - ②食糧支援活動 (本部と真菜を中心にして、ほぼ全事業所が協力)
 - ③サロン参加者への送迎協力 (希望寮、生活支援センター、本部、真菜、WoC やまばと)
 - ④サロン内容の企画と実施に協力 (グレイス、すずらん、シャローム)
 - ⑤住民の買物支援のため、施設車両の貸し出し (垂穂寮、野ばら、みぎわ)
 - ⑥島田市清掃活動ニコニコクリーン大作戦に参加 (あさがお等、島田市内の殆どの事業所)
 - ⑦地域の清掃活動 (かたくりの花、なのはな、もくれん、レタスクラブ、わかば)
 - ⑧地域交流事業 (喫茶ほとりでの交わり、ランチ配り、不登校児との交流等) へ参加 (希望の家、ふれあい、カサブランカ、みぎわ、なのはな)
 - ⑨その他 (地域のお年寄りを行事へ招く、体操教室、小学生のパン作り体験等々)
 - (2) 地域福祉推進のため実施した事業や活動
 - ①「包括支援センターオリーブ」(高齢者)と「生活支援センターやまばと」(障害者)
 - ②「ぶどうの木」(介護予防)と、レタスクラブ(心を病む人の居場所)
 - ③牧之原市の養護老人ホーム「相寿園」の指定管理事業
 - ④介護者の集いの開催 (真菜)
 - ⑤インフォーマルなサービスを提供 (前述/喫茶ほとりと連携した地域交流事業)
 - (3) 地域への発信：フェイスブックやインスタを活用してPRする事業所が増えた。
 - (4) オリーブ祭り：別の地域で活動する機会が多く、こちらは開催されなかった
- ## 7 第一次中長期計画(やまばと未来計画)に、9月から着手
- 「C 2024 年度の大きな出来事」に記載したので、参照のこと。

D 労務環境改善のための計画

1 一般事業主行動計画

- (1) 当年度も有給休暇の消化/育児休暇取得の奨励/ノー残業デーを目指した。
- (2) 年間 有給休暇 取得状況 (2024 年度)

100%～90%	90%未満～75%	75%未満～60%	60%未満～50%	50%未満
オリーブ (100%)、 WoC やまばと、さくら、 花もも、マーガレット レタスクラブ	あさがお、カサブ ランカ、希望寮、さ ふらん、真菜、みぎ わ	希望の家、聖ルカ、すずらん 生支センター、垂穂寮、 野ばら、本部、ぶどうの木、 ふれあい、わかば	かたくり、グレイス 相寿園、なのはな、	シャローム (25%) もくれん (43%)

- (3) 育児休暇・介護休暇取得状況：

- ①育児休暇取得：相寿園、グレイス、さふらん、カサブランカ (利用者)、各 1 名
- ②介護休暇取得：聖ルカホーム 1 名

- 2 労務関連の学び：育児介護休業法の学び (講師は顧問社労士小山圭子先生)
- 3 アンケートの実施：給与規程改正に先立ち全職員の要望を聞き、改正に役立てた。
- 4 職員への相談担当者：相談に来るものは少なく、「専門家を」との要望もある。
- 5 シニアワーカーの実態把握と環境整備：次年度の宿題として、持ち越された。

E リスク対応

- 1 有事に機能する防災計画と訓練

- (1) 全体防災訓練：「電気や水道が使えない」との想定で実際に停止して訓練した。
- (2) 防災研修：作成した BCP と実際の防災対応を学ぶ（講師は鈴木俊文先生）
- (3) 「原発災害避難計画」：行政から新しい情報はなく、法人の計画も不十分。
- (4) ハザードマップの確認と防災対策：多くの事業所が危険個所を確認・訓練した。
- (5) 安否コールシステム：月 1 回以上活用し訓練した。別の方法を求める声もあり。

2 感染対策

マスク着用や手洗い等、予防に努めたが、感染者が出た。感染者ゼロの施設は、レタス、生活支援センター、さふらん、シャロームのみ。下表は、クラスター発生状況

事業所名	コロナ	インフルエンザ	事業所名	コロナ	インフルエンザ
垂穂寮	10 名	53 名	みぎわ	6 名	—
希望寮	11 名	—	さくら	—	8 名
聖ルカ	7 名	—	ふれあい	6 名	—
相寿園	12 名	32 名		—	—

3 サイバー攻撃やシステムダウン等に対する対策

- (1) データ消失対策：バックアップ対応の施設が多いが、対策なしの施設もあり。
- (2) 安易に添付ファイルを開かない：この姿勢が十分でない施設も少数あった。
- (3) ウィルス等の最新情報を周知徹底：最新情報は法人から全体へ伝える必要あり。

F 施設整備や環境整備に関する計画（100 万円以上の修繕や改装など）

事業所名	実施内容と費用	事業所名	実施内容と費用
垂穂寮	風棟トイレ改修 設計 1,980 千円 工事 22,000 千円	聖ルカホーム	介護記録支援ソフト 8,838 千円 排泄支援機器 1,045 千円
希望寮	トイレ扉交換 1,040,000 円 非常灯バッテリー 1,091,200 円 給湯ポンプ交換 2,291,300 円	コスモス (2 月～5 月 建物改修)	本年度の工事費 5,500 千円 設計費 455 万円。／（総工事費は、税込み 44,880,000 円）
なのはな	外壁塗装工事 1,309,千円	真菜	シャワーキャリー 1,770 千円
かたくりの花	駐車場整備 3,450 千円	すずらん	車両購入 1,895,820 円
グレイス	介護記録支援ソフト 6,160 千円	—	—

G 寄付金、収支状況、並びに、借入金返済計画

- 1 本年度の寄付金：本部：8,902,486 円、事業所計：2,464,526 円

総額 11,367,006 円でした。感謝してご報告します。

- 2 収支状況：ぎんもくせいの委託事業終了に伴う収益減、人件費減 → 差額はプラスに。

<事業活動>	決算	前年比	<貸借対象表>	決算	前年比
サービス活動収益	2,121,133	－50,159	現金預金	870,212	12,538
サービス活動費用	2,103,152	－61,000	積立金	995,414	39,900
〃 増減差額	17,980	10,840	設備資金借入金	412,258	－20,773

<資金収支>当期末支払資金残高 1,049,178 千円（前年比 46,826 千円 増）

3 借入金償還計画

2014 年以来、静岡銀行と島田掛川信用金庫から長期借入の融資を受けていた聖ルカホームは、2024 年 9 月と 10 月に、10 年目の切替時期を迎え、2 金融機関と融資条件を

更新した。WoC なのはなも含めて、全体の借入金返済状況は、下記の通り。

拠点区分	借入先	借入金残高	1年以内償還額	利率	返済期間(借入開始)
なのはな	静岡銀行	53,300 千円	3,120 千円	1.058(変動)	25 年 (2017 年)
聖ルカ	静岡銀行	67,282 千円	3,444 千円	0.851(変動)	30 年 (2014 年)
聖ルカ	島掛信用金庫	312,697,520 円	14,457,434 円	1.100(固定)	30 年 (2014 年)

H 主務官庁との関連 (行政等の監査について簡単に報告、実施の年月日順)

消防署立入検査：花もも、4月14日、特に指摘ナシ、希望寮 2025年3月19日、指摘なし

県運営指導：相寿園、11月5日、文書指摘(事故報告書記録の未整備など)

聖ルカホーム & さふらん(2025年1月31日) 2施設とも特に指摘ナシ

希望寮 2025年3月25日、特に指摘ナシ

牧之原市運営指導：すずらん、7月2日、特に指摘なし

オリーブ、7月23日、文書指摘(ハラスメント対策の周知徹底)

県中部保健所立入検査：WoCやまばと、2025年2月12日、口頭指導(更衣室の設置)

I 実習生やボランティアの受け入れ、学校との連携

1 恵泉女学園中高校生:生徒19名と教師2名が訪れ各施設で奉仕と交流(7/27~29)

2 大学との連携強化:各施設では、実習生受入、教職者による研修、交流を行った。

J その他

1 機関紙「やまばと」の発行:計画通り、隔月に発行した。

2 ホームページ:新しい形になり、HPを通して求職活動する者もいた。

3 チャットやフェイスブック等によるPR活動:各事業所で実施した。

4 牧ノ原やまばと学園 運営のための会合や委員会:実施状況は、下記の通り

新しい会合として、9月から開始の、第一次中長期計画(やまばと未来計画)がある。

開催日・回数	名称	参加者	内 容
毎月 2 回	経営会議	理事長、6名の部長	施設運営に関する審議・決定
毎月 1 回	管理者会議	理事長、事務局長、施設長、事務長	施設間の情報共有、意見交換
毎月 1 回	三部門の部会	3部門に分かれ、各部長と各施設長	3部門:高齢者部/作業就労部/生活ケア部
2ヶ月1回以上 (各グループが決定)	第一次中長期計画 (やまばと未来計画)	6グループ(各グループには、部長、施設長、副施設長、主任(選定))	経営、人材、支援、研修、建物・環境、地域の、各テーマについて検討・計画
毎月 1 回	研修委員会	理事長、管理者、研修委員	新年度研修の企画と実施
毎月 1 回	編集委員会	理事長、管理者、編集委員	機関紙内容について企画
年2回	全体防災委員会	理事長、管理者、防災委員	防災対策、訓練計画、情報共有
年2回	苦情解決委員会	理事長、管理者、苦情解決委員	第三者委員も出席/苦情の学び
年2回	事故防止委員会	理事長、管理者、事故防止委員	事故の検証と予防対策
年2回	全体虐待防止委員会	理事長、管理者	2月、7月、施設管理者会にて。
年2回	事務合同検討会	理事長、事務局長、事務長、事務主任	2部門合同、年間予定や、業務の確認
年1~2回	全体事務連絡会	事務局長、2部門の事務長、事務員	事務に関する情報共有、連絡
隔月	栄養士会	部長、栄養士	各施設の給食状況、目標設定
開催なし	看護師会	理事長、部長、看護師	感染防止、健康管理など情報共有

(以 上)

1 理事会

開催日	出席者（内、ZOOM 参加者）数		議 案
	理 事 （定数は 7 名）	監 事 （定数は 2 名）	
2024 年 5/25	7 名（2）	2 名（0）	監事監査報告について/2023（令和 5）年度事業報告（案）並びに決算（案）/給与規程 第 35 条、処遇改善に関する名称の変更、並びに支給算定方法について/パートタイマー等の就業規則、第 31 条（賃金）の変更について/技能実習「介護」生の宿舍の件、並びに宿舍規程変更の件/二つの管理者人事について/定時評議員会の招集について
2024 年 9/14	6 名（1）	2 名（0）	監事監査報告に対する回答について/評議員候補者 1 名の推薦について/評議員選任・解任委員会の招集について/2024 年度第 1 次補正予算案について/パートタイマー等の時給アップと就業規則の変更/最低賃金アップに伴う正規職員の基本給アップと、手当の一律加算、並びに、給与規程の変更について/静岡銀行による聖ルカホームへの融資条件と、切替日の回答について/ワークセンターコスモス建物改修工事、及び、入札指名委員会への決定権付託について/牧ノ原やまばと学園第一次中長期計画の実施について/島田掛川信用金庫による聖ルカホームへの融資条件と、切替日の回答について
2024 年 10/24 （書面）	7 名（0）	2 名（0）	島田掛川信用金庫による聖ルカホームへの融資条件と、切替日の回答について/みぎわ別棟における共同生活援助事業の廃止と、「定款別表：建物 10 番」を職員宿舍へ用途変更する件、並びに、それに伴う定款変更について/第 2 回評議員会開催、並びに、決議の省略について
2024 年 12/14	7 名（2）	2 名（0）	定期監事監査報告について/2024 年度第 2 次補正予算案について/2024 年末と、2025 年度における管理者人事について
2025 年 3/15	6 名（2）	2 名（0）	2025 年度に関する役員賠償責任保険の契約について/定期監事監査報告に対する回答について/相寿園の改善指導事項に対する是正・改善計画について/相寿園拠点区分前期末支払資金残高の取崩しについて/診療所拠点区分積立金の目的外使用について/2024 年度第 3 次（最終）補正予算案について/2025 年度当初予算の相寿園拠点区分積立金の目的外使用について/2025 年度事業計画案、予算案について/就業規則の改定（公休日数や勤務時間の変更など）/経理規程の変更について/給与規程の変更について/パートタイマー等の就業規則の変更について

II 評議員会

開催日	出席者（内、ZOOM 参加者）数		議 案
	評議員 （定数は 9 名）	説明役員	
2024 年 6/15	8 名（5）	理事 1 監事 2	2023（令和 5）年度事業報告、並びに、計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録承認の件
2024 年 11/14 （書面）	9 名（0）		みぎわ別棟における共同生活援助事業の廃止と、「定款別表：建物 10 番」を職員宿舍へ用途変更する件、並びに、それに伴う定款変更について

III 評議員選任解任委員会

開催日	出席者（内、ZOOM 参加者）数		議 案
	委員 （定数は 4 名）	説明役員	
2024 年 10/4	4 名（0）	理事 1	評議員の選任について

（完）

2024 年度牧ノ原やまばと学園／活動内容や在籍者数、責任者名等

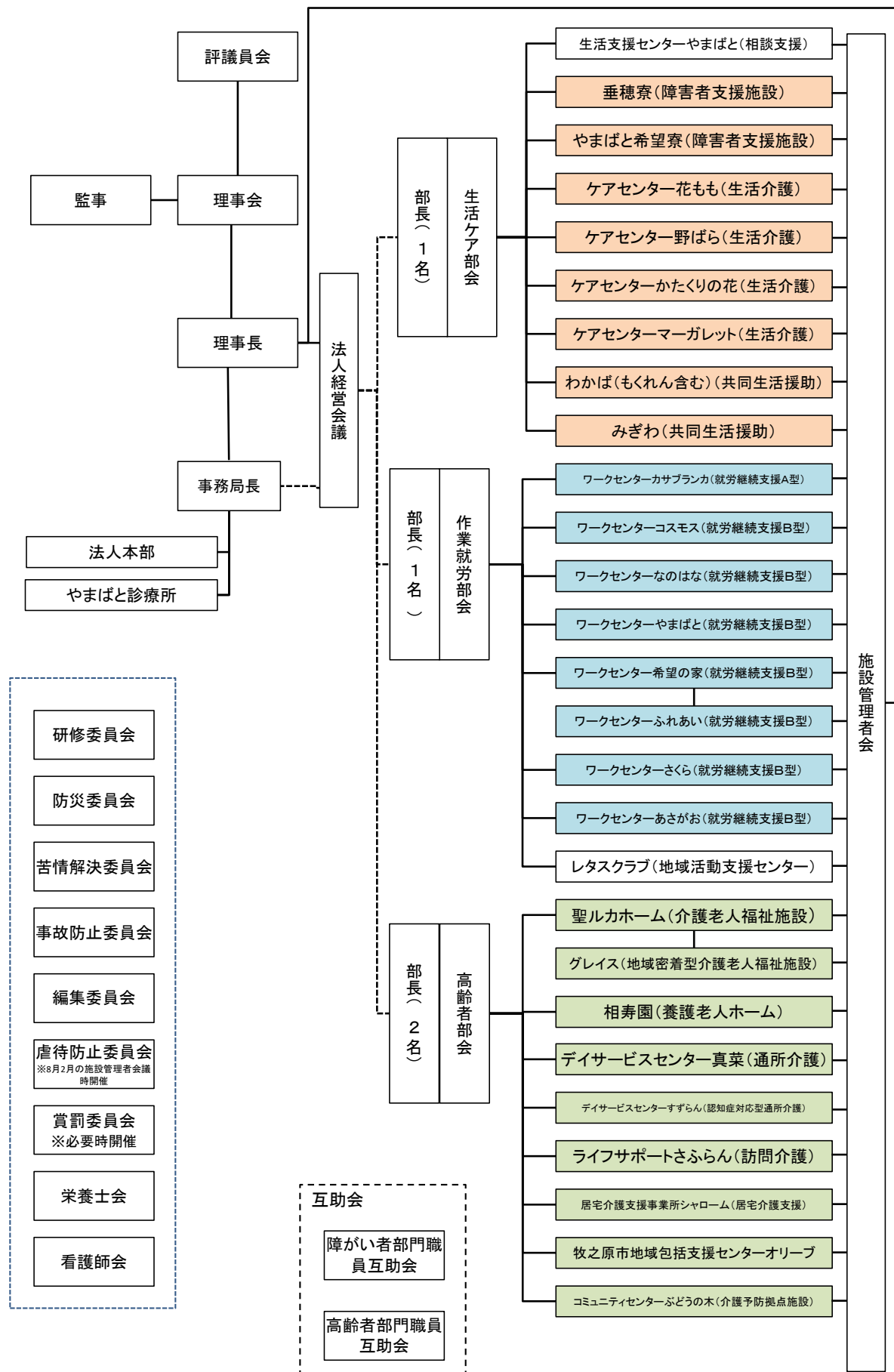
(2025 年 3 月末時点)

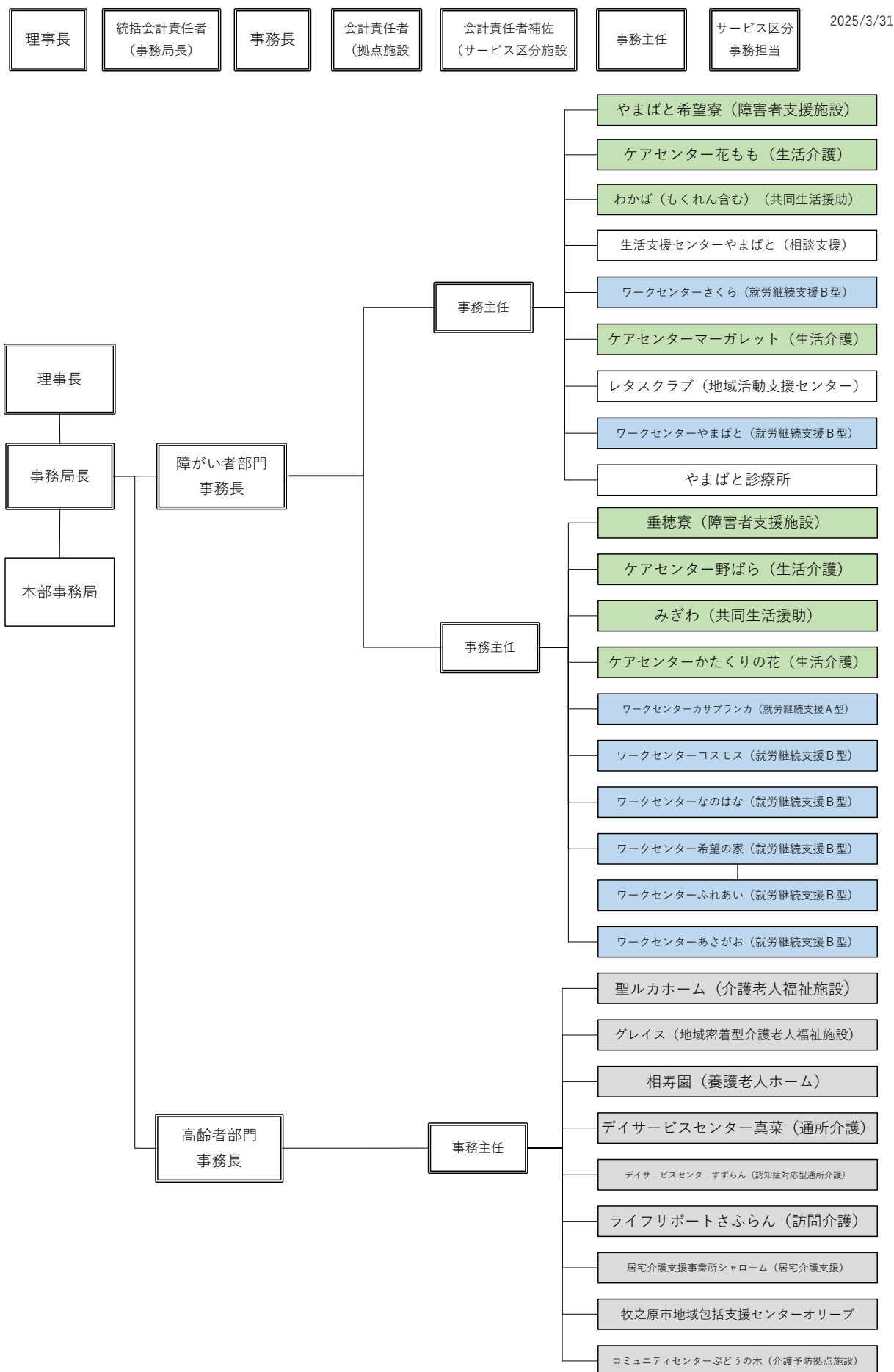
事業所名	責任者名	内容や種別	定員	在籍	職員
本部事務局	板倉 仁	事務・財務の統括			4
やまばと希望寮	大畑 彰弘	障害者支援施設	30	30	30
垂穂寮	石川 忠昭	〃	50	41	44
ケアセンター野ばら	石川 忠昭	生活介護	20	20	13
ケアセンター花もも	桑原 裕子	〃	20	19	12
ケアセンターかたくりの花	渡邊 千恵子	〃	20	20	15
ケアセンターマーガレット	田澤 岳大	〃	20	18	11
レタスクラブ	河本 敦子	地域活動支援事業		不特定	2
ワークセンターカサブランカ	澤渡 繁	就労継続支援 A 型	15	13	★5+13
ワークセンターやまばと	鈴木 千春	就労継続支援 B 型	20	18	8
ワークセンターコスモス	森山 規子	〃	20	14	11
ワークセンターなのはな	西村 美恵子	〃	30	27	12
ワークセンターあさがお	石神 知之	〃	20	19	10
ワークセンターさくら	河本 敦子	〃	20	14	7
ワークセンター希望の家	原 絵梨	〃（主たる事業所）	20	21	6
ワークセンターふれあい	原 絵梨	〃（従たる事業所）	20	13	4
みぎわ	杉山 勝拓	共同生活援助	10	10	10
わかば	高杉 和成	〃	10	10	10
もくれん	高杉 和成	〃	10	10	13
生活支援センターやまばと	大畑 彰弘	相談支援事業			8
聖ルカホーム	大石 幸	特別養護老人ホーム	70	70	69
〃 短期入所	大石 幸	特養短期入所部門	10		
グレイス	片山 喜之	地域密着型特養ホーム	29	29	31
相寿園	柴田 慎也	養護老人ホーム	50	26	26
デイサービスセンター真菜	吉田 陽子	通所介護	39	日替り	17
すずらん	米山 千穂	認知症対応通所介護	12	日替り	9
地域包括支援センターオリーブ	松田 正幸	調査、相談、権利擁護等			10
コミュニティセンターぶどうの木	鈴木 ひろみ	介護予防拠点施設		日替り	2
ライフサポート さふらん	大石 幸	訪問介護事業			12
居宅介護支援事業所シャローム	栗林 真弓	ケアプラン作成所			2
やまばと診療所	赤堀 由砂	保険医療機関			2
合 計 →				447	428

★ カサブランカご利用者（13 名）は、本部と雇用契約を結んでおり、職員としても計上。

★ 「ぶどうの木」の受託は 2024 年度で終了。

★ 「コスモス」の種別を 2025 年度から生活介護に変更。





職員育成のための研修

- 対象は法人職員 ● 各事業所で実施した研修や外部研修は除く、

日時	研修名	講師	内容	参加者数
4月 1日	第1回新入職員オリエンテーション	理事長 長澤道子 他 6名	創立の精神や歴史、就業規則等の学び	11
4月 12日	決算業務研修	はぎわら事務所 萩原信宏氏	決算実務にあたり注意することなど	20
4月 22日	新任管理者研修	理事長 長澤道子 事務長 山本瑞	初任管理者として必要な基礎知識の習得	4
4月 20日	新年度全体職員研修（基調講演）	慈愛園前理事長 潮谷義子 氏	「誰もが生き生きと喜びをもって働くために」	100
7月 11日	新任管理者研修	理事長 長澤道子 事務長 山本瑞	初任管理者として必要な基礎知識の習得	2
8月 6日	管理者研修（法律）	顧問弁護士 外岡潤 氏	「虐待・身体拘束及びBCPについて」	36
10月 1日	第2回新入職員オリエンテーション	理事長 長澤道子 他 6名	創立の精神や歴史、就業規則等の学び	19
11月 18日	事例検討会（高齢部門）	東洋大学大学院 教授 吉浦輪 氏	事業所での困難事例について学ぶ	13
11月 19日	事例検討会（障がい部門）	東洋大学大学院 教授 吉浦輪 氏	事業所での困難事例について学ぶ	17
11月 27日	交通安全講習会	インターリスク総研 杉本正子 氏	「ハンドルを握るあなたと、みんなの未来を守るため」	23名
1月 15日	予算研修会	事務長 他	予算の立て方などについて	39
1月 15日	（未来検討会の学び） 市の将来計画を知る	島田市福祉課 長寿介護課	島田市の福祉計画について学ぶ	26
2月 19日	育児介護休業法等に関する研修	社会保険労務士 小山圭子 氏	改正育児介護休業法・両立支援法について学ぶ	44
2月 28日	主任等研修	人材サポート有限会社 代表 長崎 一朗 氏	主任の役割、働きについて学ぶ	16
3月 24日	全体防災研修	静岡県立大学短期大学 教授 鈴木俊文氏	BCPの質を高める災害対応研修	23

2024（令和6）年度事業報告

障害者支援施設
垂穂寮

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 総括

大津地区のふれあい祭りや夏祭り、島田市のインクルーシブスポーツパークやしまだっ子交流会等に参加し、地域との交流を図った。また、コロナがやや下火になったので、5年ぶりに施設内行事に家族をお招きし、つながりを深めた。

不適切支援防止やより良い事業所運営を目的とし、静岡福祉大の木下先生をお招きし、事業所内研修を実施。講義を聞き、虐待防止セルフチェック、気付きシートの活用等を行った。しかし、1月に短期入所ご利用者に対する心理的・身体的虐待が発生。施設としては、虐待は職員個人の問題だけでなく施設全体の問題でもあると考え、全職員参加の寮全体会を開催し、「仕事中、感情的になってしまいそうな場面」や、「その時どう対応しているか」「感情的な対応にならないためにどうするか」等を共有した。また、どんな施設になっていきたいか意見を出し合い、「ご利用者にとって楽しい安心できる施設であること」や、「職員同士が何でも話せたり協力し合えること」が大事なことを確認した。話し合いの内容は、職員が一人で問題を抱え込まずに、助け合っていく気持ちを深めることになった。

2 理念に基づいたサービス提供

毎月行う各ケース会議では、サービス提供指針の読み合わせを継続して行った。

3 初めての活動や新しい体験

(1) 静岡福祉大で「知的障害への理解と入所施設の暮らしを知るためのセミナー」を開催、事業所の紹介も行った。(6月)

(2) インドネシアからの EPA 生 2 名を受け入れ。(12月)。業務や日本語の習得のため、生活支援や学習支援する担当者を定め、働きやすい環境を整えた。3年後の介護福祉士取得を目指して、周囲からも応援していく予定。

4 法人の当年度重点計画との関連

(1) インスタグラムで日常の様子やイベント、地域交流等について積極的に情報発信

(2) 昨年度島田市に登録した「地域生活支援拠点」の受入施設として、在宅生活が困難な方の緊急受入れを行い、地域のニーズにも対応した。

(3) 大津地区の買い物支援に対し、施設車両の提供は（昨年度に続き実施）

B 利用者と職員の状況

1 利用実績（2024 年 3 月 31 日現在）

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1 日平均	利用率
施設入所支援	50	41	-9	365	15875	43.4	87%
生活介護	50	41	-7	269	9462	35.1	70.3%
ショートステイ	4	7	+3	365	212	0.58	14.5%
日中一時支援		0	-4		0	0	0%

2 施設入所支援利用者障害程度区分（2024 年 3 月 31 日現在）

区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	1	5	35	41

3 職員状況（2024 年 3 月 31 日現在）

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	1	1	32	2	2
常勤換算人数	0.9	0.5	1	27	0.98	2
増減	0	(0)	0	+1.5	-0.02	0
	調理員	事務員	業務員			合計
実人数	4	1	0			44
常勤換算人数	4.1	1	0			37.78
増減	+0.15	0	0			+2.28

4 残業、有給休暇取得状況

2024 年度の総残業時間は 2951 時間 25 分で、昨年度よりも 174 時間増加。一方、1 人当たりの平均残業時間は 62 時間で、昨年度より 4 時間短縮。パート職員、EPA 生が

増員となったが、食事介助等で個別に介助が必要な利用者が増えたための影響と思われる。

有給休暇消化率は 61.7%と前年よりも約 10%上回ったが、体調不良や退職による一部の職員のまとまった有給消化の影響もある。計画的な有給消化ができたとは言えない。

5 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

各ケース会、チーフ会、ケース検討会、運営委員会、寮全体会を毎月又は毎月に近い形で開催した。特に虐待防止事案が発生した後に実施した運営委員会やチーフ会では、夜勤明け業務の見直し、支援に関する外部コンサル導入や認知症に対する知識、介護技術の専門性の向上、ケアの体制を複数で行えるような支援の見直しを図ることで、ご利用者の安心だけでなく職員の心のゆとりにもつながるための体制を整備した。

内部委員会としては、虐待防止委員会、給食委員会、研修委員会、感染症対策委員会、身体拘束委員会を開催した。

外部委員会としては、法人関係の防災、事故、苦情に関する委員会に出席した。

法人外としては、行政（県、市）の自立支援協議会や強度行動障害関連、地域のケース会議、社会福祉協議会評議委員会、県福祉協会、志太榛原施設連絡会等に出席した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

カラオケを使った毎月の誕生会、保護者を招いての秋祭り、クリスマス会を開催。また、コロナ禍で制限されてきた外部との交流も再開し、地域のイベントに多く参加した。遊びりセッションも毎月実施し、遊びながらリハビリや運動、刺激に繋がるような取組みをした。

D 職員の喜びや成長のための実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

救急法、介護技術、事故防止等の研修を、多くの職員が参加する寮全体会の中で行った。また、自閉症への理解を深めるために矢原荘の職員を招き実践報告等を聞く機会を設けたり、自閉症支援を先進的に行っている施設への見学や研修会への参加も行った。

2 楽しい職場づくり、チームワークの形成について

職員親睦会の開催、EPA 生の歓迎会、希望寮からの応援職員への感謝の会を行った。

大きな行事は各ケースが担当となり、準備、運営を行った。

寮全体会において、虐待防止のために、困った事は一人で抱え込まずに相談すること、お互いにフォローすること、笑って仕事をする事等を話し合えたことは有益だった。毎日の打ち合わせは朝から昼に時間を変更し、より多くの職員が出席できるようになり、職員のゆとりが生まれ、情報共有も図れるようになった。

3 研修報告

（施設内研修）救急法、排泄ケア、手洗い指導、介護技術、セルフケア、身体拘束研修、事例検討、嘔吐物処理、BCP 研修

（法人内研修）新年度研修、主任等研修、事例検討会

（法人外研修）ABA 研修、県知協研究集会、

（施設見学）アクシア藤枝、遊笑舎

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

1 大津地区社協買い物支援のため、毎月 1 回、施設車両の貸し出しを実施

2 島田市自立支援協議会が主催するにこにこクリーン作戦に職員 3 名、利用者 2 名が参加、島田市役所周辺の清掃活動を行い、一般市民や他事業所の方との交流もできた。（2 月）

3 大津地区で開催された夏祭りやふれあい祭りにも参加。ワークセンターやまばとのパンの販売をはじめ、利用者自身も祭りへ参加。

4 法人の地域貢献交流事業の一環としてしまだっ子交流会に職員 2 名、利用者 3 名が参加、学習支援を受けている子供達と交流（3 月）

5 第 4 地区民生委員による草取り、花植えボランティアを招き、施設紹介と案内（3 月）

F 家族との連携、交流、連絡など家族との連携、交流、連絡など

家族だより「みのり」を毎月発行して、情報提供に努めた。内容は担当から利用者の最近の様子、ケースチームごとに写真、各部門からの連絡事項等をお知らせしている。また、重大事故や虐待報告等も併せて行った。3 月末には事業所の理念、環境、職員の接遇等について問うご利用者本人・家族アンケートを実施した。

G 苦情とその対応に関する報告

苦情はなかったが、転倒事故に対する対応についてご家族から意見を頂いた。事故後の対応をリーダー中心に再検討し、サービス管理責任者から改めてご家族に説明を行った。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

事故 119 件（骨折、転倒、他害、薬関係、自傷、物損、溺水、窒息）

ヒヤリハット 55 件（転倒、他害未遂、物損、薬関係、窒息）

虐待 1 件（心理的・身体的虐待）

身体拘束 2834 件（居室施錠、繋ぎ服、4 点柵、車いす 2 点ベルト）

骨折事故と虐待については行政報告を行った。

「骨折事故」：骨粗鬆症の方が肋骨を骨折。別件でのレントゲン検査で判明したもの。直接的な原因は不明だが、夜間の転倒等に対応するため、ベッド下にセンサーマットを設置したり、椅子の肘掛け部分を布で保護したりした。

「虐待」：朝食待機中の利用者が椅子に座ったまま失禁し、それに対応した夜勤明けの職員が感情的になって大声で叱ったり頭を小突いたもの。行政に対して、その経緯報告や、臨時虐待防止委員会の内容等を報告。当該職員に対しては、一部業務から外し、面談やレポート提出を求めながら自身でも支援を振り返る機会をつくっている。（法人の懲罰委員会の処分については割愛。）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

毎月 1 回開催（火災想定、地震想定）。年に 1 回、防災倉庫の備品確認。今年度も通常の防災訓練に加えて、BCP 発動時の動きについても訓練した。夏には豪雨による停電も想定し、発電機を稼働したり、水が使えない想定での訓練も実施した。

J 環境整備（100 万円以上の修繕や改装など）

昨年度から計画していた風棟のトイレの大改修を 7 月に終え、ご利用者の快適な排泄やシャワーによる衛生保持にも寄与できた。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況（事業活動）

科目	2024 年度	2023 年度	増減
サービス活動収益計	285,060,355	265,960,585	19,099,770
サービス活動費用計	234,739,738	225,129,131	9,610,607
経常増減差額	50,524,927	41,404,510	9,120,417
特別増減差額	△14,478,031	△1,901,948	△1,576,083
当期活動増減差額	36,046,896	28,502,562	7,544,334

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 743,000 円 ）

2 借入金償還状況

なし

L 主務官庁に関連した報告

職員による虐待行為に関し、経緯とその後の対応について島田市に行政報告した。その後県や市から直接の指導は無いが、市経由で県から該当職員について夜勤業務の有無と雇用形態の問い合わせがあった。

年末年始のインフルエンザのクラスターについて第 3 報に渡り報告した。

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 調理：内藤せき様 洗濯：大石節子様 恵泉女学園先生と生徒
島田市第 4 地区民生委員（1 2 名）

実習生：【ソーシャルワーク実習】東京通信大 1 名、静岡福祉大 1 名、日本福祉大 1 名

【介護実習】清流館高校 4 名 【保育実習】常葉大 2 名

見 学：静福大施設見学（木下教授、ゼミ生（3 名））

N その他

年末から年始にかけてインフルエンザのクラスターが発生。利用者の約 9 割と職員 17 名が罹患した。発生から収束まで 3 週間を要した。

施設入所利用者が死亡 1 名、他施設への移行された方が 2 名おり、3 月末時点での入所利用者数が 41 名となっている。生活介護の利用定員は 3 月末時点で 31 名のため、来年度より生活介護の定員は 40 名で運営し、職員配置も 1：5:1 に上げて運営を行う。

2024（令和6）年度事業報告

障害者支援施設
やまばと希望寮

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 2024 年度事業計画に関する報告

（1）全体について

「整理・整頓」が更に進み、必要のないものの廃棄や共有スペースや倉庫等が進んでいる。また、「拠点内連携」については、同拠点内で防災訓練を実施し、わかばとは職員の兼務や実習を通して徐々に連携が深まり始めている。加えて、「繋がる、伝わる」については、日々の日課や短期入所利用者、通院情報などの事業所内スケジュールをグーグルカレンダーでPCやタブレットで確認ができるようにし、サービス管理責任者が起点となり利用者情報の発信等を行うようになり情報共有が進み、漏れが減少した。

（2）支援部門について

「アセスメント」については、前年度に引き続き聖隷クリストファー大学篠崎先生によるPEIP研修を行い、出来ること・健康・環境等を多角的に見る事を意識して支援計画の作成することができた。また、「統一した支援」については、9割以上の利用者の手順書は作成できた。ただし、具体的な支援が手順書通りに行うことができていないなどの支援の統一について課題を残している。

（3）看護部門について

「健康維持」については、日々の健康維持を含めて、運動などの指導や換気等の環境改善に努めることができた。また、「感染予防」については、換気やCO2測定など利用者に加えて職員の予防についても努めることができた。加えて、「誤薬事故の減少」については、昨年度よりも数を減らすことができ目標は達成された。

（4）調理部門について

「報連相をしっかりと」については、給食委託業者と施設の橋渡し役として連携を取ることで円滑な給食運営を図ることができた。また、「整理・整頓」については、防災食の保存場所については一部進んだが、ディスプレイを収納やデスクまわり等について課題が残っている。

（5）相談部門について

「ケア会議の充実」については、家族、計画相談事業所の参加のもとで会議を開催し、利用者理解を深めることができた。また、「閉鎖的な事業所から開放的な事業所へ」については、事業所側からの働きかけにより、家族面会や家族の行事参加が増え、顔を合わせ、挨拶をする機会を増やすことができた。地域についても回数は少ないが同様の傾向であった。加えて、「つなぐ・支える」については、共有窓口（サービス管理責任者）の設置等により家族とのコミュニケーションが活発となり、特別プログラム（外出行事）や昼食会へのご家族参加を行うことができたとともに、地域についても秋祭りへの地域住民の参加など「つなぐ」につながった。

（6）事務部門について

『わかりやすく「身近」な事務』については、立替明細を家族により理解していただけるよう細かく入れるようにした。また、家族や事業所内に対して積極的に事務連絡を行うことができた。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

「利用者主体のサービス（支援）の提供」については、アセスメントの充実を図るための研修、AIによる個別支援計画案の作成、家族等参加のケア会議の実施を行い、利用者の意向の把握を通して、ニーズに基づいた支援の提供に努めた。ただし、一人ひとりの特性に応じた「利用者主体」の支援の提供については課題が残る。また、「職員同士が何でも話し合える職場づくり」については、心理的安全性を確保できるように、リーダー職員は「聴く」姿勢をとることが出来ていた。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

「職員の育成」については、全ての職員が、正しい指導ができ、身体拘束に関する正しい知識を持つについても課題を残しているものの必要な研修を積むことができた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

	定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
施設入所支援	30	32	±0	365	10,850	29.7	99.1%
生活介護	30	31	-1	269	7,523	28.0	93.2%
ショートステイ	5	8	-3	365	181	0.6	12.3%
日中一時支援		7	-3		45		

入所者：6/1 男性1名 病院から、退所者：4/5 男性1名 入院先医療機関で死亡
前年度比：施設入所支援+1.8%、生活介護-1.2%、ショートステイ等+0.2%

2 職員状況（年度末現在、増減は昨年度末比）＊産前産後育休中職員含む

	施設長	副施設長	サビ管	生活支援員	看護師	栄養士
実人数	1	(1)	1	24	1	1
常勤換算人数	0.9	(0.1)	1.0	20.2	1.0	1.0
増減	+0.1	(0)	0	0	0	0
	事務員	業務員				合計
実人数	1	1				30
常勤換算人数	0.8	0.5				25.4
増減	0	0				+0.1

＊産前産後又は育児休暇取得者 2023/10/1～2024/10/31 男性正規職員、2023/11/1～2025/3/31 女性パート職員

新規採用：なし、退職：なし

配置転換（転入）：正規職員2名 6/1 杉山卓（生活支援員）、8/1 大畑良（生活支援員）

配置転換（転出）：正規職員2名 6/30 望月（生活支援員）、7/31 杉山卓（生活支援員）

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	1,891.0 時間	最高残業時間	395.1 時間	有給休暇取得率	80%
-------	------------	--------	----------	---------	-----

職員一人当たり平均 65.2 時間／年、平均 5.4 時間／月

前年度比で、有給消化率が7%増となり、目標の80%を達成できた。

総残業時間は207.9 時間減（前年度比 90.1%）となり前年度比減の目標を達成できた。

残業は、職員一人当たりの平均で7.2 時間／年、約0.6 時間／月減少。ただし、リーダー職員の時間外勤務が多くなっており、不均衡課題は解消に至っていない。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況（省略あり）

（1）外部会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。日本知的障害者福祉協会調査・研究委員会、牧之原市自立支援協議会（重心部会、防災部会）、県知協オレンジマラソン実行委員会、志太榛原施設連絡会 他

（2）法人内会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。経営会議、施設管理者会、苦情解決委員会、生活ケア会議、防災委員会、事故防止委員会、研修委員会 他

（3）事業所内会議

定期開催、適宜開催等を決めた上で、以下の会議を開催した。また、会議を通しての情報共有に努めた。明るい未来検討会、主任者会、感染症委員会、チーフ会、給食委員会、給食検討会、虐待防止委員会、秋祭り会議 他

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

1 日課について

散歩、外気浴、個別プログラムやドライブなど日々の日課の中で取り組みを行った。

2 行事について

松浦先生音楽教室（毎月1回）、勝利さん音楽教室（毎月1回）、誕生会（2か月に1回）、運動会、開寮記念行事、外出行事（関西方面（USJ）他）1泊旅行、家族参加の花博、御殿場高原時之栖、小国神社他）、訪問販売、秋祭り、クリスマス会、新年会、お楽しみ会、等を行った。

3 その他

赤堀医師・田代医師の来診（毎月1回）、健康診断（年2回）、インフルエンザワクチン接種、ブラッシング指導、訪問医療マッサージ（週5日）、望月理学療法士リハビリ（毎月1回） 他

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 共通目標を認識するための取組みについて

(1) 月間業務目標の設定

毎月、職員が取り組む業務目標をアンケート等で決定し、周知、評価を行い、80%の職員が達成した場合は次の目標を設定する取組を継続した。

(2) 施設長面談の実施

4半期に1回（年4回）、施設長が職員面談を実施し、個別目標の設定と達成率の確認、サポカレ視聴感想の確認、その他困りごと等の確認を行った。

(3) 情報の共有化のため取組み

掲示板を設置、事業所内PCでグループメールが確認に加えて、事業所内のスケジュールをすべてのPC、タブレットで共有できるようにした。ただし、職員評価は今後。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

職員懇親会を2回実施した。また、前年度に続きユニフォームを作成した。

3 職員研修

(1) 外部研修

施設見学、静岡県、静岡県社会福祉人材センター、静岡県知的障害者福祉協会等主催の研修等に延べ51名が参加した。

(2) 法人内研修（事業所外）

法人全体研修、新人オリエンテーション、主任等研修、垂穂寮実習などの研修に延べ19名が参加した。

(3) 事業所内研修

サポカレ（身体拘束、アガーマジック、家族の視点、虐待、感染症、社会人基礎力）研修、交通安全と車いす利用の動画視聴研修、救急法、職員が講師となった誤嚥研修、ケース検討、嘔吐物処理、また、聖隷クリストファー大学篠崎先生を講師に迎え観察力を高めるためのアセスメント研修を実施した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

1 地域に対する公益的取組

関連事業所と連携の上で、毎月1回（計12回）坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。また、地域（坂部小学校）の資源回収、法人を通じた行政食糧支援に協力できた。

2 地域との交流

地域の町内会（坂2班長会）定例会や役員交代会に出席、新年挨拶周りをを行い地域住民の方との関わりに努めた。また、秋祭りには地域役員、民生児童委員やご近所計12名が参加し交流を深めた。加えて、子ども神輿の受け入れや地域防災訓練の際は事前説明に伺い当日は15名の自主防災担当者が見学に見えるなどの交流を行った。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

共通窓口をサービス管理責任者とし、家族との関わりや情報提供等を積極的に行った。

保護者総会や事業説明会等を年3回（6、9、3月）実施し、参加者はそれぞれ約20家族だった。6月は昼食会や訪問販売も併せて開催した。面会については、秋祭りやクリスマス会への招待等を含めて延べ122名が来所された。

家族・利用者アンケートを実施しサービスに対する評価を求めるとともに、「家族だより・どり〜む」を毎月発行し、各部門から家族宛の情報提供に行った。

G 苦情とその対応に関する報告

3件。10月：行事外出先での職員の喫煙と支援方法が不適切、1月：家族から預かったクリスマスプレゼントの紛失、3月：短期入所利用者の与薬忘れに関する説明への不信感。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

- 1 事故
合計で 61 件（前年度比 2 件増）、月平均約 5.1 件。転倒転落が最も多い。
- 2 ヒヤリハット
合計で 30 件（前年度比 14 件増）、月平均約 2.5 件。転倒転落、他害が最も多い。
- 3 虐待 なし
- 4 身体拘束
合計で 3,205 件であった。「施錠ゼロを目指そう！」の取り組みやサビ管を中心とした施錠の見直しを継続して行い、前年度比 37%減（1,909 件減）、一昨年度比では 57%減（4,312 件減）となった。数内訳は 1,973 件（62%）が夜間等の居室施錠、603 件（19%）が居室へのモニタ設置となっている。また、対象者は 3 月末で 6 名となり昨年度 24 名から大幅に減少した。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 防災訓練 安否コール返信訓練を毎月実施した。避難訓練については 4 回（6 月、10 月、11 月（法人全体）、1 月）に実施した。その他として備蓄の確認を行った。
- 2 被害状況 なし

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕等）

障がい者トイレ扉交換工事 1,040,000 円、非常灯バッテリー交換工事 1,091,200 円
給湯ポンプ交換工事 2,291,300 円

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

- 1 収支状況（事業活動）

科目	2024 年度	2023 年度	増減
サービス活動収益計	229,864,972	192,134,989	37,729,983
サービス活動費用計	193,076,786	181,137,740	11,939,046
サービス活動増減差額	36,788,186	10,997,249	25,790,937
経常増減差額	37,172,143	11,236,024	25,936,119
当期活動増減差額	17,229,186	1,860,612	15,368,574

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 699,500 円 ）

- 2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

- 6/6 島田土木事務所宛 特殊建築物（防火設備）に関する是正完了報告
10/22 島田市土木事務所宛 特殊建築物（建築物）に関する是正完了報告
1/10 島田市土木事務所宛 特殊建築物（建築設備）に関する是正完了報告
2/5 静岡県宛 運営指導資料の提出と実施 → 改善指導事項、助言事項ともに「なし」

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 実習生
わかば職員の支援実習（昼食介助）を年間通して受け入れた。また、学生については、浜松学院短期大学、浜松未来総合専門学校、常葉大学、千葉明德短期大学など実人数で 10 名を保育または介護実習生として受け入れた。
- 2 ボランティア
日赤奉仕団、小さな親切運動（草取り・清掃）、鈴木勝利様・吉永治子様（音楽教室）、鈴木貴雄様（支援）、保護者（草とり）、秋祭りボランティア（28 名）

N その他

志太榛原地区 5 施設共同で静岡福祉大学を会場に「知的障がい児・者のくらしを知るセミナー～入所施設っておもしろい！～を開催した。

杉山 晃（生活支援員）が静岡県から障害福祉ナビゲーターの委嘱（任期 2 年）をうけ、就職ガイダンスや県内大学等で障がい福祉の仕事のやりがいなどを伝えた。

2024（令和6）年度事業報告

共同生活援助
わかば

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

今年度も利用者の思いに寄り沿い、ゆったりと落ち着く事の出来る生活を目標として業務にあたってきました。1月に1度の恒例行事の継続は「わかば」で生活する利用者にとって、楽しむ機会となったと思います。

一方で今年度も脳出血により亡くなられ退所したご利用者が居ました。日中通所している事業所からの日々の報告もあり、施設で救急車要請をする前に通院することが出来ましたが、もっと早い気付きが出来たのではないかと健康状態の把握についても改善点を検討する機会となりました。

2 事業報告

(1) 人権擁護と虐待意識の徹底

毎月虐待に関する自己チェックを毎月継続して行い、サポートカレッジ視聴による「虐待防止研修」を行い、7月と1月にチェックシートの分析を基にした支援の振り返りを実施。利用者の身体の変化が見られた場合に防犯カメラの記録を振り返り、原因の追究を行ってきました。

(2) グループホームの役割の理解

障害特性の理解についてサポカレ研修をすすめてきましたが、実践に結びつけることが出来ない事が課題となっています。今年度も医療を含めた関係機関との連携を考えさせられることになりましたが、特に家族への健康状態の報告については今後も密に行っていく事は不可欠と確認しました。前年度も行っていた海岸清掃は継続しましたが、家族・地域住民との交流に関しては進展がありませんでした

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

毎月行われる全体会議で「サービス提供指針」の読み合わせを行いました。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) スタッフの育成

業務の分担について見直しを重ね、支援員・世話人一人ひとりが業務を担当するようになりましたが、担当する業務について相談・検討する機会が不十分で業務を滞らせる事もありました。利用者支援に関しては、対応が困難なケースや、家族・関係者間の連携等について特定の職員の負担が大きく、サポカレ研修等で学んだことを実践に生じきれませんでした。

(2) 防災の充実

大規模災害についての備えについて施設内での話し合いは、施設の全体会議等で実施してきましたが、計画していた隣接施設との連携は法人全体訓練の時のみとなり、毎月行う防災訓練は単独での実施になり、隣接施設への協力依頼は実施しませんでした。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
10	10	0	366	3302	9.0	90.4
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	1	1	1	5	2

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1	1	6	5	1	0	12
常勤換算	0.25(兼務)	0.25(兼務)	2.9(兼務)	1.9	0.2	0	5.5
計画との差	0	0	0	1	0	0	1.1

			(0.4)	(0.7)			(1.1)
--	--	--	-------	-------	--	--	-------

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	209.5	最高残業時間	120.0	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	72.0
-------	-------	--------	-------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	11	2回/年	法人苦情解決委員会	1
	給食委員会	1	2回/年	法人事故防止委員会	1
	生活ケア部会	1		法人虐待防止委員会	1
	施設管理者会	1		施設内虐待防止委員会	10
	施設検討会	4		施設内感染症委員会	10
隔月	給食検討会	1		施設内防災委員会	10

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・春の遠足、スイーツづくりの行事を実施した。
- ・土曜日・日曜日にも生活のリズムを崩さないよう、また身体能力の維持を目的とした散歩等の運動を継続してきた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせをした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- ・毎月開催される「わかば・もくれん検討会」「職員会議」で、支援員・世話人の意見を求め業務・支援について検討を重ねた。

3 研修報告

(1) 施設内研修

サポートカレッジを利用した研修を実施。感染症予防、虐待防止、身体拘束、支援の基礎について学んだ。

(2) 外部研修

サービス管理責任者実践研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ・毎月第1日曜日、吉田港海岸清掃に参加（雨天中止）
- ・3月22日島田市地域交流イベントに参加

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

- ・家族の定期的な訪問により、ご利用者の様子や施設からの連絡を伝えた。
- ・定期通院等での診断結果・服薬変更等について、受診後に電話連絡を行った。
- ・家族が行う福祉サービス申請等手続きの相談を行った。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情の報告はなかった

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	16	ヒヤリ	4	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒、外傷、物品管理・紛失

ヒヤリ：転倒未遂、異物混入

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・防災訓練（地震、水害想定）実施。
- ・安否コール返信訓練。
- ・11/14 法人全体防災訓練実施。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	30,356,077	34,349,159	△3,993,082
サービス活動費用計	32,758,347	34,124,050	△1,365,703
経常増減差額	△2,385,934	230,984	△2,616,920
特別増減差額	0	△800,000	800,000
当期活動増減差額	△2,385,934	△569,014	△1,816,920

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 220,000 円 ）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・創立 14 年

2024（令和6）年度事業報告

共同生活援助
もくれん

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

今年度も利用者の想いに寄り添う事を目標に掲げ支援してきましたが、情緒の不安定、高齢化への対応に重点を置いた結果、個別対応する事が多くなり個々の居室での過ごし方に工夫を取り入れる事が出来たものの、仲間と共にくつろぐ環境設定や家族も交えた行事を実施することができませんでした。

障害の特性に対しての対応にも専門的な支援が行き届かず、利用者間の関係性にも困難が生じることとなり、互いに支え合う関係づくりへのサポートも十分な成果を上げられませんでした。

2 事業報告

(1) 人権擁護と虐待意識の徹底

毎月虐待に関する自己チェックを毎月継続して行い、サポートカレッジ視聴による「虐待防止研修」を行い、7月と1月にチェックシートの分析を基にした支援の振り返りを実施。利用者の身体の変化が見られた場合に防犯カメラの記録を振り返り、原因の追究を行ってきました。

(2) グループホームの役割の理解

障害特性の理解についてサポカレ研修をすすめてきましたが、学んだことを実践で生かすことが出来ず、共同生活を送っていく上での支援について理解が不足していると感じました。前年度も行っていた海岸清掃は継続しましたが、家族・地域住民との交流に関しては進展がありませんでした。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

毎月行われる全体会議で「サービス提供指針」の読み合わせを行いました。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) スタッフの育成

業務の分担について見直しを重ね、支援員・世話人一人ひとりが業務を担当するようになり、施設職員が全員で施設を支えていく責任感が向上しています。利用者支援に関しては、対応が困難なケースや、家族・関係者間の連携等について特定の職員の負担が大きく、サポカレ研修等で学んだことを実践に生じきれませんでした。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
10	10	0	366	3581	9.81	98.1
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	0	1	5	4	1

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	その他	合計
実人数	1(兼務)	1(兼務)	6(兼務)	15(兼務)	1	0	22
常勤換算	0.25(兼務)	0.25(兼務)	2.0(兼務)	5.0	0.2	0	7.4
計画との差	0	0	0	3 (0)	0	0	2 (0)

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	576.0	最高残業時間	300.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	43.0
-------	-------	--------	-------	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	10	2回/年	法人苦情解決委員会	1
	給食委員会	1		法人事故防止委員会	1
	生活ケア部会	1		法人虐待防止委員会	1
	施設管理者会	1		施設内虐待防止委員会	10
	施設検討会	3		施設内感染症委員会	10
隔月	給食検討会	1		施設内防災委員会	10

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・季節ごとの小外出、ご利用者様の希望をとった昼食作り等の行事を行った
- ・利用者の居室での過ごし方について、希望を聞き取り個々が必要とするものを家族・成年後見人等と相談・検討し用意した。
- ・土曜日・日曜日にも生活のリズムを崩さないよう、また身体能力の維持を目的とした散歩等の運動を継続してきた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎朝	理念の継承	全員	サービス提供指針の読み合わせをした。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 - ・毎月開催される「わかば・もくれん検討会」「職員会議」で、支援員・世話人の意見を求め業務・支援について検討を重ねた。職員によっては率先して業務を担当する申し出も出る等、積極性を引き出す事にもなりました。

3 研修報告

(1) 施設内研修

サポートカレッジを利用した研修を実施。感染症予防、虐待防止、身体拘束、支援の基礎、

(2) 外部研修

静岡県地震防災センター見学

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ・毎月第1日曜日、吉田港海岸清掃に参加（雨天中止）
- ・3月22日島田市地域交流イベントに参加

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

- ・家族の定期的な訪問により、ご利用者の様子や施設からの連絡を伝えた。
- ・定期通院等での診断結果・服薬変更等について、受診後に電話連絡を行った。
- ・家族が行う福祉サービス申請等手続きの相談を行った。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情の報告はなかった

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	72	ヒヤリ	55	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：転倒、転落、服薬ミス、自由外出等。

ヒヤリ：ふらつき、転倒未遂等。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・防災訓練（地震、火災想定）実施。

- ・安否コール返信訓練
- ・11/14 法人全体防災訓練実施。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）
なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	33,762,902	35,961,505	△2,198,603
サービス活動費用計	32,673,566	33,764,498	△1,090,932
経常増減差額	1,097,823	2,198,022	△1,100,199
特別増減差額	△5,031	△1,500,000	1,494,969
当期活動増減差額	1,092,792	698,022	394,770

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 円 ）

2 借入金償還報告
なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）
特になし

M 実習生やボランティアに関する報告
なし

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）
・創立14年

2024（令和6）年度事業報告

共同生活援助事業所
みぎわ

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

- 事業所の 2024 年度事業計画に関する報告（総括）

職員の専門性の向上については、法人内の研修や外部研修に正職中心に参加。全職員には短時間でも可能なリモート研修を提供したが、十分に活用出来なかった。
記録システムを職員への情報提供や、ケース会議、支援の見直しに活用した。
隣接する施設を兼務では、職員負担が大きく中止することがあった。
外部機関との連携については、タイムリーな情報共有で感染症対応が行なえた。
- 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告
理念の浸透と実践については、ともに生きる、私たちの願い・サービス提供指針を職員会議の参加者で唱和し、確認の場とした。
個別で短時間の買い物等を、感染予防に注意して行った。
利用者と余暇時間の対話で個人の意見や要望を傾聴する時間を設けた。
- 「法人の当年度重点計画」関連した活動報告
3 施設合同の防災会議等を行なった。その中で災害時応援体制についても、具体的に話し合いを行なった。断水、停電時の防災訓練を実施して、実際に必要になることについて再確認を行なった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1 日平均	利用率	
10	10	0	365	3,586	9.8	98.2%	
区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
0	0	1	3→2	1→2	5	0	10

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	世話人	事務員	合計
実人数	1	2→1	4	6	1	13
常勤換算人数	0.1	0.1	3.3	2.8	0.1	6.4

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は 107 時間。月平均 8.9 時間であった。1 人当たりの月平均は 1 時間程度。最も多く残業を行った職員は、年間 26 時間、1 か月平均 2 時間であった。

有給休暇取得状況については、全体では 67.3%の取得率、最高は 100%（1 名）、最低は 40%（1 名）であった。23 年度は職員の入院で残業多かったが、24 年度は特別なかった。

4 職員会議、委員会、外部委員会

職員会議は 4 月コロナ対応を除いた計 11 回開催し、研修・委員会も合わせて実施した。
外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情、事故防止に関する委員会に出席した。
また、隣接事業所との連携を目的として防災、給食委員会に参加した。
その他として、隣接事業所との連携を深めるために、防災関係の話し合いを行い、必要事項の情報交換を行った。また、自立支援協議会の研修、部会会議やケース検討会に参加した。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

隣接する施設の余暇設備（通信カラオケ）を利用して、余暇時間の充実を図った。
季節の行事（花火鑑賞、クリスマス会）では、テイクアウトメニューの利用等を活用した。
個別での意向や希望を聴く時間を設けて、支援や行事等に活かしていた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

職員会議の冒頭、理念の継承を目的として「わたしたちの願い」の読み合わせ、サービス提供指針の確認を行った。法人の委員会（苦情、事故防止、虐待防止）実施後の職員会議で、情報共有などの話し合いを行なった。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して
兼務職員の兼務先と話し合いを行ない、職場の働きやすさや兼務について話しあった。
- 3 研修報告
外部研修として、強度行動障害基礎研修、島田市虐待防止研修に参加した。法人内研修として、新人管理者研修、新年度研修、防災研修、ケース検討研修。事業所内研修として、職員会議の際に法人理念、事前に動画視聴した感染症と虐待に関する学び等を行った。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

毎月第三水曜に拠点で、公用車を地域の方への貸し出しを行なった。
7月法人主催の地域交流地域貢献事業（カフェ）へ、利用者・職員が参加した。
12月自立支援協議会の部会が主催する、地域の清掃活動に職員が参加した。
3月しまだっ子交流会へ、利用者・職員が参加した。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

家族便りを毎月発行し、情報提供に努めた。また、情報共有、意見交換会を1度実施した。

G 苦情とその対応に関する報告

苦情の報告はなかった。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間を通じて、事故12件、ヒヤリハット25件、身体拘束7件、虐待0件であった。事故については転倒が最も多かった。原因は環境面の不具合等があった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

総合防災、要配慮者利用施設、通報、消火訓練など毎月防災訓練を実施した。また、3施設で災害時応援体制の見直し、BCPの見直しを行なった。

J 環境整備に関する報告

K 収支状況、並びに、借入金返済状況

1 収支状況（事業活動）

科目	2024年度 10名	2023年度 15名	増減
サービス活動収益計	34,502,806	35,959,294	－1,456,488
サービス活動費用計	34,171,663	37,768,080	－3,596,417
経常増減差額	1,395,241	－1,244,922	2,640,163
特別増減差額	991,969	4,571,299	－3,579,330
当期活動増減差額	2,387,210	3,326,377	－939,167

※サービス活動収益の内、寄付金収益（10,000円）

2 借入金償還状況 なし

L 主務官庁との関連した報告

特になし。

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生の受入れ実績はなし。就職前の現場体験2名。民生委員の施設説明、案内実施。

N その他

今年度4月より定員10名へ変更して事業を行なった。

2024（令和6）年度事業報告

生活介護
ケアセンター花もも

A 当年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

新型コロナウイルス、インフルエンザ感染症ともに発生したがクラスター化することなくおさまることが出来た。大きなケガ、病気をすることなくご利用者、職員ともに過ごすことが出来た。外部講師（音楽）による指導で久しぶりにクリスマス会でハンドベル演奏を招待客の前で披露する機会を持てた

2 事業計画

- (1) 環境面の整備及び研修等を用いて障害特性の理解を深める
余暇時間のエリア分けを実施し各々が落ち着いて過ごせるように配慮した。また、強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践）資格取得者が増えた。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

- (1) 朝礼、支援者会議時に法人理念を読み合わせ理解に努めた
(2) さかべサロン送迎、エコキャップ、使用済み切手などのエコ活動、地域の催事や文化祭への参加を通し啓発活動及び地域貢献に努めた

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 防災の充実
会議の機会はなかったが高齢、障害事業所協働で「送迎時の防災について」研修会を開催し今後の対策にヒントを得ることが出来た。
(2) 発信
年間 143 回インスタグラム写真を投稿し花ももの活動を多くの方に発信することが出来た。投稿内容には充分配慮した。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	19	-1	254	4097	16.1	80.6
区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
0	0	0	0	2	10	7

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	9	1	0	1	12（兼務2名）
常勤換算	0.3	0.7	6.95	0.45	0	0.3	8.7
計画との差	±0	±0	-0.36	+0.05	±0	±0	-0.3

3 残業と、有給休暇取得状況

総残業時間	356.25	最高残業時間	111.25	有給義務所得率	100	有給休暇取得率	97
-------	--------	--------	--------	---------	-----	---------	----

5 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加人数	開催月	種類	参加人数
毎月	職員会議・ケース会	全員	隔月	自立支援ネットワーク	1
	生活ケア部会	1		給食検討委員会	1
	給食委員会	1	2回/年	法人防災委員会	1
	管理者会	1		未来検討委員会	1

C 利用者の喜びのために工夫したいこと（日課・行事・その他）

- 1 年4回クラブ活動、小グループ外出を実施。活動内容等ご利用者と相談し極力、希望に沿ったサービスを心がけた。
- 2 塗り絵、ちぎり絵などの作品を展示し第2回『花もも個展』を開催した。地域貢献事業（喫茶ほとりまつりに自主製品の販売や実演）や相良高校文化祭。地域の人たちに利用者、事業所の啓発活動に努めた
- 3 効果的にスノーズレンを導入するために他事業所（野ばら・かたくりの花）体験、見学、研修を実施した。

D 職員の喜びや成長のために実現したいこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、以下のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎朝 職員会議	理念の継承	全員	朝礼で『わたしたちの願い』を読み合わせた 会議にてサービス提供指針を読み合わせた

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) 当事者意識を持って会議に参加してもらえるよう1人1発言やケースチームごとのディスカッションの場を設けた。
- (2) 正職を中心とし、相談しやすい関係性、風通しの良い職場環境を目指した。面談などを通し職員の思いに耳を傾け必要に応じて業務改善に努めた

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/5	生活リハビリとは	10	5/10	体のコリをほぐそう	10
	6/7	防災ユーチューブ視聴	10	7/5	身体拘束サポカレ視聴	10
	8/2	食介時研修	10	9/13	本人理解を学ぶ	10
	10/4	本人理解を深める	9	11/8	感染予防研修 AED 動作法等	11
	12/6	TSさま支援法について	10	1/10	TSさま支援法について	10
	2/7	送迎時の防災について	11	3/7	虐待研修サポカレ視聴	10
	1/10	野ばらスノーズレン見学	2	3/7	かたくりの花スノーズレン見学	2
法人研修	4/15	新年度研修	10	11/19	事例検討会	2
	2/28	主任等研修	1	11/6	自閉症支援を学ぶ（垂穂寮）	2
施設外研修	4	喀痰吸引等研修第3号	1	10/28	強行基礎・実践	1
	11/7.8	強行実践	1	1/29	サビ管実践	1
	1/31	富士見学園実践研究報告会	2			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した計画

日付	内 容	参加者
毎月	坂部サロン参加者送迎	職員1名
適宜	エコ活動（使用済み切手、空き缶収集）	職員全員 利用者2名
6月	相良高校（葵天際）出展	職員2名
9月	坂口谷川かかし祭り 喫茶ほとり催事 自主製品販売	全員 2名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する計画

日付	内 容	参加者
2回/年	保護者会	保護者、職員
6月	運動会	保護者、利用者、職員
8月	納涼祭	保護者、利用者、職員
12月	クリスマス会招待	保護者、利用者、職員
1月	成人を祝う会	該当保護者、利用者、職員
毎月	花もも便り&号外号	

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

前年度苦情件数 3 件あり。保護者からの連絡メールの確認が遅く、返事が返ってこないことが度重なり改善されていないことに対して不信感を募らせた（2 点）携帯電話の置き場所や音量を再確認すると共に職員全員がメールや電話対応をし早めの返信を心がけるように努めた

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の防止対策

事故	12	ヒヤリ	114	虐待	0	身体拘束	1243
----	----	-----	-----	----	---	------	------

事故：散歩中の転倒・他者を叩く・車両事故

ヒヤリ：使用中のベッドの上に乗ろうとする

身体拘束：車いす腰 胸ベルト装着（同意書あり）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「安否確認コール」の年間平均返信率は 90%

防災研修（生活ケア部会内研修）として他事業所と合同で実施した（2 回/年）

災害時に必要とされる防災用品（非常食・飲料水等）を備えた

J 環境整備に関する計画（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

1 月 テラス柱等洗浄および塗り替え

2 月 倉庫設置

K 収支、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	55,138,820	57,009,101	△1,870,281
サービス活動費用計	57,266,995	53,029,337	4,237,658
経常増減差額	△1,943,927	4,032,224	△5,976,151
特別増減差額	△4,500,000	△3,263,375	△1,236,625
当期活動増減差額	△6,443,927	768,849	△7,212,776

2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁との関連（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

1 実習生：10 月 ジョブシャドウ 3 名（相良高校生）

2 ボランティア：隔月 おはなしぽっぽ（読み聞かせ）

12 月～9 月 約 3 回/月 静岡大学大学院 土本さん

3 外部講師：毎月 音楽教室

隔月 笑いヨガ

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

・創立 27 年（移転名称変更後 3 年目）

2024（令和4）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンター野ばら

A 2024年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の2024年度事業計画に関する報告（総括）

地域との連携は多くはないが、落合のふれあい祭りやニコニコクリーン作戦、「しまだっ子」へのプレゼント配布等に取り組んだ。日々の活動に関しては工夫を凝らし、またその様子をインスタグラムにアップし周知にも努めた。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

支援の統一を図るため、PDCAを意識しながら会議の中で確認を行った。さらに本人中心の支援を、チームで行っていくために話し合いを重ねた。

3 法人の当年度重点計画との関連

虐待防止の研修を受け、支援は勿論、風通しの良い職場環境作りを学ぶ機会を持った。身体拘束に関しても、その都度話し合い確認しあった。会議では、サービス提供指針の読み合わせを行った。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績（2025年3月31日現在）

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	1日平均	利用率
20名	20名	±0	254	4,692	18.4	92.4%
区分3		区分4	区分5	区分6	合計	
1		1	8	10		20

2 職員状況（2025年3月31日現在）

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	調理員	事務員	合計
実人数	1	1	10	1	1	1	15
常勤換算人数	0.1	1.0	6.5	0.1	1.0	1.0	9.2
増減	0	0	-1.0	0	0	0	-1.3

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間は249時間で昨年度よりも126時間減った。一人当たりの月平均は1.6時間だが、個々の残業時間数にばらつきがあり、最も多い職員は月平均6.2時間となっている。有給取得は70%だが、残業時間や有給休暇の取得率には偏りがあるため、役割分担をしていく必要がある。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

通所（職員）会議、各ケース会議を毎月実施、ソフト（常勤）職員会議を適宜実施し、ご利用者の支援の方向性や環境整備に関する検討等を行った。外部委員会は法人関連の虐待防止、防災、苦情、事故に関する委員会に出席した。また、島田市の自立支援協議会

へも参加した。個別の支援者会議にもサービス管理責任者が出席し関係機関と連携している。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

通常活動は散歩、作業、リハビリ、プール（夏季限定）を実施した。活動を楽しめるように、新たなレクリエーション活動を実際に職員が行い、利用者に合うように工夫して提供している。季節感も大事にし、行事や壁画作りなども皆さんで行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムについて

「わたしたちの願い」の唱和は不十分だったが、サービス提供指針の読み合わせを行った。

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

チームワーク形成、及び活動の充実を目的とした研修を行った。また、毎月重点目標を決めて、みんなで取り組んだ。

今年度も福利厚生を利用して、年末の食事会を実施した。

3 研修報告

施設内研修としてレクリエーション活動検討、感染症対応研修を実施した。施設外研修は虐待防止研修、権利擁護の研修、成年後見制度研修に参加した。法人内研修としては、新年度研修、防災研修に参加した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

落合のふれあい祭り、島田市のニコニコクリーン作戦への参加、地域貢献事業への参加を実施した。また、民生児童委員の施設見学と花植え、草取りが行われた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

毎月1回保護者会があり、サービス管理責任者も同席し情報を共有している。奉仕作業を年3回実施して頂いた。野ばらの昼食の試食会も行った。毎月野ばらだよりを発行し、活動内容を紹介している。

G 苦情とその対応に関する報告

今年度は1件あった。連絡ノートへ記載した内容で、保護者に不快な思いをさせた。担当職員から内容の趣旨を確認し、翌日苦情対応職員とサビ管で謝罪に伺った。読み手を意識して書くことを職員間で共有した。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

年間通して事故45件（転倒、盗食、他害、無断外出等）、ヒヤリハット41件（転倒、無断外出未遂等）、身体拘束333件（車いす2点ベルト/散歩時のフットサポートへの足の固定、生理時のオーバーオール着用）となった。転倒による事故は、引き続き起きており、職員の付き添い見守りの強化、動線の見直しを行い防止に努めている。3か月後に対策の評価を行っている。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

火災や地震想定の避難訓練を毎月 1 回実施した。

J 環境整備に関する報告

今年度は特に大きな環境整備は無かったが、トップライトの劣化による雨漏りが発覚。簡易的な修理に留め次年度に修繕の予定。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況 (事業活動)

科目	2024 年度	2023 年度	増減
サービス活動収益計	62,381,863	61,010,811	1,371,052
サービス活動費用計	54,270,694	46,435,099	7,835,595
経常増減差額	8,425,391	14,821,490	△6,396,099
特別増減差額	△5,000,000	△7,590,000	2,590,000
当期活動増減差額	3,425,391	7,231,490	△3,806,099

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (0 円)

2 借入金償還状況 なし

L 主務官庁との関連した報告

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 鈴木秋次様 (散歩・見守りなど直接支援) 鈴木久美子様 (新聞紙のゴミ箱寄付)

実習生 静岡福祉大学生 1 名

N その他

感染症の発症はあったものの、集団発症することなく過ごせた。

2024（令和6）年度事業報告

生活介護
ケアセンターかたくりの花

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

毎日笑顔で気持ち良い挨拶を行い受け入れる支援が出来た。ご利用者の笑顔や気持ちをを引き出し、職員は温かい気持ちで受けとめ、支援に当たることを大切にしました。職員間で仲間意識が高まりお互いが助け合う声掛けへと変わり良い雰囲気になった。

2 事業報告

- (1) 音楽活動で自分はどんな楽器を選びどんな曲を演奏したいのか一人ひとりの思いを聴き取った。職員からの指示ではなく自分で決める事が満足度につながった。
- (2) サポカレにより新人職員も必須研修がスムーズに受ける事ができた。正職員は法人内防災研修や外部サビ管更新研修等に参加し得た情報を職員会議にて共有した。
- (3) 水筒持参によりコップ洗い等配膳内容が改善でき配膳時間短縮となり、職員休憩時間に入りやすくなった。また、ご利用者も水筒持参により水分補給が楽しい時間になり、一日を通して昼食以外の水分量の把握にも繋がった。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

ご利用者やご家族を大切にする支援の中で、朝帰りの受け渡し時に体調確認とかたくりの支援で気になる事が無いかの声掛けを行い、苦情になる前の対応を実施した。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

- (1) 新人職員の育成のため施設内研修
全体職員会議時に担当とテーマを決めて研修実施した。サポカレ研修は分かりやすく短時間で受講できる為 25 研修に合計 74 名が参加。外部での防災 BCP 訓練や熱中症感染症対策等研修参加により、職員全体へと情報提供へと繋がった。
- (2) 防災の充実
法人による建物点検実施。かたくり独自の建物点検を毎月最終木曜日実施。毎日の防災点検も実施し記録に残し、防災に対しての意識を高める対応に繋がった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	20	0	255	4449	17.44	87.2
区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
0	0	0	0	2	10	8

※特記事項を記入 年度途中に区分変更 4→5（1 名） 5→6（2 名）あり。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	13 (内 1 兼務)	1	1	0	15
常勤換算	0.1	0.9	8.6	0.6	0.3	0	10.5

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	368.5	最高残業	72.5H	有休義務	100	有給取得	54%
-------	-------	------	-------	------	-----	------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	ケース会議	13 名	毎月	全体職員会議	約 11 名
11/14. 2/3	法人防災委員会	1	5/22. 11/25	ヒヤリ・事故防止委員会	1
4/26. 10/25	苦情解決委員会	1	9/19. 2/27	虐待防止委員会	1
3/10. 7/8. 11/11	島田市重心部会	1	6/18	島田市くらし部会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 チームによるキッキングが毎年工夫されレベルアップしている。利用者会議にて完成したおやつに個性的なネーミングを皆で考え、誕生日会のおやつとしても提供した。楽しみ意思決定を同時に提供出来、満足した表情が多く見られた。
- 2 笑いヨガを毎月提供実施。ご利用者も職員も大きな声で歌い楽しく踊り笑顔で大笑い。笑うことが運動となり気持ちもスッキリし情緒面安定に繋げることが出来た。
- 3 5月イチゴ摘み・8月ひまわり畑・9月オリーブ狩り・11月コスモス摘み・12月イチョウ並木散策と自然体験を通して季節の移り変わり五感を使い楽しんだ。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
朝 全体会議	理念の継承	参加者 全員	朝の打ち合わせ時にサービス提供指針を唱和。 会議時には服務心得の読み合わせ。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 - (1) 職員歓送迎会を開きおしゃれな場所と美味しい食事で職員親睦を図り、誕生日には朝のミーティング時に皆でお祝いの言葉と拍手を送った。どの職員も誕生日は最高の笑顔で勤務に励んでいた。
 - (2) 勤務終了時には管理者から「お疲れさま。今日もありがとね。」の一声で、気持ちを切り替えて帰宅出来るように労いの言葉を実施した。明日の励みにも繋がった。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内 研修	毎月	全体職員会議時研修	11 名	7/29	断水時の対応	9 名
	10/14	AED 講座普通救命講	13 名	随時	サビ管研修 (25 件)	73 名
法人研 修	4/1	新人オリエンテーション	1 名	8/6	外岡弁護士「虐待」	1 名
	9/16	虐待防止	1 名	10/1	新人オリエンテーショ	2 名
	10/16	建物点検マニュアル	1 名	11/19	事例検討会	1 名
	11/27	交通安全講習会	2 名	3/24	防災研修	1 名
施設外 研修	4/30	あいおい「BCP 訓練」	1 名	6/30	新人職員礼拝	3 名
	8/27.9	感染症職員向け講座	3 名	9/9. 13	サビ管動画研修	1 名
	9/23. 27	強度行動障害	1 名	10/1	サビ管研修	1 名
	11/5	重心コーディネーター	1 名	12/3. 4	サビ管更新研修	1 名
	12/8	多職種連携	1 名	6/18	熱中症対策アンパサダー	1 名

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
1 回/月	散歩コースのゴミ拾い	利用者職員全員対象
1 回/月	地域のアルミ缶回収と収集所整理整頓	利用者 3～5 名・職員 2 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
3 回/年	保護者会	保護者、職員
毎月	かたくりの花お便り「風さゆる」を配布	利用者、保護者、職員
12/6	大掃除	保護者 10 名、職員 5 名
12/23	引き渡し訓練	保護者 利用者 GH 世話人 職員

G 苦情について対策

(毎日の登所や送迎等の引き渡し時に何か気になる事や困っている事をお伺いする声掛けを実施することで苦情になる前にお話を聴くことができています。)

苦情：0件

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	2	ヒヤリ	76	虐待	0	身体拘束	1479
----	---	-----	----	----	---	------	------

事故：玄関自動ドアにぶつかる・職員足踏み外し打撲

ヒヤリ：服薬忘れ2件・ふらつき等

身体拘束：車いすベルト装着（同意書に基づき）1470件

行動制限：移動困難・道路飛び出し安全確保等（移動困難：同意書に基づき）9件

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災（BCP・災害）：改訂実施（感染症）：改訂中

施設防災訓練（火災・地震）毎月実施。防災食を全員7日間分と飲み水準備完了。しかし、生活用水については不十分。現在検討中。法人訓練では停電を想定し、対策本部、情報班、支援班、救護班、食事班・施設外回り点検班に分かれ訓練を行う。課題が見つかり毎月の訓練時で対応している。11月より毎月の防災訓練時に建物点検を始めた。

法人防災訓練も含め総合防災訓練を2回実施。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

5/7～17 職員駐車場アスファルト舗装工事実施。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024年度決算	2023年度決算	増減
サービス活動収益計	60,778,254	53,838,569	6,939,685
サービス活動費用計	46,304,675	43,847,979	2,456,696
経常増減差額	14,602,649	9,964,208	4,608,441
特別増減差額	△4,500,000	△2,999,999	△1,500,001
当期活動増減差額	10,102,649	6,994,209	3,108,440

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

7/9、11 吉田支援学校高2年生1名 10/21、22、23 吉田支援学校高2年生1名：実習参加

8/19～9/16の10日間常葉大学保育学部3年生1名：実習参加

4/1～2 岩本造園さん（2名）庭木の手入れと草刈

4/1～8/31 食堂とトイレ掃除 14:30～15:30の1時間保護者2名と地域の方1名が順番で行事や個別外出時にボランティアとして6名。

1回/年：金谷手打ちそばの会さん（3名）手打ちそばの実演

2回/年：喫茶アルムさんより行事（夏祭り・クリスマス会）時コーヒー提供

個別外出やジャム作りに流しそうめんの行事時に学生ボランティア1名：元職員1名参加

N その他

創立18年目

2024（令和6）年度事業報告

就労継続支援A型事業所
ワークセンターカサブランカ

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

「利用者が安心、安全に働き、希望を持てる事業所へ」今年度は職員が一致団結し事業所を利用者も職員も働きやすく希望が持てる事業所にと進めてきた。大きな事故、ケガ、苦情もなく1年を終えることができました。コミュニケーションが取れるように環境設備の改善、業務の見直しやマニュアル作りを行い、今後も円滑に事業が進められるように、今以上に安心、安全に働き、希望を持てる事業所になるようにしていきたい。

2 事業報告

(1) 職員育成、体制・業務の見直し

福祉事業所並びに就労支援の事業所の職員としてふさわしい接遇、関わり方を職員全員で学んでいく。また随時業務の見直しを行い、ご利用者の支援、業務に当たれるようにした。就労支援に必要な知識習得のためジョブコーチ研修、就労支援実務研修等に参加、A型事業所の職員としての育成を行った。

(2) 就労継続支援A型事業所としての実績

ご利用者の作業能力の向上の他、一般就労に必要な常識（身だしなみやルール）の習得、作業経験を目的とし企業、B型事業所に体験実習をこれまでよりも多く行った。また、今年度は3名のご利用者が一般就労することができた。それぞれ、見学、体験実習、採用実習と時間をかけて、ご利用者と企業が一番望む形で就労でき様に支援に勤めた。

(3) 新しい業務の習得

今年度から新しい業務が追加される予定であったが、新規業務は実施延期となった。

(4) 送迎サービス

六合駅～当事業所の送迎サービスを継続して行った。加算対象にはならないが、ご利用者の必要な支援として、送迎サービスは継続し、今後、法人内外の事業所間の協力体制の構築、地域に貢献できるような有効的な送迎サービスの検討を考えていきたい。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

牧ノ原やまばと学園の「サービス提供指針」に基づいた、利用者ひとりひとりをかけがえのない存在として重んじ、常に利用者の立場に立ったサービスを提供するよう努める。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) 人材の確保、育成

ご利用者も雇用契約を交わし作業に従事している当法人の職員という立場である。事業所の職員だけでなく、ご利用者も一緒にステップアップできるように、今年度、法人の新年度研修にご利用者も参加し有意義な研修となった。今後も機会があれば積極的にご利用者の研修等を考えていきたい。

(2) 防災の充実

防災訓練の実施、法人合同の防災会議にも参加し連携して進めていきたく。また、同じ敷地内で委託先の市環境課と連携して緊急時の備蓄、防災用品の準備を進めていけるように、会合を持った。今後も協力して進めていきたい。

(3) 地域への発信

環境整備として地域社会の中で貢献度がある事業です。ご利用者が誇りと自信をもって仕事に取り組めるように、掲示板等を活用し地域に理解してもらえるように心情報を発信した。また、法人の地域貢献交流事業のイベントや交流会にご利用者がスタッフとして参加した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
15	13	-2	248	2834	11.4	76.2
区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
10	0	2	1	0	0	0

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	1	2	0	7
常勤換算	0.1	0.9	1.1	0.8	0.6	0	3.5
計画との差	0	0	+0.3	-1.6	+0.4	-0.2	-1.5

- ・職業指導員…5月に1名採用。1月1名生活支援員に変更。2月に1名退職。
- ・生活支援員…1月1名身分変更で正職からパートに変更。1名職業指導員から変更
- ・事務員…12月1名採用。1月1名身分変更で正職からパートに変更。

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	135.5	最高残業時間	2	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	84.6
-------	-------	--------	---	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	5・11月	事故防止委員会	澤渡
毎月	作業就労部会	澤渡	6・3月	虐待防止委員会	全員
毎月	施設管理者会	澤渡	6・3月	感染予防委員会	全員
5・11月	防災委員会	木野	随時	事務連絡会	曾根・山中
10・3月	苦情解決委員会	澤渡	随時	市しごと部会	木野

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 就労継続支援A型事業所として、雇用契約に基づく就労の機会を提供し、一般就労に必要な知識・能力の向上のために必要な訓練を実施した。2月には圏域のしごと体験「輝きウイークⅡ」に11名の利用者が参加、一般企業に体験実習に行ってきた、
- 2 作業のやり方、作業テントハウス内（利用者の休憩場所も含む）を常に整理整頓し、使いやすいようにした。
- 3 利用者研修として計画を基に4/20法人の新年度研修に参加。7/18交通安全研修 島田警察署交通課の方に来ていただき、交通事故の危険予知トレーニングと交通マナーについて学習する。
- 4 健康管理として夏季の時期は繁忙期でもあり熱中症対策も考え、PMの休憩時にはアイス等冷たいものなどを提供した。感染症対策を考えながら業務遂行に支障のない範囲で利用者の励みとなるような季節の小行事を提供した。今年度は数年ぶりに旅行を実施、近場であるが焼津で作業体験を中心に日帰りで行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	支援の定着	全員	サービス提供指針を読み合わせた
随時	支援の学習	全員	サポートカレッジの活用

職員会議を1回～2回/月実施、サービス指針の定着、事業所内研修の実施が定着できるように心がける。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
職員がチームワーク、コミュニケーションをとり日常的に『報告、連絡、相談』を行いやすくなるように、風通しの良いチームを形成するようにこころがけた。
数年ぶりに職員での会食会を実施し親睦を深める。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人研修	4/20	新年度研修	4+13	3/24	防災研修	1
	8/6	外岡先生研修	1	2/28	主任等研修	1
施設内研修	随時	サポートカレッジ	全員	7・3月	虐待防止研修	全員
				7・3月	感染症予防研修	全員
施設外研修	4/23～26	ジョブコーチ研修	1	5/15～17	ジョブコーチ研修実践研修	1
	6/3～6	ホークリフト技能研修	1	7/16～18	就労支援者基礎研修	1
	11/21～22	サビ管更新研修	1	12/24～25	サビ管実務者研修	1
	随時	輝きセミナー	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
5/26	阿知ヶ谷・東光寺地区ふれあい広場 ワークセンターやまばとの焼き菓子を販売	2名
12/5	ニコニコクリーン大作戦	利用者・職員全員
3/19	しまだっ子ちょっこと交流	利用者1名・職員1名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	カサブランカ便りを発行	事業所発行

G 苦情について対策

日付	誰から	内容	対応者

今年度、苦情の案件はありませんでした。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	0	ヒヤリ	2	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

ヒヤリ：指先切り傷、利用者同士のケンカ

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 「地震・風水害対応マニュアル」「災害時事業継続計画」「消防防災計画」に基づき対応し、毎月の防災訓練年1回の総合防災訓練及び備蓄品、食品及び保存水の点検を実施した。
- 通勤手段として自転車、自動車通勤の方がいるため、日頃から道路交通法を守り、安全に通勤する意識付けを行った。
- 感染症防止対策は、手洗い、マスク着用の対策を継続、入り口に検温機を設置し、利用者、職員とも出勤時の検温、消毒、来所者に対しても立ち入り時に検温、消毒の実施を継続しました。日々、施設内のテーブルの消毒、換気の対策も継続的に実施した。今年度も事業所内での感染（クラスター）を出すことはなかった。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

特になし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告**1 収支報告（事業活動）**

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	45,708,739	44,933,074	775,665
（内、就労支援事業収益）	(24,458,500)	(24,458,500)	0
サービス活動費用計	41,630,616	41,281,397	349,219
（内、就労支援事業費用）	(24,458,500)	(24,458,500)	0
経常増減差額	4,100,542	3,682,534	418,008
特別増減差額	-2,100,001	-2,000,000	-100,001
当期活動増減差額	2,000,541	1,682,534	318,007

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

特になし

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 利用希望者 4 名の方の実習は随時実施した。
- 2 垂穂寮で受入れた福祉大の学生の実習を 1 日カサブランカで実施する
- 3 一般の方で福祉や環境に興味がある方の見学を 4 組受け入れた。今後もボランティアや見学の希望があれば積極的に受け入れていきたい。

N その他 （監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 今年度、18 年目
- 2

2024（令和6）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターコスモス

A 2024年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

個々の障がい特性に応じた環境設定を行った。作業場所、作業内容を細かく設定し、落ち着いて過ごせるよう配慮を行った。特別支援学校の実習生受入れにより、2024年4月からの新規利用者1名を獲得した。

2 事業報告

健康面から他施設に移行された方が1名いた。法人が決定した2025年度4月からの事業種別変更に伴い、2名のご利用者が法人内就労継続支援B型事業所に移行された。定期的なSNSの活用を意識し、施設のアピールを行った。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

職員会議でのサービス提供指針の読み合わせにより、理念に基づいたサービスの提供を行えた。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

（1）職員育成（レベルアップのための研修）

職員から要望のあった研修内容や等級に合わせた研修を行った。

（2）条件付き同性介助

男性職員が不在の為、緊急時には本人や保護者の同意を得て女性職員が対応をした。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	14	-3	252	3676	14.6	73.0
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	2	2	7	3	0

8月、体調面とご家庭の事情により生活介護事業所に移行された方が1名。2月、3月には事業種別変更に伴い、他就労継続支援B型に移行された方が2名。（3名減）

契約者数が17名から14名。（2025年度4月より1名新規利用予定）

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	6	1		12（1）
常勤換算	0.25	1.0	2.05	2.25	0.52		6.07
計画との差				0.7			0.7

8月、パート職員2名入職

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	20	最高残業時間	11	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	70.0
-------	----	--------	----	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	全員	隔月	島田市しごと部会	1
毎月	作業就労部会	1	隔月	法人防災委員会	1
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
隔月	法人防災委員会	1	年2回	事故防止委員会	1
隔月	編集委員会	1	隔月	事務連絡会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・毎月：誕生日カードの掲示 体重・爪検査・血圧測定
- ・春・秋（年2回）：健康診断
- 4月：勤続表彰・歓迎会 6月：個別体験学習 7月：七夕 8月：縁日 9月：民児協交流会（ゲーム） 10月：ハロウィン（キッチンカー） 11月：個別体験学習
- 12月：クリスマス会 1月：民児協交流会/島田市出前講座（感染症について） 2月：節分、バレンタインデー 3月：ホワイトデー

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針を読み合わせた
毎月	ケース会議	全員	職員会議で、利用者支援についての検討・共有を行った

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
職員会議の際、業務と関係ないテーマで話す時間を設け、スタッフ間のコミュニケーション向上を図った。 食事会を開催し、リラックスした時間を設けた。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	7月	身体拘束について・サボカレ	全員	毎月	虐待防止委員会	全員
	8月	通所施設でのBCP・サボカレ	全員	2月	災害BCPに基づいた机上訓練	10
	9月	知的・発達障がい者の感染症対策・サボカレ	10	10月	感染予防とゾーニング	6
	1月	感染症対策実施研修	7	11月	てんかん発作の対応	3
	11月	てんかんの分類	3	11月	てんかんとは	3
法人研修	4/15	新年度研修	2	4月	新人管理者研修	1
	8/6	虐待・身体拘束及びBCP研修会	1	11/27	交通安全教室	
	12/3	防災研修	1			1
施設外研修	10/16	本当の自立支援がわかる講座	1	9月	セルフリーダーシップのススメ	1
	10/21	行動障害支援に役立つ基本のコツ	1	12月	急変を見逃さない為の救急講座	1
	1/31	実践研究報告会	1	5月	感染症講座（初級）	
	9/6	感染症講座（中級）				

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
年3回	島田第2地区民児協交流会	委員4名、利用者全員
12月	島田高等学校交流会（クリスマス）	島高関係者44名、利用者、職員
12月	にこにこしまだクリーン大作戦	職員1名、利用者3名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
4月	保護者会・事業種別変更に伴う法人説明会	長澤理事長、板倉事務局長、河本部長、森山、大塚
2月	保護者会・建物改修工事に伴う説明会	河本部長、森山、大塚、保護者
3月	保護者会・次年度の説明、契約等について	森山、大塚
毎月	コスモス便りの配布	保護者・グループホーム

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	2	ヒヤリ	17	虐待	0	身体拘束	3
----	---	-----	----	----	---	------	---

事故：ロッカーの扉がご利用者の頭部に当たる。歩行時、ケースに躓く

ヒヤリ：公用車運転速度、駐車方法、製品取扱いミス、利用者間トラブル、歩行不安定等

身体拘束：突発行動の際、複数職員で両腕を抑えた（同意書有）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月火災と地震避難訓練を交互に実施。

4月・10月、総合防災訓練（消防署への事前申請）。年1回（10月）保護者への引き渡し訓練を実施した。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

・防虫防鼠施工（2か月に1度点検）

・屋根、外壁及びトイレ水回り等の建物改修工事を2月から開始した。1階トイレ改修工事費用550万（島田市補助金申請100万）を支払った。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024年度決算	2023年度決算	増減
サービス活動収益計	32,091,867	30,455,185	1,636,682
（内、就労支援事業収益）	2,046,722	2,115,890	△69,168
サービス活動費用計	29,526,218	23,544,375	5,981,843
（内、就労支援事業費用）	2,047,074	2,116,867	△69,793
経常増減差額	2,621,158	6,954,563	△4,333,405
特別増減差額	△2,000,000	△3,027,945	1,027,945
当期活動増減差額	621,158	3,926,618	△3,305,460

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

2025年度4月より生活介護事業への事業種別変更に伴い、就労継続支援B型事業の廃止届、生活介護事業所としての新規届出の申請を行った。

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・毎週木曜日午前 作業ボランティア 1名
- ・島田市立看護専門学校生 18名
- ・清流館高校生 2名
- ・常葉大学保育学部学生 2名
- ・藤枝特別支援学校生 2名（3年生/2回 1年生/1回）
- ・島田市立第一中学校職場体験 1名（2年生）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立44年（牧ノ原やまばと学園運営 17年）

2024（令和6）年度事業報告

就労継続支援B型
ワークセンターなのはな

A 2024年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標「仲間と共に楽しく働ける環境を作ります」
- 2 事業報告
 - (1) 終礼の時間を設け、自分の頑張った事や嬉しかった事、仲間に対する感謝の気持ちを述べる場を作ったことで、互いに認め合い、関係を深める機会となった。
 - (2) 家庭環境の変化や、自主通所の困難な利用者、交通機関の不都合等の理由から、10名の送迎サービス利用があった。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
職員会議時にサービス提供指針の唱和、聖書のメッセージの回覧により、自分を振り返り、互いに共有するなどし、理念に基づいたサービス提供が行えた。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) 防災研修やBCP訓練等の中で、防災対策の見直しや強化に努められた。
 - (2) 原子力災害対応マニュアルについては、有事に対応するために検討した。今年度、本部や部会で確認し修正したい。
 - (3) 認知度が低下した利用者、将来的に一般就労を求めている利用者と、年齢差、支援の差が拡大。サポカレ受講や就労事業所見学等で意識を高め、職員間で助け合いながら支援に努められた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
30	27	1	252	6218	24.6	82.2
区分なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
15	0	1	4	4	1	0

※1名生活介護事業所へ移行により退所。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	3	8	1		12
常勤換算	0.5	0.5	2.1	5.0	0.2		8.4
計画との差							0.0

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	20	最高残業時間	13	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	54.0
-------	----	--------	----	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	12	隔月	編集委員会	1
12/3	法人防災委員会	1	年5回	研修委員会	1
隔月	しごと部会	1	5/22, 11/25	事故防止委員会	1
隔月	事務連絡会	1	4/26 10/25	苦情解決委員会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- (1) 個別支援計画に基づきグループ活動を充実させ、利用者の喜び、働く意欲を感じられる活動となった。
- (2) 作業や活動、地域貢献活動他、様々な経験をする中で達成感や喜びを感じることができた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
隔月	理念の継承	全員	職員会議でサービス提供指針の読み合わせを行った
毎月	ケース会議	全員	職員会議にて、利用者支援についての検討・共有を行った

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
職員会議の際に、ティータイムや食事会など設け、不安を分かち合い、意見や提案を自由に発言できる環境、風通しの良い環境作りの機会となった。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	7/19 1/17	身体拘束・虐待	12	7月～12月	サボカレ障害特性（自閉症・構造化・ダウン症・コミュニケーション・意思決定支援）	9
	11/15 2/21	防災研修 BCP 訓練		1. 2. 3 月	サボカレ （事故防止・チームワーク・ストレスマネジメント）	9
	9/23. 3/21	感染症研修	12	3/21	感染症 BCP 訓練	12
法人研修	11/18	事例検討会	1	2/19	労務研修	1
施設外研修	5/6	普通救命講習	12	12 月	防災研修	1
	7/5. 6	日キ社事同研修	1	1/16. 17	サビ管実践研修	1
	8/1. 2	甲種防火管理者講習	1	1/15	予算管理講座	1
	8/27	感染症対応訓練	1	3/24	決算実務講座	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
4 月	市内一斉川ざらい協力	職員 5 名
年 6 回	横井町クリーン作戦	利用者 24 名、職員 9 名
7/26. 12/19	起震車体験・民生委員交流会	利用者 26 名、職員 12 名、地域の方 3 名、民生委員
9 月 3 月	法人地域貢献事業参加	利用者 10 名、職員 4 名
11/15	社協出前講座	利用者 26 名、職員 12 名、保護者 2 名
12/5	島田市ニコニコクリーン作戦	利用者 7 名、職員 3 名
10/13	横井町防災訓練参加	職員 2 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
4/19	保護者連絡会	職員、保護者
7/26. 8/31. 11/14	行事招待	利用者・保護者・地域・職員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

苦情なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	10	ヒヤリ	4	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

事故：転倒、他害、交通事故

ヒヤリ：転倒回避、飛び出し

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

防災訓練（災害）マニュアル等の整備し、毎月の施設防災訓練実施。

内、総合訓練2回実施、課題についての検討を行った。地域防災訓練、社協主催

島田市災害連携強化プロジェクト会議に参加、有事の災害時の連携に備えた。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

9/7～9/21 外壁塗装工事

12/7 館内定期清掃を行い、老朽化の対策をした。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告**1 収支報告（事業活動）**

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	51,862,636	50,520,949	1,341,687
（内、就労支援事業収益）	5,110,445	5,511,375	△400,930
サービス活動費用計	48,009,146	43,623,143	4,386,003
（内、就労支援事業費用）	5,110,445	5,511,375	△400,930
経常増減差額	3,436,747	6,624,357	△3,187,610
特別増減差額	△1,005,721	△1,934,462	928,741
当期活動増減差額	2,431,026	4,689,895	△2,258,869

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2017/5/1	01.058	25 年	静岡銀行	78,000,000	24,700,000	53,300,000

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

なし

M 実習生やボランティアに関する報告

藤枝特別支援学校生 1 名（体験 3 名）

島田看護専門学校生 11 名

清流館高校生 2 名

島田第一中学校福祉体験 4 名

恵泉女学院 8 名+教員 1 名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立 24 年

法人傘下（2009 年より）15 年

2024（令和6）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターあさがお

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

「利用者にも職員にも働きやすい環境作り」

職員が職員会議で活発に意見が出るようになり、お互いの考え方や困っていること等が共有出来てきたと考える。また、利用者への視点も各々成長が感じられる。

2 事業報告

(1) 作業効率を高め、職員の負担を軽減し利用者支援をより厚くして行きたい。

6月に正職の異動ありサービス管理責任者が施設長兼から専従となった。サービス管理責任者としての経験豊富な職員の為、支援や支援計画についてより細かい検討が出来るようになった。1月にパート職員1名が法人内事業所に異動し、職員1名減となり、作業の建て直しを行った。

(2) 各種マニュアルの整備と必要に応じた作成

各種マニュアルについては整備途上。より現実にあったものへの変更、不足しているものを作成中。

3 理念に基づくサービス提供」についての活動報告

(1) 地域の情報収集に努め、地域のニーズを把握する

島田市自立支援協議会しごと部会に参加し情報収集に努めた。

(2) 利用者との良好な関係作りに努め、信頼関係を作る

始業前、休憩時間等に話をし、利用者から声を掛けやすい雰囲気努め、必要があれば都度、昼休み等に話を聞いた。また、出来た事や気づいたことには、些細なことでも褒めたり、感謝の気持ちを伝えるよう努めた。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) 防災について 各種マニュアルの整備、備蓄

各種マニュアルについては整備不十分な状況。備蓄については整理・補充が出来た。

(2) 職員育成について サボカレ・外部研修を利用し、スキルアップを目指す

祝日の午後にサボカレを使い、研修が出来たが、外部研修にはほとんど行けなかった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	19	△2	251	4447	17.7	88.5

※5月と8月に1名ずつ他事業所へ移行。9月から契約者数19名となった。

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	1	8	1		12
常勤換算	0.12	1	1	4.36	0.25		6.73
計画との差	△0.38	0.5	0	△0.53	0		△0.41

※職員異動あり6月からサービス管理責任者が施設長兼務から交代し専従となった。施設長は目標工賃達成指導員と兼務となった。

※8/1パート職員1名 週4/5Hから週5/5Hに契約変更。

※1/1パート職員5h・週4日、1名異動。

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	32	最高残業時間	2.5	有給義務取得率	100	有給休暇取得率	85.3
-------	----	--------	-----	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	10	年2回	苦情解決委員会	1
奇数月	自立支援協議会しごと部会	1	年2回	事故防止委員会	1
毎月	施設管理者会	1	毎月	作業就労部会	1
年2回	防災委員会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- (1) 毎月第2火曜日に奇数月は体操教室、偶数月は笑いヨガを行った。
(2) 行事 4月：交通安全教室 5月地域飲食店巡り 7月：七夕 8月夏祭り
9月：お月見 10月：ハロウィン 11月：ボーリング大会 12月：年賀状作り
と親睦会食 1月：絵馬づくり 3月：年度末慰労お楽しみ会

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	職員会議	全員	サービス提供指針の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
・6月と12月に懇親会を行った。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	9/26	事例検討会	11	祝日	サポカレを利用	全員
法人研修	4/20	新年度研修	3	8/6	外岡弁護士研修	1
	9/18	法人虐待防止研修	1	11/18	ケース検討会	1
	1/15	合同事務研修	2	2/19	「子育て・介護と仕事の両立支援への取り組み」	1
	10/8.9	サビ管基礎研修	1	6/14	オールスタッフミーティング	1
施設外研修						

- ・9/26 ケース検討を相談員、スーパーバイザーを招き行った。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
4月～第2火曜日 14時	奇数月：体操教室 偶数月：笑いヨガ	利用者、職員、地域住民
6月	初倉地区民生児童委員交流会	委員、利用者、職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
5月	保護者連絡会	保護者、正職員
毎月	毎月の予定表「あさがおカレンダー」配布	

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- ・0件 苦情があった際には速やかに対応したい。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	6	ヒヤリ	5	虐待	0	身体拘束	1
----	---	-----	---	----	---	------	---

- ・事故 6 件：利用者間トラブル 3 件、他 3 件
- ・ヒヤリ 5 件：資材落下未遂、道具の仕舞い忘れ、他 3 件
- ・身体拘束 1 件：職員に掴みかかったため、職員 2 名で制止。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・防災訓練を毎月実施した。地震、火災、通報、不審者侵入等想定を変えて実施。
- ・法人全体防災訓練への参加。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

- ・事業所内駐車場の縁石に公用車をぶつける事故があった為、対策として視認性を上げるポールと縁石の角にクッション材を設置した。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	41,460,572	43,682,696	△2,222,124
（内、就労支援事業収益）	3,348,231	3,875,270	△527,039
サービス活動費用計	35,670,713	35,533,389	137,324
（内、就労支援事業費用）	3,349,804	3,875,645	△525,841
経常増減差額	5,818,552	8,180,788	△2,362,236
特別増減差額	△1,500,000	△3,446,657	1,946,657
当期活動増減差額	4,318,552	4,734,131	△415,579

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

- ・5/24 処遇改善加算（新加算）の算定に係る体制届提出
- ・6/10 サービス管理責任者変更の為、県へ変更届を提出

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア：・0 様 火曜日午前 ・K 様 火、木曜日午後 ・0 様 金曜日午前

【実習生】

- ・吉田特別支援学校高等部 2 年生 7/1～7/12
- ・清流館高校 1 年生介護実習 2 名 7/9・10
- ・希望寮実習生 見学・体験 7/11 2 名、7/22 2 名
- ・吉田特別支援学校 海野教諭 社会体験実習 8/19.20
- ・9/19.20 初倉中学校 2 年生 2 名 職場体験実習

【見学】

- ・4/12 吉田特別支援学校高等部 1 年生と母
- ・8/6 藤枝特別支援学校職員 10 名
- ・8/9 吉田特別支援学校職員 5 名
- ・8/27.29 吉田特別支援学校 保護者・本人
- ・9/12 吉田特別支援学校小学部保護者 2 名
- ・9/24 吉田特別支援学校高等部 1 年 8 名・教師 3 名 短時間の作業体験

N その他

- ・9/5 帰宅途中で利用者間トラブルあり。帰宅途中の職員が発見し事業所に応援要請あり職員 3 名で対応。市民の通報あり、施設長が警察からの聴取を受けた。保護者、計画相談、事業所で通所方法について検討し、当事者同士にお通所、退所時間に差をつけ対応。
- 9/26 計画相談事業所、スーパーバイザーを招き、事例検討会を行った。
- ・創立 13 年（2012 年 4 月）

2024（令和6）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンター希望の家

A 2024年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について

「健康で、楽しく、仲良く、仕事をしよう」という目標に対して活動した。ご利用者 1 名退所、3 名新規利用開始。作業意欲につながるよう、日々の活動の中にチームワーク形成やお楽しみを踏まえた行事を取り入れた。ご利用者の新しい能力を発見することで、作業範囲が広がり、月額ベースでの収入アップにつながった。
- 2 事業報告
 - (1) 職員全員が共通理解を持ち、統一した支援、チーム支援を行う。サービスの質の向上に努める。
職員会議内でケース検討会を開き、職員の意見を吸い上げて支援内容を共有、統一した支援に努めた。朝の打ち合わせも利用し、個別支援計画の変更や支援会議の内容を周知。職員全員が同じ情報を持つことで支援内容やサービスの質に差が出ないようにした。
 - (2) 業務マニュアルの作成、役割分担を可視化することで 3M（ムリ・ムラ・ムダ）を減らし、効率的な労働環境を整える。
送迎マニュアルを見直し送迎記録簿に降車チェック欄を設け、より安全な送迎サービスを提供するための改定を行った。作業に関しては、作業量の調整をご利用者の対応力を基に職員と検討。より作業単価の良い種類への変更を行い、月額ベースでの収入アップにつながった。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
 - (1) 牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいてサービスの提供を行った。
職員会議内で理念の唱和、理事長の言葉を自由回覧し理念の浸透と指針に基づいたサービスの提供を行った。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) スタッフの育成 支援力向上
ご利用者の特性に合わせた研修を実施。研修の内容を基にケース検討会を行い、より実践的な支援スキルの習得に努めた。事故・ヒヤリの振り返りは職員全員で支援アイデアを出し、意見を肯定的に取り入れることで職員の自信にも繋げた。
 - (2) 防災の充実 施設全体の防災力強化
救命救急講習（AED 講習）を全職員が受講。8 月に南海トラフ地震臨時情報が発令されたことに併せ、施設内外の危険個所の抽出と、避難経路確保のために作業資材の置き場所やテナーのロックなどの対策を行った。備蓄品の見直しを行い、モバイルバッテリーやヘッドライト・カセットコンロなどを追加購入した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	21	2	251	4252	16.9	84.7

*1/4 男性 1 名生活介護へ移行、3/1 女性 1 名 3/10 男性 2 名利用開始

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	4	2	1		9
常勤換算	0.125	0.5	2.875	1.7	0.125		5.325
計画との差	0	0	0.125	△0.5	△0.245		△0.62

3 残業、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	1	最高残業時間	1	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	67
-------	---	--------	---	---------	-----	---------	----

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催予定

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	7	年2回	法人防災委員会	1
〃	施設管理者会	1	年2回	事故防止委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	虐待防止委員会	1
隔月	事務連絡会	2	年2回	苦情解決委員会	1
7月	学校説明会	2	年2回	感染症対策委員会	7
11月	自立支援推進会議	1	適宜	身体拘束検討委員会	7

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・自立支援協議会主催の「輝きウィーク」を利用し、1名職場体験に参加。就労移行等連絡調整事業の職業準備性チェックも利用し、現状の課題や達成点を客観的に把握。本人の目標を明確化し支援内容にも取り入れた。
- ・年2回の健康診断、歯磨き教室（歯科医、歯科衛生士を招く）、予防接種、毎月の体重血圧測定、日常生活衛生面の支援を行った。
- ・利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行った。
5月：家族に感謝の日 6月9月11月：モルック大会 7月2月：交通安全教室
8月：夏祭り 10月：ハロウィン 12月：クリスマス会 2月：バレンタイン
3月：買い物訓練

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議内で理念と6つの願いを唱和
毎月	ケース検討	全員	職員会議内で利用者支援について共有、検討を実施
随時	理事長の言葉	全員	理事長の言葉を自由回覧

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った
モルック大会を開催するにあたり、職員で意見を出し合いルールを希望の家用にアレンジ。ご利用者の楽しむ姿を想像しながらの話し合いは、職員の支援力、職務意欲が伺えた。2月にはふれあい職員と合同で懇親会を開き、川根温泉ホテルにてディナーバイキングを堪能。業務を離れた会話の機会を作った。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	6/26	倫理・法令遵守研修	7	12/25	ノロウィルス対策	7
	7/24	衝動性について	7	3/7	身体拘束研修	6
	8/29	熱なしコロナ	7	3/28	防災研修伝達	7
	9/16	虐待防止・身体拘束	7			
法人研修	4/12	決算研修	1	1/15	予算編成研修	2
	4/20	新年度研修	3	2/7	送迎時防災研修	1
	10/1	新人オリエンテーション	1	2/19	労務関係研修	2
	11/27	交通安全講習	1	3/24	防災研修	
施設外研修	6/18	相談初任者研修	1	8/26	サビ管基礎研修	1
	6/19	防火管理者講習	1	1/28	成年後見制度	1
	7/26	救命救急講習	6	2/17	指導監督職員研修	1
	8/20	経理応用講座	1	3/20	会計決算研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連する報告

日付	内 容	参加者
5/14	施設周り・近隣草取り	職員2名・利用者5名
6/1	金谷地区社協総会出席	職員1名

9/21	金谷地区社協主催絆フェスタ maru 参加	職員 2 名・利用者 5 名
12/5	にこにこクリーン大作戦 金谷地区清掃活動	職員 1 名・利用者 3 名
1/25	金谷公民館まつり	職員 2 名
3/26	法人地域貢献事業 しまだっ子交流会	職員 1 名・利用者 3 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	希望の家お便り配布	利用者・保護者
年 1 回	保護者会	職員・保護者
12/19	クリスマス会 保護者招待	職員・利用者・保護者

G 苦情について対策

苦情なし。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告

事故	6	ヒヤリ	5	虐待	0	身体拘束	2
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：利用者トラブル 3 件 転倒 2 件 自動車事故 1 件

ヒヤリ：服薬関係 3 件 しりもち 1 件 不穏 1 件

身体拘束：ご利用者 A さん 2 件 健康診断採血時 9/26 予防接種時 11/13（同意書有）

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月火災・地震避難訓練を実施した。年 2 回消防署へ事前申請し、全体総合訓練を行った。

11 月法人全体防災訓練の際引き渡し訓練も併せて実施。ご家庭・GH の参加協力を得られた。1/30BCP 訓練実施、机上訓練にて初動対応の確認を行った。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検、消防設備点検、草刈り等の環境整備、エアコン全機清掃

K 収支、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	35,888,674	32,900,487	2,988,187
（内、就労支援事業収益計）	2,564,755	2,621,807	△57,052
サービス活動費用計	29,991,962	29,291,664	700,298
（内、就労支援事業費用計）	2,566,139	2,624,060	△57,921
経常増減差額	5,955,540	3,650,075	2,305,465
特別増減差額	△4,014,522	△3,224,202	△790,320
当期活動増減差額	1,941,018	425,873	1,515,145

2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

4 月：体制届提出

M 実習生やボランティアに関する報告

実習生：吉田特別支援学校高等部 1 年生 1 名

ボランティア：年間を通して保護者様の草刈り 10/7～10/11 専門学生 1 名

見学者：特別支援学校高等部学生 3 名・保護者 特支職員・保護者 10 名以上

利用希望者 4 名

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立 41 年（県単独事業 27 年、牧ノ原やまばと学園運営 15 年）

2024（令和6）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターふれあい

A 2024年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 目標について

「地域とともに歩んでいく」という目標に対して活動した。災害時に地域と連携を取ることを目的に、自治会防災会議や地区防災訓練に参加。地域に感謝の日として近隣住宅へ挨拶に回り、施設ご利用者も地域の一員であるという意識が高まるよう活動した。島田市生活安全課主催の「公共交通ワークショップ」に参加。地域住民や民生委員、福祉事業所職員と意見交換や交通手段の企画を行う事で、高齢者だけでなく障害者のニーズを発信する機会になった。顔の見える関係性構築のためのひと手段と捉えている。
- 2 事業報告
 - (1) 職員全員が共通理解を持ち、統一した支援、チーム支援を行う。サービスの質の向上に努める。
職員会議内でご利用者の変化や現状の課題、個別支援計画の変更点を周知・共有。職員人数が少ないことも利点となり、共有がスムーズであった。
 - (2) 業務マニュアルの作成、役割分担を可視化することで3M（ムリ・ムラ・ムダ）を減らし、効率的な労働環境を整える。
送迎マニュアルを見直し送迎記録簿に降車チェック欄を設け、より安全な送迎サービスを提供するための改定を行った。ご利用者の椅子を新装したことに合わせて、作業動線の妨げとなっていた不要物を処分。日常業務に清掃を組み込むため、清掃の担当検討や時間調整を行った。
- 3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
 - (1) 牧ノ原やまばと学園「サービス提供指針」に基づいてサービスの提供を行った。
職員会議内で理念の唱和、理事長の言葉を自由回覧し、理念の浸透と指針に基づいたサービスの提供を行った。
- 4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - (1) スタッフの育成 支援力向上
ご利用者の特性・状態に合わせた研修を実施。研修を踏まえて、ご利用者の支援内容の見直しと方法の統一を行った。限られた時間の中で義務研修と施設に必要な研修の両方を取り入れることに苦慮した。
 - (2) 防災の充実 施設全体の防災力強化
8月に南海トラフ地震臨時情報が発令されたことに併せ、施設内外の危険箇所の抽出と避難経路確保のための対策を行った。地震や台風の災害時に職員の安全な出勤を確保するため、希望の家と入替出勤を試行。災害対応のシミュレーションができた職員からも安心の声が聞かれた。訓練の振り返りから帰宅困難者への対応を再検討。夜間避難生活に合わせた備蓄品の見直し、追加購入を行った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	13	0	250	2912	11.6	58.2

*10/24 女性1名利用開始、3/7 男性1名希望の家へ移行（GH入居）

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	1	1		6
常勤換算	0.125	0.5	1.875	0.75	0.125		3.375
計画との差	0	0	0.875	△0.875	0		0

3 残業、有給休暇取得に関する計画

総残業時間	10	最高残業時間	9	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	62
-------	----	--------	---	---------	-----	---------	----

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	5	年2回	法人防災委員会	1
〃	施設管理者会	1	年2回	事故防止委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	虐待防止委員会	1
隔月	研修委員会	1	年2回	苦情解決委員会	1
隔月	しごと部会	1	適宜	感染症対策委員会	5
年3回	川根本町自立支援推進会議	1	適宜	身体拘束検討委員会	5

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・自立支援協議会主催の「輝きウィーク」を利用し、2名職場体験に参加。
就労移行等連携調整事業の職業準備チェックも利用し、現状の課題や達成点を客観的に把握。本人の目標を明確化し、支援内容にも取り入れた。
- ・年2回の健康診断、歯磨き教室（歯科医、歯科衛生士を招く）、予防接種、毎月の体重血圧測定、日常生活衛生面の支援を行った。
- ・利用者の社会性の向上やチームワーク形成、所属意識の形成に必要な行事を行った。
5月：家族に感謝の日 6月3月：交通安全教室 8月：七夕 10月：ハロウィンイベント
12月：クリスマス会 1月：新年会 2月：バレンタイン 3月：地域に感謝の日

D 職員の喜びや成長のために実現したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った

日付	プログラム名	人数	内容
毎月	理念の継承	全員	職員会議内で理念と6つの願いを唱和
毎月	ケース検討	全員	職員会議内で利用者支援について共有、検討を実施
随時	理事長の言葉	全員	理事長の言葉を自由回覧

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った
利用希望実習生の受け入れがあり、新規利用を頂けるよう職員で団結。実際に利用が決まり喜びを分かち合った。2月には希望の家職員と合同で懇親会を開き、川根温泉ホテルにてディナーバイキングを堪能。業務を離れた会話の機会を作った。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	6/24	倫理・法令遵守	5	9/16	虐待防止	4
	7/22	統合失調症	5	12/23	ノロウイルス対策	5
	8/26	熱なしコロナ	5	3/20	身体拘束研修	4
	8/26	虐待防止・身体拘束	5	3/27	防災研修伝達	5
法人研修	4/20	新年度研修	2	2/19	労務関係研修	1
	11/18	事例検討研修	1	2/7	送迎時防災研修	1
	1/26	相談員情報交換会	1	3/24	B C P防災研修	1
施設外研修	1/28	成年後見制度	1	2/17	指導監督職員研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関連した報告

日付	内 容	参加者
9/18	公共交通ワークショップ参加	職員1名
10/26	家山自治区防災会議参加	職員1名
11/20	川根地区・医療他職種連携会議参加	職員1名
12/1	川根地区防災訓練参加	職員1名
12/5	にこにこクリーン大作戦（川根社協・福祉課）	職員2名・利用者6名
1/10	家山八幡宮へ参拝	職員2名・利用者13名
2/13	公共交通ワークショップ参加	職員1名

3/15	法人地域貢献事業 しまだっ子交流会	職員 1 名・利用者 1 名
3/21	地域に感謝の日	職員 1 名・利用者 12 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	ふれあいお便り配布	利用者・保護者
年 3 回	保護者会	職員 1 名・保護者 10 名
年 4 回	天王山の草刈り	職員 2 名・保護者・ボランティア

G 苦情について対策

苦情なし。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告

事故	1	ヒヤリ	3	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：ご利用者トラブル 1 件

ヒヤリ：転倒 2 件 送迎車自動ドア操作 1 件

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

毎月火災・地震避難訓練を、発生時間や場所など毎回パターンを変えて実施した。年 2 回消防署へ事前申請し、全体総合訓練を行った。11 月法人全体防災訓練では停電を想定し訓練を行った。停電を不安に思うご利用者があり、懐中電灯やランタンなど備品を追加購入。

8/28 大雨により県道 64 号線一時通行止め

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検、消防設備点検、草刈り等の環境整備、エアコン全機清掃

K 収支、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	24,401,916	23,336,037	1,065,879
（内、就労支援事業収益計）	1,887,583	2,203,856	△316,273
サービス活動費用計	21,321,003	23,516,559	△2,195,556
（内、就労支援事業費用計）	1,888,382	2,205,367	△316,985
経常増減差額	3,088,350	△179,920	3,268,270
特別増減差額	△1,006,051	224,200	△1,230,251
当期活動増減差額	2,082,299	44,280	2,038,019

2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

4 月：体制届提出 3 月：コロナ感染症クラスター報告

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア：年間を通して 10 名の方がボランティア参加（草刈り・アルミ缶回収）

見学者：女性 1 名・保護者、藤枝特支高等部 1 年 1 名・保護者、藤枝特支職員 1 名

GH とくやま職員 2 名、吉田特支高等部 1 年 1 名・保護者

実習生：女性 1 名→利用開始 藤枝特支高等部 1 年 1 名

N その他

創立 31 年（県単独事業 19 年、牧ノ原やまばと学園運営 14 年）

2024（令和6）年度事業報告

就労継続支援B型事業所
ワークセンターやまばと

A 2024年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

『ご利用者ひとりひとりを大切に、希望する生活が送れるように支援する』
夕礼を開始、当日のご利用者の情報を職員間で共有。翌日の支援に繋げる意識を持てた。日々のご家庭からの情報もその都度共有し、ご利用者の言動の理解に努めた。

2 事業報告

（1）ご利用者の情報共有、支援方法の統一を図り、希望する生活が送れるよう支援する。

- ①障害特性の理解を深めるためサポカレ動画視聴研修を実施した。日々の夕礼、毎月の職員会議にてご利用者の行動の意味を考え、特性を踏まえながら検討を行った。
- ②支援ニーズの共有は職員間で行っているが、共通の理解まではできておらず、支援方法も職員ごと違ってしまいう現状がある。
- ③毎日、記録、夕礼にて情報共有を行った。毎月の職員会議では、重要なケースについて情報を共有、支援方法について検討を行った。
- ④ご利用者全員に年1回以上ご家族や保護者、計画相談担当者と面談を実施した。支援目標の確認や提供サービスの内容確認を行う。

（2）手順書の見直しと改訂、作成を行う。

写真の準備をしたが、計画通りに進めることが出来ず完成には至っていない。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

毎朝礼時、牧ノ原やまばと学園の理念、ビジョン、わたしたちの願いを唱和している。
毎月の職員会議にてサービス提供指針、就業規則等の読み上げを行った。3月より、理念を踏まえた「体験から得たもの3分間スピーチ」を実施している。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

（1）質の高いサービスが提供できるよう、職員の専門性向上と精神的成長への配慮の実施。

- ①施設内研修で権利擁護、意思決定支援等、サポカレ動画視聴研修を実施、専門性の向上に繋げた。
- ②清流館高校生との介護実習、吉田特別支援学校生徒の職場実習を行った。また、ボランティアの受け入れも行っている。

（2）地域とつながる。

- ①牧之原市や圏域のイベントで自主製品の販売を行った。
- ②坂部サロンの送迎を継続している。
- ③近隣の小学校生徒の職業体験の受け入れ、買い物訓練の場として自主製品の販売を行った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	18	-1	252	4256	16.9	84.5

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	3	1	0	8
常勤換算	1	1	1.6	2.8	1	0	7.4
計画との差	0	0	-0.4	0.05	0	0	-0.35

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	146.25	最高残業時間	9.5	有休義務取得率	100	有給休暇取得率	99.8
-------	--------	--------	-----	---------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
〃	作業就労部会	1	〃	事故防止委員会	1
〃	職員会議	全員	〃	虐待防止委員会	1
隔月	事務連絡会	1	年3回	施設内感染症委員会	全員
〃	牧之原市実支援ネットワーク	1	随時	ドリームまきのはら会議	1

C 利用者の喜びのため工夫したこと（日課・行事・その他）

- 達成感に繋がるよう、前向きな言葉掛けを行った。
- すべての工程ができなくても、できる部分を生かし、これまで携わらなかった作業に取り組む機会を提供した。
- 5/24・5/30 買い物支援（静岡空港）
7/15 七夕、8/9 納涼会
10/11 工場見学（明治なるほどファクトリー）
11/22 ハイキング（石雲院）
12/6 クリスマス会、12/20 みかん狩り（大関農園）
1/10 初詣（飽波神社）
3/7 ボーリング大会（焼津グランドボウル）、3/10 河津桜見学

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 共通目標を認識するためのプログラムとして下記について実施した。

日付	プログラム名	対象者	内容
毎朝礼	理念の継承	全員	理念、ビジョン、ねがいを唱和
毎月	職員会議	全員	ケースカンファレンス、情報共有 支援方法検討・確認

- 楽しい職場づくり、チームワーク形成のため下記について実施した。
お互いを知り意見や提案が自由にできるよう、職員会議時のコーヒブレイク、2月に懇親会を実施、互いに分かり合う良い機会となった。

3 研修報告

種別	日付	内容	人数	日付	内容	人数
施設内研修	6/20	感染症研修（動画研修）	全員	7/15	虐待対防止研修	全員
	8/17	防災研修	全員	2/11	チーム視点	7
	2/11	感染症研修（サポカレ）	全員	3/20	感染症研修（手洗い）	6
法人研修	4/1	新人オリエンテーションα	1	4/20	新年度研修	4
	8/6	虐待防止・BCP 研修	1	10/2	新人オリエンテーションβ	1
外部研修	11/14 15. 16	リーダーシップ 研究ゼミ	1	12/16	リスクマネージャー 養成講座	1

E 地域に対する公益的取組や地域との交流に関連した報告

日付	内容	参加者
5/18	矢崎地域感謝祭（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
5/28	ケアセンター花もも（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 3 名
6/8	相良高校文化祭（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
9/19・2/5	相良庁舎（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
10/17	ハイマルシェ榛原店（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
11/28・3/6	榛原庁舎（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
7/7・9/22・3/20	泰善寺（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
11/30	吉田特別支援学校文化祭（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
1/24	牧之原市子ども部会研修（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
1/25	牧之原市福祉大会（自主製品販売）	職員 2 名・利用者 2 名
2/19	坂部小学校支援学級（職場体験）	教員 1 名・生徒 4 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内容	参加者
6/28	保護者会 重要事項等説明	職員・保護者
毎月	「やまばとだより」発行	

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	11	ヒヤリ	8	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

事 故：外出時の転倒、職員の業務手順等

ヒヤリ：作業棟内で転倒を伴わない接触等

I 防災関連：防災訓練計画／課題の克服等の報告

基本的な防災訓練を実施した（年 3 回）。防災訓練においては、同じ訓練により基本を体で覚える、ヘルメット等の基本的着用を実施した。2/27・28 は、引渡しの前段として保護者との電話訓練を実施した。

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）

毎月：害虫駆除（パン工場）

2 回/年：消防設備点検、空調機点検、ワックス清掃

1 回/年：浄化槽点検

K 収支、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	47,604,002	44,391,459	3,212,543
（内、就労支援事業収益）	8,806,492	8,150,837	655,655
サービス活動費用計	46,883,660	45,622,327	1,261,333
（内、就労支援事業費用）	8,806,492	8,272,338	534,154
経常増減差額	780,049	△1,194,398	1,974,447
特別増減差額	△605,171	△2,000,000	1,394,829
当期活動増減差額	174,878	△3,194,398	3,369,276

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

2/12 中部保健所立ち入り調査

M 実習生やボランティアに関する報告

＜実習＞

7/9～7/10 清流館高校 1 年生 1 名 介護実習

1/14～1/17 ワークセンターコスモス利用者 1 名 体験実習

1/27～1/31 吉田特別支援学校高等部 1 年生 1 名 職場実習

＜ボランティア＞

三浦様（吉田町在住） 作業手伝い等

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

創立 48 年（開所 1977 年 10 月 1 日）

2024（令和6）年度事業報告

就労継続支援 B 型事業所
ワークセンターさくら

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

『健康の維持・向上、仲間と働く喜びを支える』

2025 年 1 月 14 日から 27 日にかけて、ご利用者 8 名、職員 1 名がインフルエンザ A 型に感染し自宅療養をされた（県へは 1 月 21 日に報告）が、その他は概ね健康の維持は保たれた。高齢になり介助が必要となったご利用者は介護サービスへの移行をし、本人の体調に合わせた支援が受けられることとなった。2 月には 1 名が突然ご逝去された。又、1 名が住所地の B 型事業所へ移行したこともあり、年度中に 3 名のご利用者が利用終了された。利用人数は減少したが、受託量に変化はなく、ご利用者・職員が一人丸となって作業に取り組んだ結果、今年度の平均工賃が県提出の目標工賃を上回ったことは大きな喜びであった。

2 事業報告

（1）支援体制の充実を図る

ご利用者の自主性を重んじ、自ら作業に取り組むことができるように準備・片付け等の動線を整えた。又、基本能力を把握するための知的評価を再アセスメントし、個人に合った目標設定を行ったことで、作業種の提供が計画的に出来るようになり個人の作業量は増加した。

高齢ご利用者の介護サービスへの移行や、在宅からグループホームへの入居支援等、本人を中心に支援者間で連携しながら進めて行った。

（2）防災・災害対策等の整備

業務継続計画（BCP）については、施設で毎月実施した防災訓練や法人一斉防災訓練を振り返って都度修正を行っているが、「南海トラフ地震対策計画」の作成や「原子力災害避難計画」の見直しには至らなかった。

今年度初めて行った「BCP 机上訓練」では、（流れが理解できた、各班の役割を再認識できた、混乱の中で職員がどのように行動していくべきなのか再確認できた）という感想が出た。

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

（1）ご利用者を大切にする

サービス提供指針に基づく支援の実践について、職員会議やケース会で振り返りを行った。特に呼称については厳しく律している。

（2）職員を大切にする

職員同士のコミュニケーションは円滑に行われ、作業の遂行においても生産性の向上が見られた。有給休暇取得率は 89%、インフルエンザ・コロナ感染は各 1 名が罹患したが、各々が体調管理に気を配り大きな事故や病気等で休暇を使用することは無かった。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

（1）職員育成について

個人の研修については、個別の目標に沿って計画的に進めた。

法人研修、外部機関の研修に加え、サポーターズカレッジを活用し、短時間従業者にも研修の機会を提供し、全員が学ぶ機会を得た。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	14	-3	251	3262	13	65.0

2 職員状況

	施設長	サビ管	生活支援員	職業指導員	事務員	その他	合計
実人数	1	1	2	3	1		8
常勤換算	0.2	1.0	1.5	2.4	0.5		5.9
計画との差	0	0	0	0	0		0

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	9.5	最高残業時間	3	有給休暇義務取得率	100	有給休暇取得率	89
-------	-----	--------	---	-----------	-----	---------	----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	事故報告委員会	1
〃	(あ) 全体会議	4	〃	防災委員会	1
〃	(あ) 防災会議	1	7/25	吉田特別支援学校説明会	1
〃	(あ) 感染症委員会	1	8/22	吉田町あ) 運営委員会	1
月2回	経営会議	1	2/5	吉田町就労事業所連絡会	1
隔月	事務連絡会	1	3/6	吉田町地域生活拠点意見交換会	1
年2回	吉田町福祉推進委員会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

5/29 ハイキング（吉田公園） 7/5 七夕飾り（願いを込めて）
 8/9 あつまリーナ夏まつり（さくら・マーガレット・レタスクラブ合同）
 9/24 防災学習（焼津市防災学習室しえ〜る）
 12/20 あつまリーナクリスマス会（さくら・マーガレット・レタスクラブ合同）
 1/31 新年会（今年の決意表明）

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	ケース会	6	利用者個別支援計画の検討、情報共有
毎月	職員会議	6	管理者会報告、利用者及び作業状況確認他

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

なし

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内	7 ~ 12月	サポーターズカレッジ 「障害者とのコミュニケーション」「ケース記録の書き方」「ヒヤリハットの記録と活用」「虐待防止」（パート職員）				3
	2/20	災害時のBCP机上訓練	6	3/11	感染症BCP机上訓練	6
法 人	4/15	新年度研修	3	8/6	虐待・身体拘束・BCP	2

	1/15	予算・労務研修会	3	11/18	事例検討会	2
	2/28	主任等研修	1	2/19	労務研修会	2
			1	3/24	法人防災研修	2
外 部	5/31	意思決定支援	1	6/29	知的障害者のくらしセミナー	1
	7/5・6	日キ社事 社会福祉と実践	1	8/27	感染症対応訓練	1
	10/10	ひきこもり講演会	1	11/1	セルフリーダーシップ	1
	11/6	退職手当制度説明会	1	11/12	苦情解決研修会	1
	11/28・29	サビ管更新研修	1	12/23	災害時のBCP訓練の進め方	1
	3/5	スーパービジョン	1			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

10/27 吉田町ふれあい広場参加 地域の関係団体や住民と交流の時を持った。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	次月の行事予定配布	各家庭
5 月	保護者会	職員 3、保護者 12
12 月	あつまリーナクリスマス会招待	保護者、利用者、職員

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	3	ヒヤリ	3	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

事故：他害 2、備品破壊 1

ヒヤリ：情緒不安定のご利用者による他害未遂（キッチン鉢、シェーバー、消毒スプレー）

虐待については、3 ヶ月毎にセルフチェックを行い、虐待防止への意識を高めた。又、法人主催の全体虐待委員会にて他施設の取組に等の情報を得ている。身体拘束については、身体拘束適正化委員会の中で内容を審議している。どちらも該当は無かった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまリーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。地震・洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2 階への避難訓練を行った。又、「災害時業務継続計画机上訓練」を行い、各役割と備蓄品の確認をした。感染症対策として、感染症委員は県の研修を受講し、感染症マニュアルの再評価を行った。又、「感染症BCP机上訓練」を行い各役割と、ゾーニングエリア、備蓄品の確認をした。

法人訓練では、月 1 回の携帯電話への安否コールの実施、年 1 回の法人全体訓練にて初めての停電及び断水訓練を行った。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検（年 4 回）、植木剪定・草刈り（年 3 回）、害虫駆除（毎月）、消防設備点検（年 2 回）館内清掃（年 2 回）、冷暖房装置点検（年 2 回）、自動ドア点検（年 2 回）

2/5 施設の建物の自主点検を行った。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	33,125,104	35,789,074	△2,663,967
（内、就労支援事業収益）	3,259,484	3,423,740	△164,256
サービス活動費用計	32,888,236	34,045,488	△1,157,252
（内、就労支援事業費用）	3,264,779	3,423,740	△158,961
経常増減差額	280,230	1,760,769	△1,480,539
特別増減差額	△400,000	0	△400,000
当期活動増減差額	△119,770	1,760,769	△1,880,539

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 249,940 ）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・吉田町関係

4/1、2024 年度 管理に関する年度協定を締結。

8/22、あつまりーナ運営委員会にて 2023 年度事業報告及び 2024 年度事業計画・予算の説明を行った。

3/7、館内備品調査実施

M 実習生やボランティアに関する報告

<実習・体験> ※延べ人数

吉田特別支援学校高等部 3 年生 4 名、2 年生 3 名、1 年生 1 名

在宅男性 1 名

常葉大学 3 年生 3 名

吉田中学校 2 年生 2 名（職業体験）

<見学>

吉田特別支援学校高等部 2 年生親子 4 組 8 名、1 年生親子 1 組 2 名

吉田特別支援学校中学部 2 年生 生徒 8 名、先生 3 名

吉田特別支援学校小学部～高等部 保護者 17 名

吉田特別支援学校 先生 4 名

相談支援事業所相談員 1 名、放課後デイサービス職員 1 名

在宅男性 1 名

N その他 （監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

4/25 業務監査、5/8 会計監査 指摘事項はなかった。

※ 創立 34 年 （県単独事業 28 年、牧ノ原やまばと学園 16 年）

2024（令和6）年度事業報告

生活介護事業所
ケアセンターマーガレット

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

『寄り添う支援を継続します。地域の中で安心して暮らそう。』

ご利用者の「本当の気持ち」を引き出す支援をケース会議等で検討し、実施した。また、地域の方との交流を深めるために、地域のイベントに参加したり、ボランティアを積極的に受け入れたりした。

2 事業報告

(1) 支援プログラムの充実を図る。

支援方針等の見直しを行い、ご利用者が本人らしく過ごすにはどうすれば良いかを検討し実施した。

(2) 防災・災害対策等の整備

「あつまリーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。また、建物のチェックを数名の職員で行う事で、危険箇所や修理箇所の確認をする事が出来た。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

(1) ご利用者を大切にする。

毎月のケース会議を通して、ご利用者への支援方針等を見直した。また、ご利用者のストレングスを見つけ出し、引き出す様な活動の取り組みに努めた。

(2) 職員を大切にする。

職員が意見を言いやすいような心理的安全性の確保に努めた。また、スキルアップしたい気持ちを受け止め、会議でのサポカレ等の勉強会に取り組んだ。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

(1) 職員確保と育成

常に人員配置 4 : 1 を意識しながら、職員の確保に努めた。育成面においてはサポカレ等を活用し、職員のスキルアップに繋げ、心理的安全性の確保された会議を目指し、一人一答出来る様に努めた。

(2) 人権尊重の徹底

着替えや排泄面において、同性介助を意識した支援を心掛けた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
20	18	-2	248 日	4115 人	16.6 人	83%
区分なし	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
0	0	0	3	8	4	3

※コロナ感染により利用率減少。

2 職員配置予定

	施設長	サビ管	生活支援員	事務員	看護師	その他	合計
実人数	1	1	10	1	1	0	14
常勤換算	0.2	1.0	6.6	0.2	0.1	0	7.1
計画との差	0	0	+0.65	0	0	0	+0.65

※施設長：生活支援員兼務、パ1名退職

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	21	最高残業時間	1.5	有給義務取得率	100%	有給休暇取得率	91.1%
-------	----	--------	-----	---------	------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種 類	参加数	内 容
毎 月	あ)全体会議	2	事故・ヒヤリ・虐待・苦情、利用者状況
毎 月	あ)防災委員会	1	防災訓練の振り返り、次回訓練の計画等
毎 月	あ)感染症委員会	1	感染対策の動向・対応・対策 研修報告
毎 月	職員会議	全員	行事計画、ケース会報告・ヒヤリ事故報告等
毎 月	ケース会議	全員	利用者ケース確認事項・検討事項
毎 月	生活ケア部会	1	利用者等・活動実績報告。検討・確認・共有
隔 月	牧之原市自立支援ネットワーク	1	牧之原市、吉田町の重心に関する情報共有と検討
年 2 回	事務連絡会	1	会計・労務に関する情報共有
年 2 回	法人苦情解決委員会	1	各事業所の苦情に関する検討
年 2 回	法人事故防止委員会	1	各事業所の事故・ヒヤリに関する検討
8/22	吉田町（あ）運営委員会	1	事業報告・事業計画及び予算説明

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・月の定期的な活動として音楽・書道・創作・誕生会・外出行事等。
- ・年中行事として、「あつまリーナ夏祭り」・「クリスマス会」「日帰り旅行」を行った。
- ・作業体験では、洗濯ピンチの並べ作業や組立仕事を行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎 月	ケース会議録	全職員	ケース会議録を読むことで、共通理解・共通認識に努めた。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- (1) ケース会・職員会議では、互いの意見を尊重し、共感する姿勢を大切にした。
- (2) 福利厚生費で慰労会を実施した。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人外	12 月	強行研修	1	随時	強行研修	1
施設内	随時	サポカレ研修	8	3 月	BCP 机上訓練	全員
		感染症研修	全員			
法人	4/3	新人オリエンテーション	1	4/20	新年度研修	4
	1/15	予算研修	1	2/28	主任等研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

10/27：吉田町ふれあい広場に参加する。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日 付	内 容	参加者
随時	行事予定・案内 (次月の予定・報告・連絡)	各家庭配布
毎 月	マーガレットだより (活動状況の記事・写真入り)	各家庭配布
4 月	保護者会	職員・保護者
12/20	あつまリーナクリスマス会	利用者・職員・保護者

G 苦情とその対応に関する報告

苦情：0 件

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	9 件	ヒヤリ	8 件	虐待	0	身体拘束	410 件
----	-----	-----	-----	----	---	------	-------

※事 故：忘薬 3 件、転落・転倒 2 件、他害 2 件、支援中の怪我 1 件、自傷 1 件

※ヒ ヤ リ： 無断外出 1 件、転落未遂 3 件、他害未遂 2 件、放尿 1 件、利用者残す 1 件

※身体拘束：同意書あり 拘りによる人や物への突進。 手や体で止める (20 件)
 同意書あり 車椅子利用で座位が保てない。ベルト使用 (233 件)
 同意書あり ベッドからの転落防止 4 点柵 (157 件)

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

・「あつまりーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2 階への避難訓練を実施した。防災委員会で、各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画の確認を行った。法人訓練では月 1 回の携帯電話への安否コールの実施、年 1 回の法人全体訓練を行った。感染症対策として、「感染症マニュアル」に則り、毎月感染症委員会を開催、県主催の研修に参加、職員への指導、マニュアルの再評価等を行った。
 職員研修として「AED 研修」を行い、対策用品の再点検と補充を行った。

J 環境整備に関する報告 (100 万円以上の修繕や改装など)

浄化槽点検 (年 4 回)、植木剪定・草刈り (年 3 回)、害虫駆除 (毎月)、消防設備点検 (年 2 回)、館内清掃 (年 2 回)、冷暖房装置点検 (年 2 回)、自動ドア点検 (年 2 回)

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告 (事業活動)

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	41,651,759	44,238,585	△2,586,826
サービス活動費用計	40,679,931	38,709,226	1,970,705
経常増減差額	1,110,891	5,546,906	△4,436,015
特別増減差額	△1,552,404	△3,000,000	△1,447,596
当期活動増減差額	△441,513	2,546,906	△2,988,419

※サービス活動収益の内、寄付金収益 168,900 円)

2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告 (実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告)

・吉田町関係

4/1、2024 年度 管理に関する年度協定を締結。

8/22、運営委員会にて 2023 年度事業報告及び 2024 年度事業計画・予算を説明した。

M 実習生やボランティアに関する報告

<実習・体験>

8/8～9/2 (10 日間) 常葉大学保育実習 1 名

10/16・17・22・23 (4 日間) 清流館高校 1 年生 4 名 介護実習

9/20～22 (3 日間) 吉田町立吉田中学校 2 年生 2 名 職場体験

7/22～7/26 (5 日間) 吉田特別支援学校高等部 2 年生 実習

11/11～11/15 (5 日間) 吉田特別支援学校高等部 2 年生 1 名 実習

<見学>

8/28 吉田特別支援学校中学部先生 2 名

1/23 吉田特別支援学校中学部 2 年 見学 延べ 9 名

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

4/25 業務監査、5/8 会計監査 指摘事項はなかった。

※ 創立 19 年 (町単独 地域活動支援センター 5 年・牧ノ原やまばと学園 14 年)

2024（令和6）年度事業報告

地域活動支援センター
レタスクラブ

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の目標と事業計画

『気軽に立ち寄り、安心できる場所』

ご利用者がそれぞれ訪れ、思い思いに過ごす場所の提供ができた。

仲間に会いに来る、活動に参加する、休養を取る、悩みを相談する等、本人の気持ちを中心に、安心・安全に気を配りながら支援を行った。

- (1) ご利用者が安心して利用できる環境を用意する。
いつでも安心して利用できるように、無理の無いプログラムを用意した。
限られた空間内、コーナーや寝具等を工夫し静かになれる場所を提供した。
- (2) 人との関わりを広げていくためにグループワーク等を通して学ぶ。
毎日のプログラムは決めているが、過ごし方は様々である。
仕事のストレスや悩みについて、仲間と共有し励まし合う関係性が築かれた。
- (3) 関係機関と連携しながら進めて行く。
ご利用者の体調や行動に対して、関係機関と連携をとりながら対応にあたった。
(受診、金銭問題、ヘルパー利用等)

3 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告

- (1) ご利用者が主体的に生きていくために、人権を尊重し自発的な活動を支援する。
サービス提供指針に基づく支援を実践した。

4 「法人の当年度重点計画」についての活動報告

(1) 職員育成・チームワーク

職員会議では互いの支援について良いところを認め合い、思いを共有した。

法人研修、サポーターズカレッジの活用等、一人一人のスキルアップを図った。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
—	15	△8	239	1017	4.2	—

2 職員状況

	施設長	生活 支援員	事務員	その他	合計
実人数	1	2	1	0	4
常勤換算	0.1	1.2	0.1		1.4
計画との差	0	△0.1	0	0	△0.1

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	0	最高残業時間	0	有給休暇義務 取得率	100	有給休暇取得率	68.4
-------	---	--------	---	---------------	-----	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	施設管理者会	1	年2回	苦情解決委員会	1
〃	作業就労部会	1	年2回	事故報告委員会	1
〃	(あ) 全体会議	4	〃	防災委員会	1
〃	(あ) 防災会議	1	〃	吉田町福祉推進委員会	1
〃	(あ) 感染症委員会	1	3/6	吉田町地域生活拠点意見交換会	1
月2回	経営会議	1	8/22	吉田町あ) 運営委員会	1
隔月	事務連絡会	1			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

毎月のプログラムは皆の意見を取り入れて作成した。

季節の行事、ランチづくり、畑作業、卓球、脳トレ、今月の作品づくり、外出（喫茶店）ストレッチ、体操、散歩、さくらの作業手伝い 等

あつまリーナ合同行事への参加（夏まつり・クリスマス会）

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	職員会議	4	管理者会報告、利用者状況、次月の計画

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

なし

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
法人研修	4/15	新年度研修	1	8/6	虐待・身体拘束・BCP	1
	2/19	労務研修	1	3/24	法人防災研修	1
外部研修	6/29	障害者のくらしセミナー	1	7/5・6	日キ社事 社会福祉と実践	1
	10/10	ひきこもり講演会	1	12/23	災害時のBCP訓練の進め方	1
施設研修	年 6 回	サポーターズカレッジ受講「障害者とのコミュニケーション」「ケース記録の書き方」「ヒヤリハットの記録と活用」「虐待防止」				2

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

湯日川土手のゴミ拾い、吉田海岸清掃

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	次月の行事予定配布	各家庭

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	0	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

「あつまりーナ消防計画」及び「地震津波対応マニュアル」に則り、毎月防災訓練を実施した。地震・洪水・津波を想定した訓練では、第一避難所である「はあとふる」2階への避難訓練を行った。

各種災害の最新ハザードマップ及び避難確保計画を備え、避難経路の確認を行った。

法人訓練では、月1回の携帯電話への安否コールの実施、年1回の法人全体訓練を行った。

感染症対策として、感染症委員は県の研修を受講し、感染症マニュアルの再評価を行った。

J 環境整備に関する報告（施設定期点検や100万円以上の修繕や改装など）

浄化槽点検（年4回）、植木剪定・草刈り（年3回）、害虫駆除（毎月）、消防設備点検（年2回）館内清掃（年2回）、冷暖房装置点検（年2回）、自動ドア点検（年2回）

2/5 施設の建物の自主点検を行った。

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	5,333,497	5,332,431	1,066
サービス活動費用計	5,301,335	5,439,998	△138,663
経常増減差額	32,892	△83,562	116,454
特別増減差額	235	0	235
当期活動増減差額	33,127	△83,562	116,689

※サービス活動収益の内、寄付金収益（48,243）

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

・吉田町関係

4/1、2024 年度 業務委託契約を締結。

8/22、運営委員会にて 2023 年度事業報告及び 2024 年度事業計画・予算を説明した。

3/7、館内備品調査実施

M 実習生やボランティアに関する報告

井部博美さん（星いきいき財団）、殿村隆夫さん（元職員）

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

4/25 業務監査、5/8 会計監査 指摘事項はなかった。

創立 14 年 6 ヶ月

2024（令和6）年度事業報告

相談支援事業
生活支援センターやまばと

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 2024 年度事業計画に関する報告

- (1) 「信頼づくり、関係づくり：関係者と会う、そして、話をする。」について
利用者支援（相談）を通して、フォーマルな関係機関の方を中心に「会う」、「話す」を通じた関係づくり、関わりができたが、インフォーマル、地域の方との関わりには課題を残している。
- (2) 「学び合い、育ちあう：同じ目線で学び合いながら育ち合って、相談員としてのスキルを高めていく。」について
学び合う、育ち合うの視点に違いがあるためか、目標以前に、安心して相談できる環境や会議のあり方の検討が必要であった。
- (3) 「つながる：ご利用者と私たちが、サービス事業所が、地域が繋がること、ご利用者の「幸せ」につながる。」について
利用者支援（相談）を通して、行政を中心としたフォーマルな関係機関の方とを中心に「つながる」ことができたが、インフォーマル、地域の方との関係に課題を残している。また、利用者の「幸せ」につながるという目標についてはぶれることはなかった。
- (4) 職員の育成について
OJT 機能を高めるため取り組みとして、外部講師を招いた事例検討を行うことができた。ただし、伝達研修の実施や事例の提供のしやすさに課題を残している。
- (5) 業務の効率化について
早番・遅番、直行・直帰、LINEWORKS や伝助、メールなどスマホを活用した効率化を意識した働き方の見直しには取り組むことができた。しかしながら、結果として「ゆとりができた」と評価するには至っていない。
- (6) 委託相談支援事業について
行政と協働し、効率的、効果的を意識して協議会運営に関わることはできた。
- (7) 計画相談支援事業について
利用者中心や意思決定支援を大切にし、立ち止まり、振り返る業務を心がけることができたが、家族や事業所の考えとのバランスを取ることが難しいと感じる場面があった。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

法人理念をふまえて、事業所が大切にしている、あるいは大切にしたいことをカタチにするために事業所理念の作成を検討したが、法人とのコミュニケーション不足により作成にはいたらなかった。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

人権尊重の旗振り役として、法人内事業所へ気づきを促す働きかけについては、ケース検討会や講師として2事業所で活動することができた。通常業務の延長として、法人内事業所の相談役としての役割を担うことができた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

①特定相談支援事業実績(作成件数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
計画	31	22	30	25	36	25	22	19	20	20	25	44	319
モタリング	77	87	98	61	69	69	91	86	94	73	100	99	1,004
計	108	109	128	86	105	94	113	105	114	93	125	143	1,323

*前年度比+145 件（計画+44 件、モタリング+101 件） 事業計画達成率 117.6%

②委託相談支援事業実績（支援件数）

	訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係機関 連絡調整	その他	計
牧之原市	122	72	50	668	4	8	553	157	1,634
島田市	102	122	109	727	458	49	903	132	2,602
合計	224	194	159	1,395	462	57	1,456	289	4,236

*前年度比+903 件（牧之原市+597 件、島田市+306 件）

2 職員状況（年度末現在、増減は昨年度末比）

		施設長	主任 相談員	相談員			事務員	合計	
				常勤 専従	非常勤 専従	常勤 兼務			
実人数		1	1	6	1	1	1	11	
常勤 換算 人数	委託		0.9	1.7		0.4		3.0	8.5
	計画		0.1	4.3	0.6	0.1		5.1	
	他	0.1					0.3	0.4	
増減		-0.1	±0	±0	±0	±0	±0	-0.1	

専門職：社会福祉士 4 名、精神保健福祉士 2 名

委託相談市町別人工内訳：牧之原市 2 人工、島田市 1 人工

新規採用：なし、退職：なし

配置転換（転入）：正規職員 2 名 4/1 岸雅子（相談員）、6/1 村田千恵（相談員）

配置転換（転出）：正規職員 1 名 6/30 石川忠昭（相談員）

その他（兼務）：7/1 伊藤美和（相談員）ケアセンター野ばら主任生活支援員兼務

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	1720.3 時間	最高残業時間	365 時間	有給休暇取得率	61.3%
-------	-----------	--------	--------	---------	-------

残業時間職員一人当たり平均 191.4 時間／年、15.9 時間／月

前年度比で総残業時間は 421.8 時間増（前年比 132.5%）、有給休暇取得率は 5.1%増

残業については、一人当たりの平均で約 46.8 時間／年、約 3.9 時間／月増。サービス残業減少への取組み等が主な理由と考えている。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

（1）外部会議

開催日	種類	参加者	内 容
毎月	牧之原市協議会関係	担当	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	島田市協議会関係	担当	地域実状に応じた体制整備について協議 協議会・各部会の企画運営
毎月	吉田町相談支援部会	担当	相談支援部会に参加。地域課題等を提起。

その他、圏域の会議等あり

（2）法人内会議

担当者を選任し以下の会議に出席した。経営会議、施設管理者会、苦情解決委員会、生活ケア会議、防災委員会、事故防止委員会 他

（3）事業所内会議

センター定例会を毎週 1 回開催し、事務連絡、ヒヤリ・事故報告、ケース共有・検討等

を行った。

C 利用者の喜びのために工夫したこと

日々の地域相談に加えて、地域貢献交流事業に関わる事で、「地域とつながる」を一部実施することができた。また、本人中心支援・意思決定支援理解のための事例検討会を、他事業所の研修会と併せて開催することができた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎朝	理念の継承	全員	朝礼で 50 年記念誌等の読み合わせ
12 月頃	自己評価	全員	法人評価表に合わせて実施
年回	施設長面談	全員	個別目標等の確認、評価を実施

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

お互いストレングス視点で学び合いねぎらう時や交流会の機会をもった。

朝礼時にケース相談に時間を持つこと等、気軽に相談できる環境を継続している。

- 3 研修報告

(1) 外部研修

静岡県、静岡県精神保健福祉士協会、基幹型相談支援センター等主催の研修に延べ 20 名が参加した。また、外部団体研修の講師等として主任を 3 回派遣した。

(2) 法人内研修（事業所外）

法人新年度研修、事例検討会に延べ 7 名が参加した。

(3) 事業所内研修

毎週水曜開催の定例会内で定期的に事例検討や事例共有等を実施した。また、施設長面談に合わせてサポカレ（身体拘束、感染症等）視聴研修を実施した。

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- 1 地域に対する公益的取組

関連事業所と連携の上で、毎月 1 回（計 12 回）坂部ふれあいサロンの送迎支援を行った。また、地域（坂部小学校）の資源回収、法人を通じた行政食糧支援に協力できた。

- 2 地域との交流

地域の町内会（坂 2 班長会）定例会や役員交代会に出席、新年挨拶周りをを行い地域住民の方との関わりに努めた。また、地域防災訓練の際は事前説明に伺い当日は 15 名の自主防災担当者が見学に見えるなどの交流を行った。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

地域貢献交流事業に関わる事で、地域との交流の機会を得ることができた。

G 苦情とその対応に関する報告

- 1 件。3 月：ケース会議の開催遅れについて指摘をいただく。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告

- 1 事故

2 件。メール誤送信、車輛事故が発生した。

- 2 ヒヤリハット

2 件。書類の置き忘れ、面談時間の失念が発生した。

- 3 虐待 なし

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

1 防災訓練

安否コール返信訓練を毎月実施した。総合防災訓練として、拠点内事業所を協働で11月（法人全体）に実施した。

2 被害状況 なし

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕等）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	46,781,627	41,502,575	5,279,052
サービス活動費用計	51,708,861	50,816,267	892,594
サービス活動増減差額	△4,927,234	△9,313,692	4,386,458
経常増減差額	△4,900,379	△224,077	△4,676,302
当期活動増減差額	△4,900,379	△224,077	△4,676,302

※サービス活動収益の内、寄付金収益（0円）

2 借入金償還報告 特になし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

委託相談に関する事業計画書・報告書を牧之原市、島田市に提出した。

M 実習生やボランティアに関する報告

1 実習生

8/13～9/23 静岡福祉大学3年生社会福祉士ソーシャルワーク実習Ⅱの実習生1名を受け入れた。

2 ボランティア なし

N その他

静岡県からの委託を受け、主任の田村が中心となり、令和6年度志太榛原地区在宅重症心身障害児者対応多職種連携研修の開催を企画・運営した。開催は12月8日（日）、場所は島田市役所3階大会議室、参加者は計77名であった。

2024（令和6）年度 事業報告

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
介護予防短期入居生活介護
特別養護老人ホーム 聖ルカホーム
聖ルカショートステイ

A 2024年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 「利用者・家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」という事業所の目標について、一年を通して施設全体でまた職員一人ひとりが意識し取り組みました。利用者と家族の繋がりを大切にしたいと、行事への参加を呼びかけ一緒に過ごす機会をつくりました。外出イベントに家族にも参加していただきました。また、一年間の記録写真をムービーにし観ていただいた際には、施設での様子を知ることができとても嬉しかったと感想をいただきました。その言葉に職員は大変感激しました。職員が笑顔になれる職場であるために、話し合う事、一緒に課題に取り組む事で風通しの良い働きやすい職場づくりができた一年でした。
- 2 事業計画
 - (1) ユニットケアの実現 ➡ ユニットケアについて学ぶ機会を多く作りました。委員会の開催、ユニットケアマニュアルの作成と職員への周知も行いました。多職種で他施設の見学にも出かけ、よいところを学び施設運営に取り入れることもしました。
 - (2) 稼働率UP ➡ 選ばれる施設となりよう、安心して丁寧な対応を心掛けました。長期入居及びショートステイの稼働率は、年間目標を上回ることができました。退所から次の入居までの空床期間を短縮できるよう調整を図りました。また、体調不良やケガなどによる入院を減らせるよう健康管理をした。ショートステイ利用者を増やすため、ケアマネジャー向けに施設の様子を知らせるお便りの発行や、空き情報を発信するなど、職員が稼働率を意識するようになりました。初めての試みとして施設見学会を開催しました。施設の様子を実際に見ていただくとともに、入居等に関する相談会を開催しました。
 - (3) 地域との関り ➡ 地域の祭典では、利用者と子供たちがふれあう機会がありました。地元の小学生が施設で課外学習をしました。また、小学生が介護について知る機会『ナゾときカイゴ』という事業を牧之原市との協力で開催できました。
 - (4) 職員がいきいきと働ける施設づくり ➡ 職員の専門性を高めるため、新たなスキルを身に付けるために研修を開催しました。外部研修にも積極的に参加しました。職員が、自信を持って仕事ができるようサポートしました。また、施設会議室を実務者研修の実地研修場所として提供したことで、職員が受講しやすい環境となりました。健康診断やストレスチェックを実施し、結果を産業医に報告することで心身の健康を保つためのアドバイスや相談窓口となっていました。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行った。法人開催の研修会に積極的に参加しました。
 - (2) 一人ひとりがかけがえのない存在である事を認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行いました。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員育成 ➡ 就職時の研修、法定研修について計画的に行うことができました。他施設の見学では、新たな気づきがあり良いケアへつなげるとともに、職員の成長にもなったと感じました。
 - (2) 防災の充実 ➡ 災害マニュアルやBCPに沿った対応が出来るよう毎月の防災訓練を実施しました。また、訓練がマンネリ化しないような工夫や、防災備蓄品についての見直しをし、不足している物品について購入をしました。
 - (3) 情報発信 ➡ お便りやSNSでの施設情報の発信を積極的に行えました。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

(1) 長期入所（定員 70 名）

2025 年 3 月 31 日現在

現員数	70 名	平均介護度	4.0
最年長	105 歳	介護 1	0 名
最年少	65 歳	介護 2	1 名
平均年齢	85.5 歳	介護 3	22 名
稼働率	98.3%	介護 4	23 名
入居者数	17	介護 5	24 名
退去者数	17	待機者数	33 名

(2) 短期入居者（定員 10 名）

実利用者数	延利用者数	年間平均稼働率
514 名	2,970 名	81.4%

2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備 考
施設長	1 名	0.8	さふらん管理者兼務
事務長	1 名	0.4	高齢者事業部
副施設長	(2 名)	—	看護主任、事務主任兼務
相談員・ケアマネ	5 名	3.7	
介護員	45 名	41.58	時短 1 名、介護休暇 1 名、EPA 生 2 名
看護師	5 名	4.3	
管理栄養士	1 名	1.0	グレイス兼務
事務員	4 名	2.325	真菜、さふらん、オリーブ、ぶどうの木兼務
介護補助員	7 名	2.09	
宿直員	3 名	1.0	
清掃員	1 名	0.15	さふらん兼務
嘱託医師	1 名	0.1	
合 計	74 名	57.445	

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	5,666 時間 55 分	有給休暇取得率	67.2%
-------	---------------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催回数	種類	参加者	内 容
12 回	経営会議	施設長・副施設長・主任・事務長	施設運営全般、職員教育、全体行事、課題解決 等
9 回	ケア向上委員会 (生産性向上委員会、 ユニットケア推進委 員会 含む)	経営会議メンバー・ エトリナー・相談員・ 栄養士	経営会議の決定事項の周知、ユニットの課 題や現状報告・業務改善すべき事項・ユニッ トケアの推進・看取りケア 等
2 回	事故防止検討委員会	同上	事故・ヒヤリの検討、啓発、研修
4 回	虐待防止検討委員会	同上	虐待防止に関する事、研修
4 回	身体的拘束適正化委員会	同上	身体拘束に関する事、研修
4 回	感染症等対策委員会	経営会議メンバー・ 代表職員・相談員・ 栄養士	感染症、喀痰吸引、口腔ケアに関する事

毎月	職員会議	全職員	情報共有・研修 等
毎月	衛生委員会	産業医・衛生管理者・施設長・他	職員の安全衛生、健康管理、ストレスチェック 等
毎月	ユニット会議	各ユニット職員・他職種代表者	ご利用者の処遇検討、業務改善、研修等
6 回	事故防止検討会議	各部署代表者	事故・ヒヤリの検証
毎月	メンテナンス会議	各部署代表者	施設設備、備品、介護用品の整備
毎月	防災対策会議	各部署代表者	防災訓練等の計画・実施
5 回	優先入所検討会	外部有識者・施設長・その他職員	入所申込者（待機者）の入居順位を検討し決定する
4 回	給食会議	栄養士・職員代表・給食業者	食事や献立についての検討
毎月	SNS 会議	副施設長、担当者	SNS で発信する内容の検討
6 回	余暇活動委員会	各部署代表者	余暇活動の計画実施について
2 回	苦情解決委員会		

C 利用者の喜びのために工夫したこと

行 事	内 容
敬老会	長寿を祝い健康を祈念し開催。
クリスマス会	ご家族も参加しお祝いした。聖書朗読や1年間の思い出写真をムービーにして上映。
カフェ開催	季節のお菓子や、さつま芋のデザートなど。他の事業所のご利用者や職員もご招待。よい交流ができた。
展示会への参加	みんなで協力し作成した作品を展示会に出品
花火大会	夏の夜に手持ち花火や、打ち上げ花火を楽しんだ
習字教室	思い思いに自由な自己表現をし、習字を楽しんだ
外出	チューリップ祭り、河津桜の花見、ショッピング、蓬莱橋 等
ご利用者の夢を叶える	・図書館に行きたい ・お酒を飲んで花見がしたい ・毎日散歩に行きたい ・選挙に行って投票したい ・大画面で大相撲観戦 ・スーパーで買い物をしたい ・職員へ手料理をふるまいたい ・孫の結婚式に参列したい
ユニット調理（食事・デザート作り）	あんみつ、ケーキ、パフェ、さつまいもデザート、たこ焼き、クリスマスケーキ、お鍋料理、お汁粉、煮物 他
移動販売車での買い物	移動スーパーを依頼し買い物を楽しむ
ユニットでレクリエーション	輪投げ大会、野菜栽培、七夕まつり、釣りゲーム、夏祭り、ボーリング、福笑い、豆まき、ひな祭り
ガーデニング	季節の花をプランターや花壇に植えました
餅つき大会	高校生による餅つきをみんなで鑑賞
たい焼き	玄関先でたい焼きを焼き、作りたてのたい焼きを食べた

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行いました。

日付	プログラム名	対象者	内 容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ
毎 月	部署毎のミーティング	全 員	部署毎の情報共有と課題解決
毎 月	ケア勉強会	介護員	食事、排泄、入浴に学び、課題を見つけ取り組む
毎 月	排泄勉強会	介護員	気持ちの良い排泄ができるように

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
- ① 職員会や各種会議では、役職や身分に関わらず誰もが発言できるように配慮しました。小グループでの話し合いの機会を多く設けることができました。
 - ② 施設内やユニット内での嬉しい出来事を共有しました。
 - ③ 会議の最後に、レクレーションを行い職員同士の会話の機会をつくりました。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/25	研修参加者報告会	36	4/25	虐待・不適切なケアの根絶	36
	5/23	カスタマーハラスメントについて	30	5/23	福祉用具の使い方	30
	6/17	便秘薬について	9	6/26	事故防止	24
	6/26	ハラスメント撲滅	24	6/26	介護保険制度の施設	24
	7/25	感染症対応策研修	30	8/15	個人情報漏洩について	24
	8/15	防災・BCPについて(机上)	24	8/22	口腔・排泄・食事介助に関わる 感染対策	11
	9/26	虐待防止と身体拘束廃止	35	9/26	プライバシーの保護	35
	9/26	服務心得について	35	10/21	感染予防と褥瘡対策	8
	10/24	リスクマネジメント	34	10/24	感染・BCPについて(机上)	34
	11/12	働きやすい職場づくり	30	11/26	感染・BCPについて(シミュレーション)	12
	11/28	おむつのあて方研修会	8	12/12	褥瘡について	31
	12/12	救命救急訓練	31	1/28	感染症予防研修(カウnteックと物品確認)	9
	2/27	看取りケア	31	2/27	吸引研修	31
	2/27	研修参加者報告会	31	3/27	口腔ケア	26
	4/2 他	就職時研修	26	9/13 他	特定技能研修	32
	毎月	防災・BCPについて	全員	11 回	排泄ケアについて	85
	11 回	ケア勉強会	125			
	※ その他、ユニット会議等にてオンライン研修を受講					
法人研修	4/1	新人職員オリエンテーション	2	10/1	新人職員オリエンテーション	3
	11/18	新年度研修	5	11/18, 19	ケース検討会	2/日
	11/27	交通安全研修	2	2/28	主任等研修	4
施設外研修	4-5 月	認知症チームケア推進研修	4	5/9	給食協会研修	1
	5/30	施設ケアマネジメント研修会	1	6/25 他	認知症介護実践者研修	3
	6/28	介護技術(移動・移乗)	2	7/4	虐待防止研修	4
	7/5	接遇マナー研修	2	7/26	排泄ケアセミナー	1
	7/9 他	認知症介護実践リーダー研修	2	9/5	高齢者福祉研究大会	2
	9/9	感染症対策研修	1	9/11 他	新人介護職員向け交流研修	1
	9/30	感染症対策研修(管理者)	1	10/16	ユニット調理セミナー	1
	12/11	褥瘡研修	4	12/18	新人職員フォローアップ	1
	1/30 他	介護職のための医学の基礎知識	3	2/5	生産性向上セミナー	2
	2/14	介護福祉士実習指導者フォローアップ研修	1	2/26	ターミナル研修	1
	2/3 他	BCP 研修	2	2/20 他	身体拘束廃止フォーラム研修	11
	2/28	介護保険事業所集団指導	10	3/3	生活支援技術研修	1
	毎週	E P A 生への研修	2	14 回	E P A 生への研修	2
	8/13 他	特定技能入職後研修	14			
	※ 研修参加者は会議等で報告を行い全職員で共有					

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
8/15. 22	牧之原市主催「オープンカンパニー」	職員、榛原・相良高校生
9/23	地域との防災連携について 防火水槽点検	職員 3 名、消防団員 4 名
10/6	福祉サービス事業所芸術祭への参加	利用者、職員
11/3	地域子供神輿が来ホーム。お囃子の披露を鑑賞	利用者、職員
11/16	牧之原市主催「なぞとき介護」参加	高齢者事業部職員
12/1	地域の防災訓練へ参加（災害時被害状況報告）	職員 1 名
12/9	牧之原市介護予防ケアプラン会議	栄養士
	サロン送迎	職員 6 名
	社会福祉法人減免実施	—

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月 20 日	聖ルカだよりの発行	職員全員
10/20	ご家族アンケートの実施	相談員
不定期	ケアプラン作成のためのカンファレンス	ケアマネ、看護師、栄養士 他
随時	敬老会、クリスマス会等イベントへご家族参加	
随時	インスタグラム、フェイスブック開設	

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
		なし	

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	271	ヒヤリ	179	虐待	0	身体拘束	0
----	-----	-----	-----	----	---	------	---

行政報告 5 件

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	項目	内 容	参加者
毎月	防災訓練	避難訓練、災害時食事提供訓練、消火訓練	職員全員対象
9/23	地域消防団との連携	防火水槽の安全点検実施	職員 3 名 消防団 4 名
12/1	地域防災訓練への参加	災害時被害状況報告訓練に参加	職員 1 名 坂部区

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）
クラウド型介護保険ソフトの導入、排泄支援機器 2 台の導入**K 収支状況、並びに、借入金返済報告**

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増 減
サービス活動収益計	427, 121, 530	415, 265, 415	11, 856, 115
サービス活動費用計	433, 057, 369	427, 028, 679	6, 028, 690
経常増減差額	△8, 892, 633	△14, 178, 304	5, 285, 671
特別増減差額	2, 784, 942	4, 346, 397	△1, 561, 455
当期活動増減差額	△6, 107, 691	△9, 831, 907	3, 724, 216

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 20, 000 円 ）

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014. 10. 7	0.851	10 年	静岡銀行	95,000,000	31,082,100	63,917,900
2014. 10. 7	1.1	30 年	島田掛川信用金庫	427,500,000	130,437,412	297,062,588

L 主務官庁に関連した報告

2025 年 1 月 31 日 静岡県及び牧之原市により運営指導

2025 年 4 月 16 日 運営指導結果・・・指導事項なし、助言事項なし

M 実習生やボランティアに関する報告

1 実習

- ① 静岡福祉大学：介護福祉実習 2 名
- ② 榛原中学校：職業体験 4 名
- ③ 静岡福祉医療専門学校：介護福祉実習 2 名
- ④ 常葉学園大学：栄養士実習 1 名

2 ボランティア

- ① 日赤奉仕団（草取り・福祉用具清掃）5 回（延べ 66 名）
- ② J A 女性部どんぐり（ウエス切り）10 回（延べ 30 名）
- ③ 里山の会（門松の寄付設置）
- ④ 恵泉女学園
- ⑤ 榛原高校野球部（もちつき）23 名
- ⑥ 地域の方 2 名が、ロビーに花を飾ってくださいました（計 22 回）

N その他

- ① 介護福祉士や認知症実践リーダーなどの資格取得に努めました。専門的な知識が取得でき日々のケア向上や、介護報酬加算の安定的な取得にもつながりました。
- ② 一人目の E P A 生が介護福祉士の国家資格を取得できました。本人の努力と周りの職員のサポートが大きかったと感じます。
- ③ ミャンマーから特定技能の職員を 2 名採用しました。
- ④ 新卒職員 1 名が配属されました。今回もメンター制度を活用し育成に力を入れたことで、新人職員にとっては安心感がうまれ先輩職員にとっては成長の喜びとともに自己の成長にもつながったと感じます。
- ⑤ 若手職員が、職員採用のための説明会に出かける機会がありました。職員にとっては、介護の魅力について自信を持って伝えることができたことは喜びとなりました。また、学生にとっては年齢の近い職員からの説明で、とても興味深く話を聞いてくださいました。
- ⑥ 長期入居されていた方が、在宅へ戻ることができました。より良い在宅での生活ができるよう施設と家族、ケアマネジャーが話し合いを重ね、スムーズな移行ができました。
- ⑦ 生産性向上につながるよう、福祉用具を検討し導入しました。利用者がより快適に生活できるよう、また、職員が働きやすい職場環境を目指しました。

2024（令和6）年度 事業報告

地域密着型介護老人福祉施設
入所者生活介護
特別養護老人ホームグレイス

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

- 事業所の 2024 年度事業計画に関する報告（総括）
 - ・状況を見ながら、ご家族・地域の方々に施設をより開いてゆく方針だったが、秋と冬の感染症流行、特に年末年始のインフルエンザの大流行は拡大甚だしく、結果として面会を閉じた上に、秋に続いて冬も施設行事を中止することになった。内訳は、9 月に利用者 2 名・職員 1 名、1 月に職員 7 名の感染等（確認不可含）が発生した。自身の訓練を含めて、感染対策の徹底が必要と改めて反省させられた。
 - ・新たに始まった生産性向上委員会は、内容/手法の模索の段階で、具体的には次年度から、何をどのように行うか検討してゆく。
 - ・職員負担軽減のための外国人ワーカー検討は、2 名の技能実習生採用として実現した。また、介護補助員を採用始めた。
 - ・新人が安心して働ける環境作りについては、マニュアル簡易版、災害 BCP 簡易版、参集基準カードを作成した。職員に配ったり、研修に利用した。
- 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

職員会議で法人理念を示唆する資料に触れる機会を持ち、各会議において「サービス提供指針」「服務心得」の読み合せを行って理念の浸透を図った。
- 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - ・努めて同姓介助となるように入浴、排せつのケアに同姓職員を配置した。出来ない場合には、丁寧な説明と接遇に努めた。利用者の呼称について、改めて苗字さん+付けを求めたが、名前さん+付けでも敬意を失わないと思われる言い方は目をつぶった。
 - ・新人職員への研修、無資格介護職員の研修受講、中堅職員の資格取得（介護支援専門員・ユニットリーダー・喀痰吸引等）の推奨を行った。
 - ・運営推進会議等で出された希望のうち、事故報告の詳細開示希望に応じて、提供の資料を増やした。
 - ・インスタグラムを事務中心に随時更新し、施設の様子を発信した。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
29	29	0（退所 2 入所 2）	365	10574	28.9	99.9%
3 月末		要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
		1	0	3	15	10

2 職員状況（3 月末）

	施設長	相談員 (ケアマネ)	看護師	介護員	事務員	清掃員	合計
実人数	1	1	3	23	2	1	31
常勤換算	1.0	1.0	2.5	18.31	1.31	0.38	24.5
前年増減	0	+0.1	+0.5	-0.02	0	+0.08	+0.66

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	2961 : 55	最高残業時間	353 : 45	有給休暇取得率	58.5%
-------	-----------	--------	----------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
-----	----	-----	-----

年 2 回	法)防災委員会	1-2	研修、事業所 BCP の検討、本部 BCP との連携
年 2 回	法)苦情解決委員会	1	苦情解決経緯・対応等の検討、第 3 者委員
年 2 回	法)事故防止委員会	1	集計報告、事故の原因究明と再発防止策、評価
年 2 回	法)虐待防止委員会	1	事例報告、対策について検討、各施設の取組
月 1 回	恵の丘職員会議	全員	事業所・各部門の報告・課題検討、内部研修
月 1 回	経営運営会議	8	恵の丘 3 事業所全体の運営について検討
月 1 回	リーダー会議	5	各ユニットの報告・ケアの検討、リーダー研修
月 1 回	生産性向上委員会	5	サービス向上、ICT 導入、人材活用等検討
月 1 回	各ユニット会議	10	利用者のケース検討、業務改善、ケア情報共有
月 1 回	看護ミーティング	5	看護・医務・相談援助間の情報共有
月 1 回	防災メンテ会議	4-5	防災対応、防災訓練の計画・実施、施設整備
年 4 回	感染対策委員会	6-7	感染症及び食中毒まん延防止の為の対策検討
年 4 回	褥瘡予防・ケア連携委員会	6-7	褥瘡発生のリスクの評価、徐褥瘡発生予防の対策検討。吸引等医療的ケアの安全な実施の検討
年 4 回	安全対策委員会（リスク・虐待防止・身体拘束適正化）	6-7	介護事故発生の防止、再発防止の対策の検討 虐待等の発生防止・早期発見・再発防止の検討 身体拘束の適正化のための対策を検討
年 6 回	運営推進会議	11	施設の運営実績の報告、地域との連携等の検討
月 1 回	高齢者事業部会	10	各事業所報告 他
月 1 回	施設管理者会	30	各事業所報告 他

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・日課：毎午後、新設内や施設周辺の植物を眺め、職員との会話も楽しみながら散歩
- ・行事：感染症の蔓延により、二度の大きな施設行事を中止とした。特に年末年始のインフルエンザは施設内外とも酷く、職員のみ感染だったが、状況を見て中止とした。
- ・ご利用者個々の願いに沿った企画を計画、実施した（他施設の子供や親に会いに行く、河津桜花見ドライブ、お墓参り、室内ボーリング、チョコレートフォンデュ、ひまわり畑見学、自慢のおでんと新米おにぎりを皆に提供したい、能満寺で家族と過ごす、ユニット合同体操、足浴ハンドマッサージ、地域祭典（山車）見学、新年会や運動会、つくたての餅を食べたい、ラーメンを作って食べたい、切り絵を完成させたい、たい焼きを買いに出かけて熱々を食べたい）
- ・その他各ユニット毎で誕生日会・歓迎会・食事・デザート作り・ゲーム・散歩等を実施
恵の丘全体で七夕飾り・クリスマス飾りつけを行った。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
年 12 回	理念の継承	全員	法人の理念を示唆してくれる書物や動画を活用して法人の理念の学びを深めた。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して下記のことを行った。

- ・併設事業所含め施設内全体で協力し、七夕ロード・クリスマスロード等で四季を表現
- ・各委員会の合同開催で情報の共有
- ・毎月のユニット会議で職員同士、日頃の感謝を伝えあう時を持った。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内	4/18	不適切なケア、見取り期の 8 つの変化 youtube	16	10/24	不適切なケア、身体拘束・虐待を考える 介護事故における緊急時対応	16
	計 8 回	新人研修	8	11/28	人権・プライバシー権・	

	5/16	福祉の道を歩む君へ 新年度研修動画視聴 (潮谷義子氏の基調講演から) マニュアル作成のポイント	19		個人情報の理解 感染症の業務継続計画	17
	6/20	パワハラ防止具体策 行動心理症状はなぜ 感染症食中毒	11	12/26	消火栓の使い方訓練 口腔ケア（接触・嚥下） 生の質と死の質	15
	7/18	身体拘束しないため 脳卒中の基本 災害時 BCP 訓練	12	1/16	ぐっすり眠るための心得 拘縮のケア	18
	8/15	AED と胸骨圧迫訓練	17	2/27	災害 BCP 机上訓練 身体拘束廃止フォーラム視聴	12
	8/15	認知症と身体拘束	12	3/27	災害 BCP 机上訓練 口腔ケア コロナ感染の初動体制 について	17
		感染症 BCP 訓練、 心肺蘇生、救急要請		毎月	理学療法士によるポジ ショニング指導	1～2
	9/19	AED と胸骨圧迫訓練	14			
	9/19	プライバシー保護、認知 症、リスクマネジ	14			
法人内	4/20	新年度研修	4	11/19	事例検討会	1
	10/1	新人オリエンテーション	4		主任等研修	0
	3/19	予算管理研修	1		1・2 等級職員研修	0
	3/24	防災研修	2	11/12	職場の健康と働き方	1
外部	4/8	記録の書き方	1			
	5 月	認知症チーム推進研修	1	5/30	介護保険制度改正	1
	6 月中	入浴ケア	1	5-8 月	介護支援専門員専門研修	1
	7/4	虐待防止研修	1	8/20、21	甲種防火管理者新規講習	1
	7 月中	見取りケアと ACP	1	8/1	ボディメカニクス	1
	7/4	高口光子 虐待研修	3	10-2 月	ユニットリーダー研修	2
	8/1	座り方次第で介護が…	1	11/11	プライバシーの保護…	1
	8-1 月	認知症介護実践者研修	3	11 月中	腰痛予防対策と腰を…	1
	8/8	虐待拘束及び BCP	1	11 月中	感染症予防	1
	9/3	身体拘束は廃止…	1	11/29	認知症ケアに必要な…	1
	10/26	法令順守の理解	1	12/23	災害時の BCP 訓練	1
	10/24	褥瘡、皮膚ケア講座	1	12 月中	拘縮した手	1
	12/11	褥瘡について	1	11-2 月	認知症介護基礎研修	2
	12/20	医療的ケア教員研修	1	3/4	お茶の香ミライク研修	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
5 月	生活困窮者への食糧支援職員に声かけ	全員
6/16 2/14	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション	2 名ずつ
1 年間	社会福祉法人等利用者負担軽減での施設サービス提供	利用者 3 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
年 6 回	運営推進会議（書面会議 1 回、対面会議 5 回）	職員、家族・地域・行政代表
年 1 回	家族アンケートの実施	家族全員
毎月	グレイス便りの発送、利用者様状況個別報告	

G 苦情とその対応に関する報告・・・0件

日付	誰から	内 容	対応者

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	49	ヒヤリ	81	虐待	0	身体拘束	2
----	----	-----	----	----	---	------	---

身体拘束：11月脳梗塞・認知症・全身掻痒により出血度々。医師からも感染症への注意有り、手袋2重実施。1月度重なるベッド周辺の転倒転落によりベッドをマットレスのみに変更。立上りを抑制。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況との関係などの報告

防災訓練を9回実施。12月地域の訓練に参加。施設・施設周辺地域に地震・台風等の被害はなかった。AED使用訓練と心肺圧迫訓練2回に分けて実施。災害BCPの更新、BCP簡略板、参集基準カードを作成、職員に配った。

J 環境整備に関する報告（100万円以上の修繕や改装など）・・・なし**K 収支状況、並びに、借入金返済状況**

1 収支状況（事業活動）

科目	2024年度決算	2023年度決算	増減
サービス活動収益計	169,510,445	163,316,210	6,194,235
サービス活動費用計	177,515,271	175,507,848	2,007,423
経常増減差額	△7,918,325	△11,991,284	4,072,959
特別増減差額	1,012,637	3,973,000	△2,960,363
当期活動増減差額	△6,905,688	△8,018,284	1,112,596

※サービス活動収益の内、寄付金収益（60,000円）家族から5万円、サロン5千円×2回
2 借入金償還報告 なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他）なし**M 実習生やボランティアに関する報告**

利用者との交流ボランティア：1件（里やまの会による餅つき・門松の設置）
日赤奉仕団・牧之原市社協等：環境整備（草取り・清拭縫い・車椅子掃除・ウエス作り）
さくら会：への協力

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）なし

2024（令和6）年度 事業報告

養護老人ホーム
相寿園

A 2024 年度の目標と実績に関する振り返り

- 1 事業所の 2024 年度事業計画に関する報告
日常生活を送るにあたり、利用者から様々な意見を聞く場面があった。その時は傾聴して、なるべく要望に応えられるような支援を心掛けた。
不十分なところもあった。
- 2 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 「利用者自身の思いが反映された生活を送ることができるように、意思決定支援に努める。」の計画については、利用者それぞれの思いに寄り添い、できる限り思いに沿った支援をできるように支援を行うことができた。
 - (2) 「個別支援計画（ケアプラン）は、利用者及び家族の意向を尊重した上で策定し、必要に応じて適宜見直すようにする。」については、担当職員が利用者から聞き取り、計画に反映させて概ね実行できた。
- 3 「法人の当年度重点計画」に関連した計画（人材定着・職員育成・地域貢献）
 - (1) 「職員が希望を持ち、仲間とともに喜びが分かち合える職場を目指し、支援会議や職員会議等の様々な場で率直かつ真摯な話し合いができるように努める。」については、会議参加職員が自由に発言できる雰囲気を作り、出た意見を尊重しながら実行できた。
 - (2) 「施設長が交代し、職員の入れ替えもあった。新たなチームとして出発する年度となる。職員一丸となり利用者の支援に努める。」については、新年度スタート当初は落ち着かない感じであった。落ち着かない中でも、職員同士協力しながら支援に努めることができた。

B 利用者と職員の状況

1 利用実績

措置入所定員	3月措置者数	短期入所定員	3月契約者数	延利用者数(年)	月平均	利用率(年)
50	26	5	3	10,234	852	56.1%
介護区分なし	要支援	要介護1～2	要介護3～5	知的障害	身体障害	精神障害
17	1	5	3	2	6	11

2 職員状況

	施設長	副施設長	主任	支援員	生活相談員	看護師	合計
実人数	1		1	8	3	1	
常勤換算	1		1	5.16	2.5	1	
	栄養士	事務員	夜勤専門員	宿直補助員			
実人数	1	1	4	4			23
常勤換算	1	1	2.05	2.29			16

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	35.5 時間	最高残業時間	22 時間	有給休暇取得率	58.3%
-------	---------	--------	-------	---------	-------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
毎月1回	職員会議	全員	高齢者部会・管理者会の報告、理念の学習、ケース検討等
毎月1回	ケアプラン会議	全員	個別支援計画作成、見直し等
毎月1回	支援ミーティング	支援員全員	利用者の情報共有。支援のあり方についての検討。
毎月1回	支援会議	全員	行事計画策定、各部署からの報告及び検討事項の協議等
毎月1回	給食献立会議	栄養士、支援員、相談員、委託業者	食事に関すること全般について協議
年4回及び随時	身体拘束廃止委員会 虐待対応委員会と 同時開催	施設長、主任他	身体拘束が必要かどうかの検討・虐待防止チェック リスの実施等
年4回	感染予防対策 委員会	施設長、主任 他	看護師中心に、感染対策に関する勉強を行った。
年4回	事故防止対策委員 会	施設長、主任 他	事故報告を確認して、原因を探り対策を話し合った

C 利用者の喜びのために工夫したいこと

- ・2月に発電機交換で館内終日停電のために、全員で掛川花鳥園へ外出することができた。全員で出かけることは暫く実施していなかった。季節に応じた行事を実施することができた。利用者の笑顔が多く見られた。誕生月外出は、継続的に実施できた。利用者に希望を募り、買い物などを楽しまれた。
- ・施設周辺の整備などは、有志の利用者中心に行うことができた。施設周辺に様々な花が咲いて楽しむことができた。畑の野菜作りは、利用者に説明して中止した。作業を利用者と職員が一緒に行う。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月1回	理念の継承	全員	毎月の職員会議にて、実施した

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成のための計画

- ・部署ごとで、大変な時は声を掛け合い協力することができた。特に医務業務が多忙なため、薬セット・通院付添いは事務所職員協力しながら看護師負担軽減を図ることができた。
- ・支援方法の悩みなどは、支援ミーティングで共有して解決できた。利用者以外の悩みなどその都度個々で対応した。

3 研修計画

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	2月	感染予防対策施設 訪問研修	6名			
法人研修	4月	新年度研修	3	2月	主任等研修	1
法人研修	11月	ケース検討会	1			
施設外研修	7月	接遇マナー研修	1	9月	高齢者転倒予防研修	1
	11月	高齢者施設の感染対策	1			
ZOOM研修	8月	介護職のための医学の 基礎知識	1	9月	セルフリーダーシップの ススめ	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
随時	自主短期宿泊制度	毎月平均2名～3名利用
12月	地域防災訓練の集合場所として駐車場の提供	約60名の地域の親子が参集
年3回	相良小学校の資源回収に協力	段ボール等をまとめ車庫に保管

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月1回	相寿園だよりを発行し、家族や関係機関に発送	約100部

G 苦情とその対応に関する報告

2024年度1件：虐待で保護している利用者の通帳を銀行ATMに忘れてしまった。
身元引受人から受電。銀行員から通帳問合せあり。忘れたことを事務員が
気づく身元引受人より、身元が判ってしまったどうする？通帳を悪用され
たどうする？と叱責を受けた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	89	ヒヤリ	9	虐待	0	身体拘束	4
----	----	-----	---	----	---	------	---

※身体拘束は、コロナ感染・インフルエンザ感染拡大防止によるもの
感染された利用者の隔離困難ケース

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- ・防災訓練は、毎月1回(地震想定・火災想定・夜間想定)実施できた。
陽圧ユニット操作方法確認1回・設備関係の業者の点検時期に併せての訓練1回
も実施できた。
- ・AEDの操作方法を、訓練後ユーチューブで確認した。
来年度、AED操作研修の実施を検討していきたい。

J 環境整備に関する計画（100万円以上の修繕や改装など）

- ・なし
- 2026年度、大規模修繕(雨漏り対策・個室修繕)実施予定。

K 収支、並びに、借入金返済計画**1 収支報告（事業活動）**

科目	2024年決算	2023年決算	増減
サービス活動収益計	109,583,405	111,765,136	-2,181,731
サービス活動費用計	112,542,845	112,455,120	87,725
経常増減差額	-2,674,185	-313,000	-2,361,185
特別増減差額	-1	15,400	15,401
当期活動増減差額	-2,674,186	-297,600	-2,376,586

※サービス活動収益の内、寄付金収益（54,800円）

2 借入金償還報告

契約年月日 利率 期間 金融機関 借入額 償還額 残額 なし

L 主務官庁との関連

現時点では特に変化なし

M 実習生やボランティアに関する見込みや計画

- ・実習生：なし
- ・ボランティア…①毎年4月に牧之原市人権擁護委員会のメンバーがひまわりの種の
- ・相良高校インターンシップ…今年度も男子生徒1名を受け入れた。
来年度要請あれば、受け入れていく。

N その他

2024年度は、県の指導監査あり。改善指導事項及び助言指導事項に対する
是正・改善計画提出を行なった。

利用者退所数

逝去による退所者：5名(入院先：3名 施設で急変・搬送先：2名)

施設移動による退所者：3名 措置解除による退所者(窃盗・留置)：1名

※施設で急変・搬送されたケースは、2025年1月インフルエンザクラスター
になった時期。

インフルエンザクラスター後から、利用者のADL低下が顕著。転倒報告も
多かった。

コロナクラスター2024年7月 利用者10名職員2名

インフルエンザクラスター2025年1月 利用者25名職員8名

2024（令和6）年度 事業報告

通所介護
介護予防・日常生活支援総合事業
デイサービスセンター真菜

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標について

利用者、家族の思いに寄り添い、送迎時に家族への声掛けを増やし、利用時の様子で特に良かったことや感謝を伝えた。

2 事業報告

- (1) LIFE はフィードバックの活用を開始した。
- (2) 送迎時にご家族との対話を増やし、良い報告ができるように心掛けた。
- (3) 5S 活動は3回程行った。職員同士の言葉づかいや、感謝を伝えるように心掛けた。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

職員会議で理事長から送っていただいた聖書について学ぶ機会を設けた。ミニ研修を通して自分の支援を見直す機会を設けた。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

- (1) 毎月ミニ研修を計画。グループワークも行い、職員同士が意見交換できる環境作りをした。
- (2) 毎月の防災訓練を通して課題を見つけて検討し、必要な準備を行った。BCP の見直しまで至っていない。
- (3) 大きな行事や、活動の様子は SNS で発信ができた。真菜通信や真菜だよりもご家族、ケアマネージャー向けに発信できた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	登録者数	増減	延利用者数	開所日数	一日平均	利用率
35	74	+7	8,009	308	26.0	74.3%

区分による利用者数

(実人数)

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
3	7	9	22	8	11	12	2

(延べ人数)

事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
154	260	650	3,249	1,001	1,537	936	222

2 職員状況

	施設長	生活相談員	介護員	看護師	事務員	その他	合計
実人数	1	1	10	3	1	3	19
常勤換算	1.0	1.2	7.3	2.1	0.5	0.9	13.0
計画との差	0	0	0.2	0	0	0	0.2

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	751	最高残業時間	124.5	有給義務取得率	100%	有給休暇取得率	82%
-------	-----	--------	-------	---------	------	---------	-----

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	15 名	12/3	法人防災委員会	1 名
毎月	くもん月次検討会	8 名	5/22・11/25	法人事故防止委員会	1 名
毎月	DS 会議	2 名	毎月	業務改善委員会	5 名
毎月	高齢者部会	1 名	偶数月	ケース検討会	4 名
毎月	施設管理者会	1 名	3 回	安全対策委員会	2 名
4/23・10/25	法人苦情解決委員会	2 名	奇数月	給食会議	1 名

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 日課については、歩行運動や下肢筋力の維持に力を入れた。手芸や書道等、利用者のやりたいことができるよう支援した。全国書画展覧会へ書道の作品を出展したり、秋に真菜芸術祭開催し表彰を行った。ご利用者、ご家族に大変喜ばれ、意欲向上に繋がった。
- 2 行事については、利用者の希望を叶える外出を行った。静岡空港で曾孫にプレゼントを購入したり、お茶の郷ミュージアムでは、展示物を興味深くご覧になられた。本が好きなご利用者とひまわり号や、いろ葉（図書館）へ出かけた。手作り昼食やおやつ作りでは、ご利用者の得意な料理やおやつと一緒に作り、「できる！」自信に繋がった。男性利用者も活躍の場が増え、たくさんの感謝を伝えることができた。ケアセンター花ももや聖ルカホームと夏祭りや運動会、カラオケ大会や餅つきで交流ができた。鯛焼きがとても好評だった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全員	理事長から送付される聖句を輪読した。

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。
 - 1 時差出勤の職員に改めて申し送りを行い、情報共有を図った。職員会議のグループワークでは、活発な意見交換や自身の振り返りができるように雰囲気づくりをした。
 - 2 朝礼・終礼・職員会議で感謝をできるだけ伝えるようにした。レク活動を通して職員同士がお互いに協力し合える環境となるよう工夫した。3 月には年間のレク活動の投票を行い、行事担当者の表彰も引き続き行った。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/25	オムツの上手な当て方	15	10/24	自立支援について	15
	5/25	移動・移乗について	15	11/14	DS 合同感染症研修・シミュレーション	15
	6/20	衣服の着脱について	15	12/19	虐待・不適切ケアを防ぐ	14
	8/22	不適切なケアについて	15	2/13	DS 合同災害研修・シミュレーション	15
	9/19	虐待・身体拘束について	14	2/7	送迎時の防災研修	2
法人研修	4/20	新年度研修	4	11/19	ケース検討研修会	1
	7/29	防災研修	2	2/19	子育て介護・仕事の両立支援	1
	8/6	外岡先生虐待研修	3	2/28	主任等研修	1
	11/18	ケース検討研修会	1	3/24	法人防災研修	1
施設外研修	5/14	BCP セミナー	1	11/5	くもんマスター指定研修会	2
	7/4	虐待研修（事業所連絡会）	6	11/7	介護記録の書き方講座	1
	8/27	静岡県感染症対応訓練研修	1	11/21	安全運転管理者法定講習会	1
	9/11	〃（施設学習資料活用研修）	1	12/11	生産性向上取組セミナー	1
	9/30	〃（管理者向け研修）	1	12/20	認知症介護講座	2
	10/16	ほんとうの自立支援とは	2	3/5	くもんマスター研修	4

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
4 月～	サロンの送迎	職員 1 名
5/18	平井農園へジャガイモ収穫の手伝い	職員 2 名 利用者 3 名

9/11	生活困窮者のための食糧支援 法人本部へ届ける	職員 1 名
9/26・27	オリーブ摘み	職員 2 名 利用者 5 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
毎月	真菜だより発行	利用者家族・ケアマネ
3/1	介護者のつどい	利用者家族 8 名
3/20	満足度調査・加算変更のお知らせ	利用者家族・ケアマネ

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
12/11	利用者家族	送迎時の利用者宅の玄関施錠忘れに	介護職員

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	52	ヒヤリ	67	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

事故：車輛事故 5 件 転倒・尻もち 8 件 労災 1 件（犬に噛まれた）

※行政へ報告した事故 4 件（救急車要請 1 件、転倒→受診 1 件、受診 2 件）

ヒヤリ：独歩で歩いていた、荷物の返し忘れ・間違え、椅子から滑り落ちそうになる）

前年度より、事故が 8 件増え、ヒヤリが 8 件減少。要因としては、職員の確認不足や確認を怠ったことによる事故やヒヤリが 47 件、次いで見守り不足が 35 件あった。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	内 容	参加者
毎月	施設防災訓練	職員・利用者
11/14	法人全体防災訓練	職員・利用者 34 名
2/13	DS 合同 災害シミュレーション	職員 14 名

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）

9/26 防虫点検 7/22,2/17 給茶機点検 2/25 カーテンクリーニング 6/18 乾燥機点検
3/10 消防設備点検 10/31 畑整備 11/12 ウッドデッキ塗装 3/9 床清掃

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	76,056,137	70,464,544	5,591,593
サービス活動費用計	72,260,857	69,685,503	2,575,354
経常増減差額	3,815,510	816,621	2,998,889
特別増減差額		△44,000	44,000
当期活動増減差額	3,815,510	772,621	3,042,889

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ ）

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	借入機関	借入額	償還額	残額
2022/3		20 年	法人本部	26,000,000	4,000,000	22,000,000

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

3/10 通所介護処遇改善加算ⅡからⅠへ変更の届出を行った。

M 実習生やボランティアに関する報告

オープンカンパニー 8/15 相良高校 3 名 8/22 榛原高校 8 名

ボランティア 霊氣ヒーリング 柳本明日香様 4 回 あった歌会様 1 回

あざみ会様 2 回 田代和稔様 1 回 村松淑乃様・廣田春美様 3 回

N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)

退職者数	3月末	1名	累計数： 2名	離職率 0.12%
就職者数	3月末	1名	累計数： 1名	

- 1 創立 26 年
- 2 11/10、3/3 牧之原市介護者のつどいを開催した。
- 3 新型コロナウイルス感染 利用者 9 名 職員 7 名 感染した。
- 4 車両の購入は次年度検討する。
- 5 送迎車乗車時は、体調確認とアルコール検知器でチェックを行った。
- 6 ICT 補助金を活用してタブレットを導入した。ロボット補助金を活用して入浴支援リフトを導入した。

2024（令和6）年度 事業報告

認知症対応型通所介護 デイサービスセンターすずらん

A 2024 度の目標と実践に関する振り返り

1 事業所の 2024 年度事業計画に関する報告（総括）

今年度は他施設等に入所した方等が多く 1 年で 14 名ほどの終了者があった。新規で入ってもすぐに入所や入院となってしまう、つながらないケースもあった為、稼働率は低下した。また、認知症の症状が急に進行するケースが多くみられ、家族の介護負担を考えると入所の検討もやむを得ない。すずらんとしては家族をギリギリの所まで支えたと思われる。職員には、介護の研修を毎月実施はしたものの、研修に参加できない職員へのフォローがあまりできなかった。時間外での研修にも限りがあるため、工夫が必要と感じました。

2 「理念に基づくサービス提供」に関連した活動報告

理事長からの聖句とメッセージを皆で共有し、共に生きるの意味を皆で考える時間をもうけることができ、ご利用者に対しても、認知症だからといって差別することなく対応することができた。

3 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告

デイサービスセンター真菜との合同研修以外にも障害者施設とも研修をすることができ、それぞれの課題を共有することができた。地域サロンへの出張レクでは、運営している方からの相談をうけることもあった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

定員	契約者数	増減	開所日数	延利用者数	一日平均	利用率
12	15	-6	307	2692	8.7	73.0%
要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0	0	10	2	3	1	0

2 職員状況

	施設長	認知デイ 管理者	相談員	介護員	看護師	運転手	事務員	合計
実人数	1	(1)	1	6	1	0	1	10
常勤換算	0.1	(0.1)	1.0	4.92	0.025	0	0.2	6.245

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	183 時間 30 分	最高残業時間	100 時間 30 分	有給休暇取得率	68.9%
-------	-------------	--------	-------------	---------	-------

職員の体調不良により、残業が増えている。

体調不良による有給休暇と産休に入る前の有休消化により、前年度より 20%増えている。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
年 12 回	恵の丘職員会議	1 名	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
年 12 回	経営運営会議	1 名	恵みの丘施設全体の運営について検討
年 10 回	すずらんミーティング	全員	業務等、利用者状況の共有、各委員会報告、研修
年 12 回	DS 真菜との合同会議	米山	通所の BCP 見直し/感染症対策の検討・訓練/介護技術/事故の分析等
年 2 回	法) 事故防止委員会	米山 片山	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他

年 2 回	法) 防災委員会	米山	防災研修会、各事業所の BCP の共有等
年 2 回	法) 虐待防止委員会	米山	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策
年 2 回	法) 苦情解決委員会	片山	苦情解決経緯・対応等の検討、第 3 者委員講評
年 2 回	感染対策等委員会	米山	感染症及び食中毒まん延防止のための対策検討等
年 12 回	防災メンテ委員会	片山	防災訓練の計画、実施 施設設備のメンテナンス 等
年 2 回	安全対策等委員会	米山	介護事故・虐待防止、身体拘束廃止の対策の検討
年 4 回	食事委員会	1 名	献立・形態の検討、要望等、
年 12 回	レク委員会	1 名	毎月のレク報告、レク打ち合わせ等
年 2 回	運営推進会議	1 名	施設運営実績の報告、意見交換、

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

食事作りは献立から考えていただく、家庭によって材料や順番も違い、昔を思い出してもらいきっかけとなった。筋力低下のある方だけでなく、全利用者に対し運動する機会を増やした。体操の時間を増やし、筋力維持につとめた。ご家族からも歩行が安定した等のお声をいただいた。認知症の症状が進行している方には、言葉の理解が難しいこともあり、参加することが難しかった。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認知式するための計画

日付	プログラム名	対象者	内 容
毎月	理念の継承	全員	ミーティングでサービス提供指針の読み合せ 本日と聖句の読み合わせ
		1～2 名	本日と聖句等を黙読し、グループで感想を述べ発表

2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して

それぞれの得意分野をいかせる場を提供した。レクが得意な人、手芸が得意な人、整理整頓の得意な人、それぞれの職員がどこかで主役になれる時間を増やした。

3 研修報告

種別	日付	内 容				人数
施設内研修	毎月	感染症・認知症・身体拘束廃止・虐待・リスク・個人情報・BCP シミュレーション 等				1～2
DS 内研修	年 10 回	業務改善・認知症・アセスメント・不適切ケア 感染症・身体拘束虐待・防災訓練シミュレーション・ハラスメント・個人情報保護・倫理及び法令遵守 等				全員
法人研修	4/22	新年度研修	1	11/27	交通安全講習会	1
	11/18・19	事例検討会	2	12/3	防災研修	1
				2/19	子育て、介護と仕事の両立支援の取り組み	1
真菜 合同研修	年 2 回	自然災害(シミュレーション) 感染症研修(シミュレーション)				全員
施設外研修	6/3	介護事故の再発防止策検討				1
	7/4	虐待防止研修				5
	10/2	高齢者虐待対応力				2
	11/10	介護事業所の生産性向上の取り組み				1

	3 月	身体拘束フォーラム	1
	2 月	性の多様性	1

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
年 1 回	生活困窮者への食糧支援	全員
年 2 回	坂部ふれあいサロンにて遊びりテーション等	2 名
11/16	なぞ解きカイゴ(牧之原市)	1 名

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
年 5 回	すずらん便りの発行	全利用者・家族
年 2 回	運営推進会議(書面会議含む)	

G 苦情とその対応に関する報告

苦情なし

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告 (交通事故も別に記載)

事故	8	ヒヤリ	17	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	----	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

日付	項目	内 容	参加者
毎月	防災訓練	避難訓練、災害時食事提供訓練、消火訓練	職員全員対象
8/15 9/19	AED 訓練	AED を使った訓練を行った	職員 4 名 消防署職員
10/24	消防署立会防災訓練	防災訓練の立会い、消火器使用方法の説明、避難訓練に関する助言をいただいた。	職員全員対象 消防署職員
11/14	法人防災訓練	停電、断水想定、防災食の提供を行う	職員全員対象

J 環境整備 (100 万円以上の修繕や改装など)

送迎車購入(タント) 8 月 1,895,820 円

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支状況 (事業活動)

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	34,252,196	38,643,816	△4,391,620
サービス活動費用計	32,467,622	31,542,566	925,056
経常増減差額	1,784,594	7,099,950	△5,315,356
特別増減差額	△940,000	△6,070,000	5,130,000
当期活動増減差額	844,594	1,029,950	△185,356

※サービス活動収益の内、寄付金収益 (なし)

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告(実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他)

7/2 牧之原市による運営指導あり 主な指摘事項なし

M 実習生やボランティアに関する報告

ボランティア 1 年を通して、週 1～2 回程度 三浦孝様
6 月 さくら会

職業体験 7月 恵泉女学院
職業体験 9月 職業体験 榛原中学生 4名
N その他 (監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等)
なし

2024（令和6）年度 事業報告

訪問介護事業
介護予防・日常生活支援総合事業
ライフサポートさふらん

A 2024年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標 「ご利用者・ご家族・職員に笑顔の花を咲かせたい」
 - ➡ サービス提供中の利用者とのコミュニケーションを大切にしました。利用者それぞれの状況や課題など職員で情報共有する事ができました。ご家族やケアマネジャーとの情報共有を行うことで、適切なケアに繋げることができた。
- 2 事業計画
 - (1) 地域で暮らせるための支援 ➡ サービス依頼には、できる限りのシフト調整などをおこないサービス提供に努めました。在宅で最期を過ごす方へのケアの依頼が多く、心身ともに大変ではあったが要望などをしっかりと把握し、寄り添える介護を実践できました。
 - (2) 職員の育成 ➡ 研修への参加や、職員ミーティングでの研修提供をおこなうことで学びの機会を提供できました。
 - (3) 稼働率UP ➡ ケアの需要と供給のバランスが難しく、現在のヘルパー数では提供数を増やすことができませんでした。
 - (4) 職員がいきいきと働ける事業所づくり ➡ 日々のケア前後の連絡や、職員ミーティングで一人ひとりの思いを伝え合うことができた。突発的な出来事にも職員同士が協力しあえました。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行いました
 - (2) 一人ひとりがかけがえのない存在である事を認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。 ➡ 会議等で「わたしたちの願い」「サービス提供指針」の唱和を行いました。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画
 - (1) 職員育成 ➡ 研修への参加や、職員ミーティングでの研修提供をおこなうことで学びの機会を提供できました。
 - (2) 防災の充実 ➡ 災害マニュアルやBCPに沿った対応が出来るようにし、訓練や研修の反省からより実践的なものとなるよう検討を続ける。危険個所の確認などを行いました。
 - (3) 情報発信 ➡ 利用者に関する報告をケアマネジャーや家族と行うことができました。さふらんの事業活動などの情報発信は不十分であったと感じました。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

介 護			総合事業		自費	合計
身 体	身体生活	生 活	訪問型	緩和型		
3,741	1,082	57	1,670	248	85	6,883

2 職員状況

役職・職務	実人員	常勤換算	備 考
施設長	1名	0.15	聖ルカホーム管理者兼務

ホームヘルパー	11 名	5. 19	正職員 2 名、パート 1 名 登録ヘルパー 9 名（他事業所兼務 2 名、 育休取得者 1 名）
事務員	1 名	0. 275	聖ルカホーム事務兼務
合 計	13	5. 615	

3 残業、有休休暇取得状況

総残業時間	562 時間 30 分	有給休暇取得率	75. 98%
-------	-------------	---------	---------

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
毎 月	経営会議	施設長・サービス提供責任者・事務主任	施設運営全般、職員教育、課題解決等
毎 月	職員ミーティング	全 員	ヒヤリ、事故、苦情報告 ご利用者状況の共有 研修報告、事務連絡、研修会

C 利用者の喜びのために工夫したこと

- ① 利用者の趣味や興味のある事を事前に情報収集し、訪問時の会話を楽しんでいただきました
- ② ターミナル期のご利用者へのケアを、家族とともに行うことができました

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
各会議	理念の継承	全 員	サービス提供指針の読み合わせ
各会議	職場の倫理	全 員	服務心得の読み合わせ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

職員ミーティングでは、情報の共有や気づきなどスタッフが発言しやすいよう配慮するとともに、開催時間など昼間や夜間帯など多くのスタッフが参加できるよう工夫しました。また、行政やケアマネジャーからケアへの良い評価をいただいた際にはミーティングにて伝えヘルパーのモチベーションアップにつなげました。

3 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	4/24	訪問介護とは	10	6/24	脱水症について	8
	7/22. 25	感染症、食中毒	10	10/22. 24	虐待防止 身体拘束廃止	12
	11 月	カスタマーハラスメント	8	9/27	事故防止	11
	その他、オンライン研修を受講					
法人研修	4/1	新人初エンゲージ	1	4/20	新年度研修	1
	8/6	虐待防止、身体拘束廃止	1			
施設外研修	7 月	在宅系（訪問）事業所における BCP 検証	2	8 月	報酬改定説明会	2
	9 月	苦情対応	2	10 月	口腔ケア	2

	11 月	介護保険サービス提供事業者集団指導(県)	2	12 月	訪問介護計画作成とモニタリングのポイント	2
	2/25	在宅の看取り	1	3/14	栄養ケア	1
	3 月	介護保険サービス提供事業者集団指導(市)	1			
	研修参加者は会議等で報告を行い全職員で共有					

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

- ①介護保険サービス以外のサービスを実施
- ②社会福祉法人減免
- ③吉田町介護予防のための地域ケア個別会議へ職員の派遣

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
10 月	ご家族アンケートの実施	ご利用者及びご家族

G 苦情とその対応に関する報告

日付	誰から	内 容	対応者
1/14	利用者家族	訪問後ヘルパーがコロナ感染していたことが判明した。具合が悪い事を隠して訪問したのではないか。	サービス提供責任者

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	28	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	---	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

ご利用者宅の自然災害などの予想状況を調査し、訪問時に災害があった場合のヘルパーの取るべき行動について話し合いを行いました。

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	27,562,327	27,663,554	△101,227
サービス活動費用計	27,615,682	28,393,397	△777,715
経常増減差額	△212,860	△856,416	643,556
特別増減差額	39,999	0	39,999
当期活動増減差額	△172,861	△856,416	683,555

※サービス活動収益の内、寄付金収益（ 0 円 ）

2 借入金償還報告

契約年月日	利率	期間	金融機関	借入額	償還額	残額
2014. 10. 7	0.851	10 年	静岡銀行	5,000,000	1,635,900	3,364,100
2014. 10. 7	1.1	30 年	島田掛川信用金庫	22,500,000	6,865,068	15,634,932

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査等の報告、許可申請その他の報告）

2025 年 1 月 31 日 静岡県及び牧之原市により運営指導

2025 年 4 月 16 日 運営指導結果・・・指導事項なし、助言事項なし

M 実習生やボランティアに関する報告

なし

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

なし

2024（令和6）年度 事業報告

居宅介護支援事業所 シャローム

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

- 1 事業所の目標
 - ・利用者の人権を擁護しつつ、これまでの人生や価値観を大切に、望む暮らしが営めるよう利用者本位の立場からの支援を心掛けた。
- 2 事業計画
 - ・利用者の価値観や人生観を大切に、思いを傾聴するだけでなく受容し支援を行った。
 - ・制度について丁寧な説明を心掛け、場合によっては資料などの活用も工夫した。
- 3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画
 - ・毎月法人理念を示唆してくれる書物の読み合せ、意見交換等で理念の浸透を図った。
 - ・利用者に対して理念に基づくケアマネジメントの提供を心掛けた。
 - ・地域共生を意識し、地域との繋がりを深められるような場に積極的に出向いた。
- 4 「法人の当年度重点計画」に関連した活動報告
 - ・専門的知識・技術向上に繋がるよう研修や勉強会、ケース検討を実践した。
 - ・防災に関する意識を高め、研修や訓練等に積極的に参加したり、運営基準で求められている研修や訓練、重要事項等の情報の公表を実践できた。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

2025.3月末現在

定員	契約者数	昨年比	開所日数	延利用者数	月平均	年間利用率
67	63.5	+14	258	659.5	55	82%
総合事業	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0	7	21	12	8	14	3

※介護請求常勤換算 1.7 要支援1人=0.5とする

・今年度新規契約35件、御逝去等で終了21件、区分切替4件であった。

2 職員状況

	施設長	主任介護支援専門員	介護支援専門員	事務員	合計
実人数	1	1	1	1	4
常勤換算	0.1	0.9	0.7	0.05	1.75

※施設長 兼 主任介護支援専門員 1名

・主任介護支援専門員常勤換算0.9だが、介護請求常勤換算の1.0で稼働している。

3 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	29時間 分	最高残業時間	29時間 分	有給休暇取得率	25%
-------	--------	--------	--------	---------	-----

・リフレッシュ休暇として有給休暇を有効的に活用することができなかった。

4 職員会議、委員会、外部委員会開催状況

開催日	種類	参加者	内 容
月1回	経営運営会議	栗林	恵の丘3施設全体の運営について検討
月1回	恵の丘職員会議	全員	各事業所・部門からの報告、業務改善提案、研修
年2回	感染対策委員会	栗林	感染症の予防・まん延防止のための対策を検討
年2回	虐待防止委員会	栗林	組織・指針の整備、研修、体制整備、防止策等
月1回	市)主任ケアマネ会議	栗林	ケアマネ育成・資質向上のための研修企画・講師
年1回	市)ケアプラン点検	栗林内藤	ケアプラン、地域課題の検証・事例提供・助言等
年1回	市)介護予防ケアプラン会議	栗林内藤	ケアプラン、地域課題の検証・事例提供・助言等
月1回	高齢者事業部会	栗林	事業報告、協議事項検討、等
月1回	施設管理者会	栗林	法人・事業所間の連絡、協議事項検討、等
年2回	法)事故防止委員会	栗林	事故集計報告、各施設の取組、グループ事例検討他
年1回	法)防災委員会	栗林	防災研修会、各事業所のBCPの共有等
年2回	法)虐待防止委員会	栗林	予防の為の取組報告、事例の報告・今後の対策、
年2回	法)苦情解決委員会	内藤	苦情事例の解決経緯・対応等検討、第3者委員講評

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- ・利用者の思いを傾聴し受容する事で、その方が望む暮らしが実現できるよう支援を実践。
何年も閉じこもりになっていた方が社会と繋がる事ができたり、仕事ができなくあきらめかけていた方にできる事を一緒に考え再び仕事に参加できるようになるなど、思いが達成できたと喜んで頂けた笑顔を見る事ができた。また、利用者の喜びが、職員の喜びや成長に繋がり、理念の実践に繋がっていると実感できた。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った。

日付	プログラム名	対象者	内 容
月 1 回	理念の継承	全員	法人理念を示唆する書物の読み合わせとGW
年 1 回	法) 事例検討会	栗林	ケースの事例検討
年 2 回	主マネ事例検討会	栗林	スーパービジョンを目的とした事例検討
年 6 日間	専門研修 I	内藤	ケアマネ法定研修

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った。

- (1) 居宅会議の時間はとっていないが、研修や委員会の報告、法令確認、各サービスの情報共有、お互いのケースについての状況把握等を常に報告・相談しながら業務にあたった。特にケース検討については急を要する場合もあるため、速やかに対応策を話し合い、支援を提供した。
- (2) 昼食時には仕事と休憩の切替ができるよう、日頃の楽しみ事などの話をするように心掛けた。1 日だけだったが、少し豪華なお弁当でお互いを労う時間が持てた。

- 3 研修報告

種別	日付	内 容				人数
施設内研修	年12回	感染症・認知症・身体拘束廃止、虐待、リスク、個人情報等				2
法人研修	4/20	新年度研修	1	11/27	交通安全講習会	1
	4/22	法人新人管理者研修	1	1/15	予算編成に関する研修	1
	5/16	新年度研修基調講演視聴	2	1/15	島田市福祉計画を学ぶ	1
	11/19	ケース検討研修会	1	2/19	小山労務士研修	
施設外研修	5/18	適切なマネジメント手法	1	11/12	主任ケアマネ事例検討会	1
	6/18～	介護支援専門員法定研修 I (8/16 まで全 6 日間)	1	12/7	県ケアマネ協会災害支援リーダー研修	1
	7/17	認知症と運転免許証	1	2/7	重層的支援体制整備事業研修	1
	7/24	事例検討会とSVを深める	1	2/7	高齢者の栄養課題に関する研修	1
	7/24	BCPの訓練と研修・徹底説明	1	2/21	居宅介護支援のための経営改善セミナー	1
	8/15	救急救命法	2	2/24	要配慮者避難確保事業取組報告会	2
	8/28	個別避難計画に係る福祉専門職への理解啓発研修	2	2/25	牧之原市在宅看取りにかかわる情報共有会議	1
	9/5.6	自立支援型ケアプランセミナー	2	2/28	牧之原市集団指導	2
	9/20	災害時対応/障害サービスと介護保険サービスの福祉用具の利用	2	3/6	管理薬剤師に聞く・薬に関するQA	2
	9/27	認知症のある方の薬の管理と連携	2	3/13	高齢者虐待対応研修	2
	10/2	高齢者虐待対応研修	2			

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
月 1 回	地域課題の検討・取組（市・主任ケアマネ連絡会後）	栗林
7/17	相良地区民生委員との事例検討会	栗林・内藤
9/27	サテライト型在宅介護連携・薬剤師との交流	栗林・内藤
10/18	榛原地区民生委員との災害時対応勉強会	栗林・内藤
11/16	県) 介護のしごと体験事業・ナゾときカイゴに参加	栗林
12/11	牧之原市医療介護連携、基幹病院との情報交換会	栗林・内藤

年 2 回	坂部ふれあいサロンにて遊ビリテーション	栗林・内藤
年 1 回	生活困窮者への食糧支援	栗林・内藤

- ・牧之原市主任ケアマネ連絡会にて地域課題を検討、利便性向上・改善を実施した。
- ・民生委員、地域住民等の支援者や配食サービス、移動スーパーなどインフォーマルサポーターとして支援頂けるよう、積極的にコミュニケーションを図り、関係構築に努めた。

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

日付	内 容	参加者
月 1 回	全利用者宅訪問（状況に応じ月 1 回以上）	栗林・内藤

- ・月 1 回のモニタリング訪問以外、サービス利用に関する調整、入退院時の調整、介護における相談や助言等を電話対応だけでなく、状況に応じて訪問し対応している。

G 苦情とその対応に関する報告

- ・定期的な委員会で得た事例や情報等を事業所内でも検討し共有。サービスの質や信頼性向上に努めている。
- ・平時より傾聴と受容を心掛け、本人や家族、事業所等との良好な関係構築に努めた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待事例、身体拘束事例等の報告（交通事故も別に記載）

事故	0	ヒヤリ	0	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

- ・11/27 交通安全講習会に参加し、交通事故がないように努めている。
- ・定期的な委員会で得た事例や情報を事業所内でも検討し共有。類似事故やヒヤリが発生しないよう努めている。
- ・虐待防止や身体拘束廃止に関する研修で理解を深めたり、風通しの良い職場環境で常に相談しあうようにしている。

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- (1) 恵みの丘事業所として可能な限り防災訓練に参加。救急救命法訓練も実施した。
- (2) 法人防災訓練、研修に参加し、BCP に添った訓練や確認ができた。
県ケアマネ協会災害支援リーダーとしての研修で能登半島地震の実際、牧之原市要配慮者避難確保事業として、個別避難計画についての理解を深めた。
- (3) 平時は災害用情報シートの作成までとなっていたが、台風 10 号に伴う大雨による土砂災害警戒情報発令を受け、該当地区の利用者状況を確認した。

J 環境整備に関する報告（100 万円以上の修繕や改装など）

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	7,932,88.	6,358,007	1,574,873
サービス活動費用計	10,485,347	10,306,634	178,713
経常増減差額	△2,552,467	△3,908,627	1,356,160
特別増減差額	2,366,089	2,097,000	269,089
当期活動増減差額	△186,378	△1,811,627	△1,625,249

※サービス活動収益の内、寄付金収益（なし）

- ・今年度目標稼働率 80%に設定。4 月は 71%からのスタートだったが、3 月末には 93%となり、平均して 82%の稼働であった。

2 借入金償還報告

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や、指導監査等の報告、許可申請、その他）

- ・令和 5 年度特定事業所集中減算に関する届出書（前期・後期）を作成。80%超サービス事業所はなく、減算なし。

M 実習生やボランティアに関する報告

- ・ケアマネジメントにおいて、地域のボランティアとも連携しインフォーマルな支援と位置付けて支援した。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- ・監事監査指摘事項なし。請求業務に関する内部監査にて指摘事項なし。

2024（令和6）年度 事業報告

地域包括支援センター
牧之原市地域包括支援センター オリーブ

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

1 目標

- (1) 職員個々がそれぞれの専門性を活かし、質の高い支援を提供できる
⇒ 大幅な人事異動により、所長をはじめ新任の職員（相談員）が6割を占める結果となり日々の業務をこなすことに追われ、質の確保までは至らなかった。
- (2) 職員が自己、他者を理解、肯定できる
⇒ ケースワークによる高齢者やその家族の理解をはじめ、各種の研修による自己の振り返り等を実施してきたが、まだ十分とは言えない。

2 事業報告

- (1) 職員個々の専門性を深めるとともに、それを利用者や他の職員に発信していく
⇒ 包括支援センター職員を対象にした研修には積極的に参加し、職員会議で研修内容を共有した。
- (2) 利用者支援の振り返りカンファレンスを行い、それぞれが行っている支援内容のよかった点や改善点を共有し次に繋げる。
⇒ まとまった時間を確保してカンファレンスを行うことはできなかったが、年度の後半からは、勤務時間の中でプランナー同志、三職種同士が情報の共有、方針の確認等を行うことができるようになった。今後は、日常的に職種を超えて事業所一体となりケース共有が期待できるまでに至っている。

3 「理念に基づくサービス提供」に関連した計画

- (1) 職員が法人理念を深く理解し実践できるよう、学びの機会を設ける
⇒ 職員会議において「理念」「行動指針」「わたしたちの願い」の読み合せをした。
- (2) 一人ひとりがかけがえのない存在であることを認識し、尊厳ある対応ができるよう職員育成を行う。
⇒ 厳しい条件のもとにある具体的なケースを通して確認をしてきた。「かけがえのない存在」であるにもかかわらず、独居で貧困にあえぎ、しかも人を寄せ付けない（支援を拒否する）高齢者に対して、「尊厳ある対応」ができていたのか振り返りを行う。

4 「法人の当年度重点計画」に関連した計画

- (1) 職員の教育計画を作成する
⇒ 職員の必要に応じた研修計画を立案し、それに基づき研修に参加した。
- (2) 現在のBCPを職員間で周知し、より実践的な計画となるよう更新していく。
⇒ 三包括合同でBCPの研修が企画され参加した。また、オリーブ独自で机上訓練を実施。防災関係の備蓄品の確認と必要に応じて補給した。
- (3) 会議や研修への積極的な参加と、法人内外に対しオリーブの活動等の発信を行う。
⇒ 決められた会議や必要な研修には積極的に参加。法人管理者会においても毎回活動報告の機会を得ている。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績（年）

	プラン請求件数	実態把握訪問（年）	介護予防啓発（年）	介護予防活動支援（年）
目標	1,738 件	320 件	20 件	20 件
実績	1,351 件	126 件	10	9
達成率	77.8%	39.3%	50%	45%

2 職員配置(2024.12)

	施設長	社会福祉士	保健師(準 ずる者)	主任ケアマネ	ケアマネ	主事	事務員	合計
実人数	1	4	1	0	2	2	1	11
常勤換算	1	3.52	1	0	0.93	2	0.47	8.92

3 残業、有給休暇取得状況

年間総残業時間	720 時間 10 分	年間個人最高 残業時間	283 時間 45 分	有休義務取得率	100%	有給休暇取得率	100%
---------	----------------	----------------	----------------	---------	------	---------	------

4 職員会議、委員会、外部委員会の開催状況

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月第3水	職員会議	全員	毎月第2水	(法)高齢者部会	1
毎月第1火	権利擁護ケースワーク	2	毎月第3水	(法)管理者会	1
毎月10日前後	主マネ連絡会	1	年2回	(法)事故防止委員会	1
年2回	策定懇話会	1	年2回	(法)苦情解決委員会	1
年2～3回	ケアマネ連絡会	2～4	年3回	(法)防災委員会	1
	事業所連絡会	2	年2回	(法)虐待防止委員会	1
第2・4水	支援センター連絡会	2			
奇数月 木	高齢者障害者連絡会	2			

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

個々の利用者に適切な自立支援のプランを作成し、サービス事業所と連携して支援した。

D 職員の喜びや成長のために実現したこと

- 1 法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

プログラム名	対象者	内 容
理念の継承	職員全員	職員会議で理念とサービス提供指針の読合せ

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記の事を行った。

暑気払い、送別会を企画し多くの職員が参加した。

- 3 研修報告

種別	内 容
法人研修	「新年度研修」「虐待・身体拘束及びBCP」「事例検討会」 「相談員研修」「労務研修」「交通安全講習会」
行政、包括 合同研修	「保健福祉関係制度研修」「虐待対応マニュアル研修」「虐待予防研修」 「成年後見制度研修」「包括支援センター初任者研修」「アセスメント 研修」「新人ケアマネ研修」「ハラスメント研修」「認知症地域支援推進員 研修」「二段階方式研修」「介護ケアプラン作成に関する研修」他
施設外研修	介護・医療連携研修

E 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

	回 数	内 容	参加者
介護予防啓発事業	年間 合計 10 回	サロン等高齢者集まり	高齢者・職員
介護予防活動支援事業	年間 合計 9 回	集いの場の活動支援	事業所・職員

F 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

- 1 毎月1回「ええあんばい」の機関誌を発行し、市内在住の高齢者から俳句の投稿を募った。作品を掲載することで自立支援促進をはかった。

G 苦情について対策（前年度を振り返って考えること）

- 1 苦情件数 4件
7/2に受付けた居宅介護支援事業所から行政を通しての苦情は、2年前の出来事ではあったが、この苦情を通して制度の基本、運用についてオリーブとして反省すべき点が明らかになったため、行政の指導を受け改善に努めた。

H 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束等の報告

事故	2件	ヒヤリ	0件	虐待	0	身体拘束	0
----	----	-----	----	----	---	------	---

I 防災関連：防災訓練や、近隣の被害状況などの報告

- 1 災害時の利用者一覧表作成（安否確認優先順位）。
- 2 法人の安否コールによる情報伝達訓練と市の伝達訓練に参加。
- 3 牧之原市総合防災訓練や法人合同防災訓練に参加。
- 4 感染症 BCP 訓練を実施。

J 環境整備に関する報告

なし

K 収支状況、並びに、借入金返済報告

- 1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	44,502,756	45,863,381	△1,360,625
サービス活動費用計	44,961,277	46,635,904	1,674,627
経常増減差額	△450,268	△355,974	△94,294
特別増減差額	0	△1	1
当期活動増減差額	△450,268	△355,975	△94,293

- 2 借入金償還計画

なし

L 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

- 1 4月に市へ包括体制の届け出をする。

M 実習生やボランティアに関する報告

- 1 受診時の送り出し支援の為にボランティアさんに依頼する。

N その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

- 1 公益的な機関として健康福祉センターさざんかに事業所がある為、公正中立性の高い事業運営に留意して事業に携わり、運営協議会に報告説明第3者評価を受けた。

2024（令和6）年度事業報告

介護予防拠点施設

コミュニティセンターぶどうの木

A 2024 年度の目標と実践に関する振り返り

- 事業所の目標について
新職員と教室を回すことはできた。外に出ていく事業に関しては半日デ이의教室もあり、常勤2名では啓発に少し出かけたのみで企画などできなかった。
- 事業報告
 - 利用者の状態変化や状況を職員間とケアマネ(包括オリーブとさんいく)とで常に情報共有したが、各包括により連携差はあった。
 - 前期は教室を円滑にまわす事が出来たが、後期は外に出ていく一般介護予防事業の企画から実施が全くできなかった。
- 「理念に基づくサービス提供」についての活動報告
毎月の職員会を利用して、サービス提供指針の「わたしたちの願い」と「人は命だけでは生きられない」と理事長からのメッセージを読み合わせ確認した
- 「法人の当年度重点計画」についての活動報告
 - 職員の育成は、高齢者対応初めての職員の育成に関してゆっくり対応してきた。
 - 機関紙・フェイスブック・インスタグラムを通して事業所の発信をしていくことに
関しては職員人数も少なくほとんどできなかった。

B 利用者と職員の状況報告

1 利用実績

種別/定員	延登録者数	昨年延登録者数	延利用者数	開所日数	一日平均	利用率
短時間デイ/6	327	(578)	1009	236	4.27	71.3
キープアップ/8	84	0	338	50	6.76	84.5
ほっとサロン/8	68	(275)	127	24	5.29	66.1

要支援区分（延べ）

一般	事業対象者	要支援1	要支援2
152	237	74	16

※短時間デイは令和7年2月から社協陽だまりに業務委託が変更したため、1月末で終了した。(1月末までの10か月間の実績)

※キープアップは今年度のみ一般の事業

2 職員状況(R5, 3月末)

	施設長	常勤専任	パート支援員	事務員	合計
実人数	1	2	(-2)	1	4
常勤換算	0.2	2.0	(-1)	0.35	2.55
計画との差	0	+1	(-2)	0	-1

3 就職者、並びに退職者数と、その氏名

就職者数	0名	氏名:	累計人数	1名
退職者数	0名	氏名:	累計人数	名
異動者	0名	氏名:	累計人数	2名

4 残業、有給休暇取得状況

総残業時間	11h	最高残業時間(個人)	3h	有休義務取得率	100%	有給休暇取得率	61.3%
-------	-----	------------	----	---------	------	---------	-------

5 職員会議、委員会、外部委員会開催状況(職員)

開催日	種類	参加者数	開催日	種類	参加者数
毎月	職員会議	4~5	隔月	法人編集委員会	1
月末/水	SC、CM会議・合同会議	1~2	年2回	法人苦情解決委員会	1
年3回	法人防災委員会	1	年2回	法人全体虐待防止委員会	1
年2回	法人事故防止委員会	1	月第3水	施設管理者会	1
月第2水	高齢者部会	1	随時	未来検討会	1

C 利用者の喜びのために工夫したこと（日課・行事・その他）

- 1 四季折々に桜・藤・つつじ・あじさいなどドライブ兼ねて花を見ながら送迎した。
- 2 月内の誕生日付近に写真付きメッセージカードを作成し渡し、みんなで祝った。
- 3 行事に沿ったレクを提供し、作品は玄関などに飾って楽しんだ。

D 職員の喜びや成長のために実践したこと

- 1 同じ目標を認識するためのプログラムとして、下記のことを行った
法人職員として、或いは、施設職員として、共通目標を認識するための計画

日付	プログラム名	人数	内 容
毎月	理念の継承と事業確認	全員	職員会議で、理念とサービス提供指針を唱和し 「人は命だけでは生きられない」の本と理事長からのメッセージを読み合わせ、感想も伝えた

- 2 楽しい職場づくり、チームワーク形成に関して、下記のことを行った
 - ① 職員の誕生日月の職員会ではコーヒータ임을設け交流を図った
 - ② 年2回の面談や要望があったらその都度面談をし、話を伺い職場内の調整を図った

E 研修報告

種別	日付	内 容	人数	日付	内 容	人数
施設内研修	10/4	感染症(熱中症・食中毒・新型コロナウイルス)	全員	7/3	防災(外岡先生ユーチューブ視聴) BCP	全員
	12/4	予防着の着脱練習		9/2	机上訓練と持ち出し品など確認	
	6/5	危機管理・事故・交通安全	全員	4/1	法令遵守・人権の尊重	全員
	8/7	安全・事故対応		5/1	(コンプライアンス)	
	5/6	AEDの説明と実施訓練		10/7	虐待研修報告と類型	
法人研修	11/6	カスハラ動画視聴		10/21	虐待動画視聴	
	4/20	新年度研修	2名	7/29	台風時の断水対応	1名
	11/18	主任等研修(吉浦先生)	2名	2/13	災害シミュレーション	1名
	2/19	労務管理研修(管理者)	1名	8/6	防災・虐待研修	1名
	6/19	牧之原市職員との検討会	1名	11/27	交通安全講習会	1名
施設外研修	10/2	市主催：虐待研修	2名	3/14	県主催：キャラバンメイト養成講座	1名
	8/14	歯科衛生士(歯の手入れ)	3名	2/25	感染症(中級)	2名

F 地域に対する公益的取組や、地域との交流に関する報告

日付	内 容	参加者
12/8	地域防災訓練に参加	職員1名
年9回	地域ポイント啓発(坂部サロン含む)実施	延べ職員10名 延べ利用者126名
毎月	婦人交通指導員による「講話」11回実施	延べ利用者58名
依頼時	地域活動組織の育成と支援(6地区へ6回)	延べ利用者69名
3/28	あじさい会のメンバーの踊りの訪問を受ける	利用者7名 職員2名 会員16名

G 家族との連携、交流、連絡などに関する報告

4半期(年4回)ぶどうの木だよりのお便りを発行した。また、短時間デイは2月から社協陽だまりデイの「はなみずき教室」に移行し、キープアップとほっとサロンの一般介護予防事業は3月末で卒業になり、送迎付きのデイサービスは今年度で終了した為、関連事項のお便りを1月初めに家族に出した。

H 苦情について対策(前年度を振り返って考えること)

1件：匿名で市役所に連絡が入る。「昨年に比べ外出の機会と出費が増えたので、昨年と同じように室内だけではだめか？また、職員が他の曜日の利用者の事を話す。自分の親も他の曜日で言われていないか」との家族からの苦情だった。

※事実確認後謝罪をしたい旨市から伝えてもらうが、謝罪も連絡もいないとの事だった。活動重視のクラスなので、外出回数は2か月に1回から3～4か月に1回にする。利用者の事を話題にした確認できなかったが、職員の守秘義務を再検討した。その後訴えなし。

I 事故、ヒヤリハット、虐待、身体拘束の報告

事故	2	ヒヤリ	1	虐待	0	身体拘束	0
----	---	-----	---	----	---	------	---

1 事故：送迎時の車両事故：2 件

①中学生の自転車との出会いがしらの接触事故 1 件。けがなどなかったが、自転車と接触している。十分注意して運転することを話し合い家族にも謝罪した。

② 利用者宅出る時、自宅庭石に車を当てた。無理しないで気を付ける。

2 ヒヤリ：1 件 レク時椅子につまずいて転倒しそうになる。椅子は片付ける

3 虐待：0 件「高齢者虐待防止法」遵守しセルフチェックを実施した。

4 身体拘束：0 件 身体拘束は虐待に該当するため、その具体例を学んだ。

J 防災関連：防災訓練や、前年を振り返っての防災訓練計画／課題の克服など

11/14：法人全体防災会議に参加

11/11～15 防災訓練実施、終了後防災食を試食し、マップ確認も実施した。

12/8：地域防災訓練に主任が参加した。

K 環境整備に関する報告（施設定期点検や 100 万円以上の修繕や改装など）

1 浄化槽保守点検と清掃：3/31 11 月に浄化槽吸い上げ故障にて市に報告 2 台中 1 台で対応。また、コンセント劣化にて煙も発生した為市に報告した。

エレベーター定期点検：7/11 10/3 自動ドア保守点検：7/9

2 修繕状況 なし

L 収支状況、並びに、借入金返済報告

1 収支報告（事業活動）

科目	2024 年度決算	2023 年度決算	増減
サービス活動収益計	13,137,653	16,711,640	△3,573,987
サービス活動費用計	13,715,978	18,552,083	△4,836,105
経常増減差額	△571,797	909,024	△1,480,821
特別増減差額	△858,276	32,591	△890,867
当期活動増減差額	△1,430,073	941,615	△2,371,688

2 借入金償還報告

なし。

1 牧之原市指定管理に関しては、市が行うことになる。牧之原市介護予防、日常生活支援総合事業に関しては 3 年間の委託を受ける。

2 通所型サービス・一般介護予防事業の単位数の変更に伴い、一般の新教室が開所するので、あしたか・市と情報を共有し、教室を充実させていく。

M 主務官庁に関連した報告（実地指導や指導監査、許可申請に関する予定など）

1 2009 年 4 月から「生きがいガーデンこにた」の指定管理を受託し 2024 年 3 月末で 15 年になる。2024 年 4 月から建物は市が管理し、事業である「牧之原市介護予防・日常生活支援総合事業」のみ受託した。期限は 3 年間

2 一般介護予防事業の介護予防普及啓発事業が新規で通所型「キープアップ事業」が令和 6 年 4 月から始まる。1 回 250 円。

3 利用料が改訂され通所型事業は全て 50 円アップとなり、定員も短時間デイは 15 人→6 人（1 回）一般介護予防通所型は 15 人→8 人（1 回）となる

4 7 月 12 日からクーリングシェルの事業所登録が始まったが利用者はなかった

N 実習生やボランティアに関する報告

実習生はなかった。踊りの慰問が 1 件。市の職員とインターンシップの学生の見学があり。

O その他（監事監査指摘事項への対応など、特に記すべきこと等）

1 送迎車の検討：キャラバンのリース契約 5 月満了で廃車にした。事業において、半日デイの教室が 2 月から社協陽だまりに移行、3 月まで協同開催し、4 月から完全移行のためセレナは 4 月より社協の契約に移した。

2 ぶどうの木の委託事業は昨年度から 3 年間の委託契約をしたが、半日の通所事業を 2 月より社協に移行したこともあり、一般の通所事業も 3 月をもって終了となる。今後の委託に関して拠点は聖ルカ、事業展開は地域に出るの事業になり、残った事業は聖ルカの委託事業になる。

2024（令和 6）年度 事業報告

付属明細書

該当なし